

# 建学の精神

世界文化に技術で貢献する

## 教育目標

していどうぎょう していきょうせい  
師弟同行、師弟共生の教育を以て、

- 広く世界に知識を求める好学心を持つ人材の育成
- 自ら学び、自ら思索し創造する人材の育成
- 自由闊達、機智縦横な人材の育成
- 善隣及び協力をつくり上げていく人材の育成
- 高度な専門知識と豊かな教養を持つ、学理及び技術に優秀な人材の育成

を目指す。

# 目次

第 1 章	はじめに	3
第 2 章	学生生活について	21
第 3 章	修学について	41
第 4 章	学部学科紹介・進級資格要件及び卒業資格要件・教育課程表・ カリキュラムツリー・教員研究室	57
第 5 章	各学科で取得可能な資格について	121
第 6 章	教育職員免許について	135
第 7 章	施設の利用について	145
第 8 章	就職について	153
第 9 章	諸規程について	157
第 10 章	キャンパスマップ	177

# 千葉工業大学の沿革

- 1942年5月 東京府南多摩郡町田町（現：東京都町田市）に興亜工業大学の名称で創立（創立記念日：5月15日）
- 1946年3月 千葉県君津郡君津町（現：千葉県君津市）に移転。千葉工業大学と改称。
- 1950年2月 新制千葉工業大学（工学部第一部及び工学部第二部 機械工学科，金属工学科，工業経営学科）設置と同時に千葉県千葉郡津田沼町（現：千葉県習志野市）に移転。
- 1953年4月 工学部第一部電気工学科を開設。
- 1955年4月 工学部第二部電気工学科を開設。
- 1961年4月 工学部第一部電子工学科，工業化学科を開設。
- 1963年4月 工学部第一部土木工学科，建築学科を開設。
- 1965年4月 大学院工学研究科金属工学専攻，工業化学専攻修士課程を開設。
- 1966年4月 工学部第一部精密機械工学科を開設。  
工学部第一部既設学科の入学定員を増加。
- 1967年3月 千種寮全棟完成。
- 1986年4月 芝園キャンパス（現：新習志野キャンパス）完成。  
工学部第一部既設学科（工業経営学科を除く）の入学定員を増加。
- 1987年4月 大学院工学研究科土木工業専攻修士課程を開設。
- 1987年5月 茜浜運動施設完成。
- 1988年4月 工学部第一部情報工学科，工業デザイン学科を開設。  
工学部第一部金属工学科，工業化学科の入学定員を減少。
- 1989年4月 大学院工学研究科金属工学専攻，工業化学専攻博士課程及び機械工学専攻，電気工学専攻，電子工学専攻，建築学専攻修士課程を開設。
- 1990年4月 工学部第二部電子工学科，建築学科，情報工学科を開設。  
工学部第二部の修業年限を5年から4年に変更。  
工学部第二部金属工学科，工業経営学科の定員を減少。  
大学院工学研究科土木工学専攻博士課程及び精密機械工学専攻修士課程を開設。
- 1991年4月 工学部第一部既設学科（金属工学科を除く）の入学定員を期間を付して増加（1999年度まで）。  
大学院工学研究科機械工学専攻，電気電子工学専攻博士課程を開設。
- 1992年4月 大学院工学研究科建築学専攻，精密機械工学専攻博士課程及び情報工学専攻，工業デザイン学専攻修士課程を開設。
- 1992年5月 千葉工業大学創立50周年。
- 1994年4月 大学院工学研究科情報工学専攻，工業デザイン学専攻博士課程を開設。
- 1995年4月 大学院工学研究科経営工学専攻修士課程を開設。
- 1995年5月 大学院工学研究科設立30周年。
- 1996年4月 大学院工学研究科機械工学専攻，金属工学専攻，工業化学専攻，土木工学専攻，建築学専攻，精密機械工学専攻，情報工学専攻，工業デザイン学専攻博士前期課程及び電気工学専攻，電子工学専攻修士課程の入学定員を増加。
- 1997年4月 工学部第一部情報ネットワーク学科，プロジェクトマネジメント学科を開設。  
工学部第一部工業経営学科，情報工学科の入学定員を減少。
- 1998年4月 大学院工学研究科経営工学専攻博士課程を開設。
- 1999年4月 工学部第一部に昼夜開講制を導入し，工学部第二部の学生募集を停止。  
工学部第一部を工学部に名称変更。

2000年4月	期間付き入学定員を2004年度まで延長。
2001年4月	工学部を改組転換し、情報科学部情報工学科、情報ネットワーク学科及び社会システム科学部経営情報科学科、プロジェクトマネジメント学科を開設。工学部工業経営学科、情報工学科、情報ネットワーク学科、プロジェクトマネジメント学科の学生募集を停止。 情報科学部、社会システム科学部の開設に伴い、期間付き入学定員の一部を恒常的定員化し、延長計画を変更。
2002年5月	千葉工業大学創立60周年。
2003年4月	工学部既設9学科を改組転換し、工学部機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科、建築都市環境学科、デザイン科学科を開設。工学部既設9学科の学生募集を停止。
2004年4月	大学院工学研究科を改組転換し、工学研究科機械サイエンス専攻、電気電子情報工学専攻、生命環境科学専攻、建築都市環境学専攻、デザイン科学専攻博士前期課程及び工学専攻博士後期課程、情報科学研究科情報科学専攻博士課程、社会システム科学研究科マネジメント工学専攻博士課程を開設。工学研究科既設専攻の学生募集を停止。
2006年3月	工学部第二部（機械工学科、金属工学科、工業経営学科、電気工学科、電子工学科、建築学科、情報工学科）を廃止。大学院工学研究科電子工学専攻、土木工学専攻、精密機械工学専攻及び工業デザイン学専攻を廃止。
2006年4月	工学部未来ロボティクス学科を開設。
2008年4月	昼夜開講制を廃止。
2009年4月	社会システム科学部 金融・経営リスク科学科を開設。 大学院工学研究科 未来ロボティクス専攻修士課程を開設。
2012年5月	千葉工業大学創立70周年。 千葉工業大学東京スカイツリータウン <sup>®</sup> キャンパス開設。
2013年4月	芝園キャンパスを新習志野キャンパスに名称変更。
2014年4月	新習志野キャンパスに学生寮（桑蓬寮、椿寮）が完成。 それに伴い、千種寮を閉寮。
2016年4月	工学部既設6学科を改組転換し、工学部 機械工学科、機械電子創成工学科、先端材料工学科、電気電子工学科、情報通信システム工学科、応用化学科、創造工学部 建築学科、都市環境工学科、デザイン科学科、先進工学部 未来ロボティクス学科、生命科学科、知能メディア工学科を開設。工学部既設6学科の学生募集を停止。 新習志野キャンパスに新体育館・新食堂棟・新学生寮が完成。
2020年4月	大学院工学研究科を改組転換し、工学研究科 機械工学専攻、機械電子創成工学専攻、先端材料工学専攻、電気電子工学専攻、情報通信システム工学専攻、応用化学専攻修士課程、創造工学研究科 建築学専攻、都市環境工学専攻、デザイン科学専攻修士課程、先進工学研究科 未来ロボティクス専攻、生命科学専攻、知能メディア工学専攻修士課程を開設。工学研究科既設6専攻の募集を停止。
2024年4月	情報科学部及び社会システム科学部を改組転換し、情報変革科学部 情報工学科、認知情報科学科、高度応用情報科学科、未来変革科学部 デジタル変革科学科、経営デザイン科学科を開設。情報科学部及び社会システム科学部既設5学科の学生募集を停止。
2025年4月	工学部に宇宙・半導体工学科を新設。同学部の機械電子創成工学科の学生募集を停止。
2026年4月	大学院デザイン&サイエンス研究科デザイン&サイエンス専攻博士前期課程及び博士後期課程を開設。

第1章

はじめに

(1) 学事日程・学期及び授業時間 ..... 5

(2) 学生証・学生番号・マリン (MARINE) アカウント ..... 7

(3) キャンパスと事務窓口 ..... 8

(4) 諸手続きのしかた ..... 10

(5) 学生納付金について ..... 14

(6) クラス担任 ..... 17

(7) 通学について ..... 17

(8) 学生への連絡・伝達の方法 ..... 18

(9) 自然災害及び事故発生等における授業の取扱い措置 ..... 19

(10) 「いざ!」というとき ..... 19

(11) 千葉工業大学における個人情報の取り扱いについて ..... 20

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格及び卒業資格  
教員職表・カリキュラム・教育研究

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カリキュラム・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

# はじめに

この「学生便覧」は、学生の皆さんが千葉工業大学の一員として、学生生活を送る上での基本的なルール、手続き、制度等を記載したガイドブックです。学生生活、修学、進路に係わる事項等も記載していますので、十分に理解して学生生活がより豊かにできるよう活用してください。

なお、入学年度ごとに内容が異なります。卒業するまでは継続して使用するものとなりますので、年度が変わっても必ずご自身の入学年度の学生便覧を読むようにしてください。

## (1) 学事日程・学期及び授業時間

### 1. 学事日程

「学事日程」は、授業、試験、休業日、スポーツフェスティバル、大学祭など皆さんの修学、学生生活に関する予定です。主な大学の予定は、次の表のとおりです。なお、学事日程は毎年更新されますので、翌年度以降は「学生資料室」掲載の「学年暦」から年間のスケジュールを確認してください。

学生資料室 学年暦

URL : <https://kmsk.is.it-chiba.ac.jp/portal/>

[2026 年度 学事日程抜粋]

入学式	2026 年 4 月 5 日 (日)	
前期	学科別プログラム・新入生ガイダンス	4 月 6 日 (月) から 4 月 10 日 (金)
	授業開始	4 月 11 日 (土)
	授業終了	7 月 17 日 (金)
	共通試験	7 月 18 日 (土)
開学記念日	5 月 15 日 (金)	
補充授業・追試験等期間	7 月 21 日 (火) から 8 月 31 日 (月)	
夏期集中授業	8 月 18 日 (火) から 8 月 31 日 (月)	
後期	ガイダンス (全学年)	9 月 17 日 (木)
	授業開始	9 月 18 日 (金)
	授業終了	12 月 21 日 (月)
	共通試験	12 月 22 日 (火)
補充授業・追試験等期間	2027 年 1 月 8 日 (金) から 2 月 20 日 (土)	
春期集中授業	2027 年 2 月 6 日 (土) から 2 月 20 日 (土)	
学位記授与式	2027 年 3 月 22 日 (月)	

### 2. 学期

1 年間は 2 学期 (前期・後期) に分けられています。学期内の運営・行事等は「学年暦」に従います。

### 3. セメスター制

本学では、1つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させるセメスター制を導入しています。各セメスターは、次の表のとおりです。

1年		2年		3年		4年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1セメスター (1S)	2セメスター (2S)	3セメスター (3S)	4セメスター (4S)	5セメスター (5S)	6セメスター (6S)	7セメスター (7S)	8セメスター (8S)

### 4. 授業時間

時限	時間	授業時間枠
1限	9:00～10:00	授業時間枠①
2限	10:00～11:00	授業時間枠②
3限	11:00～12:00	授業時間枠③
4限	12:00～13:00	授業時間枠④
5限	13:00～14:00	授業時間枠⑤
6限	14:00～15:00	授業時間枠⑥
7限	15:00～16:00	授業時間枠⑦
8限	16:00～17:00	授業時間枠⑧
9限	17:00～18:00	授業時間枠⑨
10限	18:00～19:00	授業時間枠⑩

本学の授業時間は左の表のとおりです。授業配当（各科目に割り当てる授業時間数）は、60分を一つの授業時間枠として扱い、単位数と多様に組み合わせることで設定します。

- ・ 一般的科目の週2時間2単位の場合には授業時間を2枠で配当します。
- ・ 演習系などの週4時間2単位の場合には授業時間を4枠で配当します。
- ・ 実験系などの週6時間3単位の場合には授業時間を6枠で配当します。

※ 授業時間には、次の授業への移動時間も含まれます。  
 ※ 昼休み時間は一律に設定されず、時間割上に設定された1時間の空き時間を利用します。  
 （空き時間の設定パターン：① 11:00～12:00  
 ② 12:00～13:00 ③ 13:00～14:00）

毎日の授業は「授業時間表」に従って行われますが、科目によっては、休日・夏期休業中（前期授業終了後）又は春期休業中（後期授業終了後）に集中的に行われることもあります。また、施設・設備等の理由により、受講人数を制限することがあります。

詳しくは下記 URL より自身が所属する学科の「授業時間表」を確認してください。

学生資料室 授業時間表 & 履修ガイド

URL : <https://kmsk.is.it-chiba.ac.jp/portal/>

### 5. 試験時間

共通試験日の時間割は通常授業時間区分とは異なり、下表のようになっています。

時限	時間
1限	10:00～11:00
2限	11:15～12:15
3限	13:00～14:00
4限	14:15～15:15
5限	15:30～16:30

## (2) 学生証・学生番号・マリン (MARINE) アカウント

### 1. 学生証

入学時に、学生証が交付されます。この学生証は、本学の学生であることを証明する重要なものですので、常に携帯し、大切に扱ってください。

学生証は、諸手続き、試験の受験、定期券の購入、研究室への入室の際などに必要であり、求められたときには提示しなければなりません。特に試験のときは忘れないでください。有効期限は入学年の4月1日から卒業時までです。本学を卒業・退学・除籍したときは直ちに返還してください。また、紛失や破損したときは直ちに各キャンパス教務担当に申し出てください。

### 2. 学生番号

学生証に記載された学生番号は、修学上の手続きや成績表、証明書、試験の答案などすべての書類に記載する番号です。学生番号は入学時に決まり、卒業するまで変わりませんので、速やかに正しい学生番号を覚えてください。

学生番号は入学年度、学科番号、個人番号の順に並べられ、7桁の英数字で構成されています。

[例] 2 6 A 1 0 0 1  


  
 (a) (b) (c)

(a)の数字は入学年度を表し、2026年度の末尾の2桁を表します。

(b)の英数字は次のように学科を表します。

A1 機械工学科	A7 宇宙・半導体工学科	A3 先端材料工学科
A4 電気電子工学科	A5 情報通信システム工学科	A6 応用化学科
B1 建築学科	B2 都市環境工学科	B3 デザイン科学科
C1 未来ロボティクス学科	C2 生命科学科	C3 知能メディア工学科
G1 情報工学科	G2 認知情報科学科	G3 高度応用情報科学科
K1 デジタル変革科学科	K2 経営デザイン科学科	

(c)の数字は各学科における個人番号を表します。

### 3. マリン (MARINE) アカウント

マリン (MARINE) アカウントは、本学のキャンパスシステムを利用するためのアカウントになります。

このアカウントのユーザIDとパスワード情報は、学生証と合わせて配付される「MARINE」個人アカウントカード (右側の見本参照) に記載されています。

※パスワードの変更方法はカード裏面をご参照ください。

(カード見本)



## 〔3〕 キャンパスと事務窓口

### 1. キャンパス

本学のキャンパスは、新習志野キャンパスと津田沼キャンパスに分かれています。1・2年次は主として新習志野キャンパスで、3・4年次は主として津田沼キャンパスで授業を受けることとなります。事務窓口は両キャンパスにあります。

### 2. 諸手続き

4年間の学生生活を送る中で、皆さんは、学生・保証人情報の登録、履修手続き等、様々な情報登録を行います。願書や届出書類などの申請手続きを行う機会もありますので、提出物は必ず期日を厳守してください。

また、証明書等を発行する場合は、必要な日数を十分に考えた上で早めに手続きをしてください。

なお、学生・保証人情報等に変更が生じた場合は直ちに申請してください。各手続き方法については「〔4〕 諸手続きのしかた」を参照してください。

### 3. 各担当部署の事務内容

(1) 教学センター（新習志野及び津田沼）内にある「教務担当」「学生担当」「保健室」は次のような事項を取り扱います。

#### ・教務担当

教育課程・履修手続き・授業・試験・成績・学籍・学生証及び成績等の証明書・欠席・休学・復学・学年降下・退学・除籍・再入学・卒業・教育職員免許・科目等履修生・研究生・その他教務に関する事項。

#### ・学生担当

自治活動・掲示・課外活動の援助助言・学生相談・通学証明・住所変更・学割・奨学金・施設の貸出・駐輪場の登録・保健衛生・千葉工業大学学生共済会・学生教育研究災害傷害保険・学生寮・研修センター利用申込・福利厚生・ボランティア・その他学生生活に関する事項。

#### ・保健室

健康相談・健康診断の実施・保健指導・怪我をした場合の応急処置・病院の紹介・保健衛生に関する事項。

(2) 就職・進路支援部（津田沼）は次のような事項を取り扱います。

就職指導及び斡旋・求人先の開拓・就職調査・インターンシップ・アルバイトの情報提供に関する事項。

(3) 財務部会計担当（津田沼）は次のような事項を取り扱います。

学生納付金・PPA会費・学生共済会会費・同窓会終身会費分納金等の徴収に関する事項。

(4) 情報システム担当（津田沼）は次のような事項を取り扱います。

学内ネットワーク・コンピュータ演習室・マリソ（MARINE）アカウント等の管理運用・ソフトウェアのライセンス管理・工大メール・その他学内情報システム及び情報セキュリティに関する事項。

#### 4. 各担当部署の窓口・取扱時間

上記に示した各担当部署の手続き書類は「学生総合窓口」で受け付けています。

各種事務手続きの詳細に関しては担当部署に直接問い合わせください。取扱時間は下のとおりです。

日曜・祝日以外の休業日や取扱時間が変更となる場合は本学ホームページやCITポータルで周知を行いますので確認してください。

##### ◎学生総合窓口

キャンパス	場所	取扱時間	
		平日	土曜日
新習志野	12号館1階	9:00～17:00	9:00～12:00
津田沼	1号館1階		

##### ◎問合せ先

###### <新習志野キャンパス>

部署名		電話番号	取扱時間	
			平日	土曜日
教学センター	教務担当	047-454-9754	9:00～17:00	9:00～12:00
	学生担当	047-454-9756		
	学生寮担当 <sup>*1</sup>	047-454-6444		

###### <津田沼キャンパス>

部署名		電話番号	取扱時間	
			平日	土曜日
教学センター	教務担当	047-478-0234	9:00～17:00	9:00～12:00
	学生担当	047-478-0230		
就職・進路支援部 <sup>*2</sup>		047-478-0232		
財務部会計担当		047-478-0215		
情報システム担当		047-478-0227		

※1 寮関係の手続き書類は、学生寮に直接提出してください。

※2 就職関係の手続き書類は、津田沼キャンパス1号館2階の就職・進路支援部に直接提出してください。

##### ◎保健室

各キャンパスの保健室は下記の時間に開室しています。

キャンパス	場所	平日	土曜日
新習志野	12号館1階	9:00～19:00	9:00～12:00
津田沼	1号館1階	(昼休み12:40～13:40)	

##### ◎その他

図書館、工作室、食堂、購買等の利用時間については、学内掲示又は本学ホームページを参照してください。

## 〔4〕 諸手続きのしかた

証明書の申請・発行及び届出書類、願書類の提出は、「学生総合窓口」で行います。詳細な問合せ先は、次の各書類の表を参照してください。

証明書の発行については、種類によって交付に要する日数が異なりますので、ご注意ください。  
1・2年次は新習志野キャンパス、3・4年次は津田沼キャンパスで取り扱います。

**証明書類** 申請する際には、必ず学生証を提示してください。

証明書類	種別	問合せ先	備考
在学証明書	和文	各キャンパス 教務担当	【和文】証明書発行サービスで発行。 【英文】窓口で申請し、申込日を含む7日後に発行。 (土日祝日・大学休業日を除く) ※ 卒業見込証明書は、最終学年の4月1日以降に発行可能。 ※ 成績及び単位修得証明書の評価表示はABCの3段階評価での記載となります。
	英文		
成績及単位修得証明書	和文	※英文は 津田沼教務担当のみ	
	英文		
卒業見込証明書	和文		
	英文		
在籍証明書	和文	津田沼教務担当	窓口で申請し、申込日を含む3日後に発行。(土日祝日・大学休業日を除く)
教育職員免許状取得見込証明書			
健康診断証明書			本学の実施する定期健康診断を受診した学生のみ証明書発行サービスで発行可能。
学生旅客運賃割引証明書(学割証)		各キャンパス 学生担当	証明書発行サービスで発行。 発行場所は学内発行のみ。 ※ 原則年間20枚まで。
通学証明書			電車・バスの定期券を購入する際に必要なもので、証明書発行サービスで発行。
学費関連証明書 ・納入済学費証明書 ・学生納付金通知書 ・延納願書受理書		財務部会計担当	1) 学費関連証明書発行申請書(本学ホームページ又は学生資料室からダウンロード可能)を学生総合窓口へ提出 2) 受取方法は、次のいずれかを選択 ・津田沼キャンパス 財務部会計担当窓口 ・新習志野キャンパス 学生総合窓口 ・郵送(返信用封筒・切手が必要) 3) 発行手数料無料

### 証明書発行サービス (在学生用)

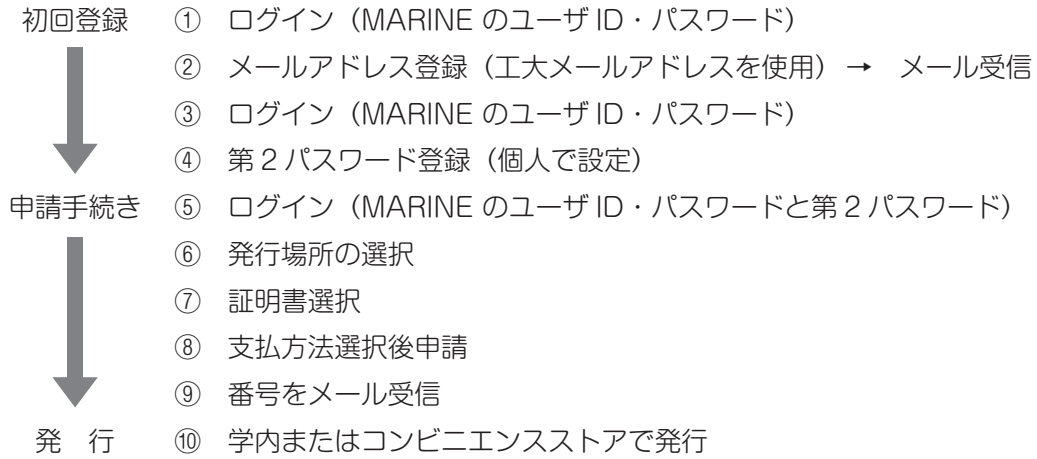
証明書発行サービスとは、必要な証明書をオンラインで申請後、学内発行機又はコンビニエンスストアで発行できるサービスです。電子証明書(PDFデータ)をメールで送付することもできます。利用する際には、事前に登録が必要となります。

※ 卒業後に証明書を取得する際には、卒業生用の証明書発行サービスに登録が必要となります。

★証明書発行サービスのログイン URL (CIT ポータル「外部サイトリンク」－「証明書発行サービス」からもアクセス可能)

<https://chibatech.jp/about/support/support/issuing-service.html>

手続きの流れは、次のとおりです。



発行場所	発行料金
学内発行機	1 通 200 円 (学割証, 通学証明書は無料)
コンビニエンスストア	1 通 260 円 ※ 印刷費 60 円が含まれます。 (通学証明書は印刷費 60 円のみかかります。)
オンラインサービス	1 通 200 円 ※ PDF データをメールで送付できるサービスです。

## 届出書類

事項	提出書類	問合せ先	備考
講義を欠席するとき	欠席届	各キャンパス 教務担当	病気で欠席する場合は、原則受診証明書（様式あり）又は医師の診断書を添付し、科目担当者に直接提出。1か月未満の場合は、「学生資料室」から様式のダウンロードが可能。 1か月以上6か月未満の場合は、各キャンパス教務担当で様式を配布。
保証人が変わった	保証人変更届*		学生本人との関係がわかる戸籍抄本あるいは戸籍謄本を添付。
氏名が変わった	氏名変更届*		戸籍抄本あるいは戸籍謄本を添付。
住所や携帯電話番号等が変わった (本人・保証人共通)	—	各キャンパス 学生担当	CIT ポータルの「学籍情報変更申請」より申請。
通学区間が変わった(電車・バス共通)	—		CIT ポータルの「学籍情報変更申請」より申請。
学外で課外活動をするとき	学外での活動届		責任者（担当教職員）が参加者名簿及び日程表を添付し、国内は1週間前までに、海外は3週間前までにメールで提出。
研究活動等で 車輛を校内に 乗り入れをし たいとき	車輛校内乗入 許可申請書*	津田沼学生担当	指導教員又はクラス担任の印章が必要。
事故にあった	学生共済会 申請書 (兼事故報告書)*	各キャンパス 学生担当	診断書又は被災証明書をクラス担任又は指導教員に渡し、教員が申請。
	学生教育研究 災害傷害保険 の請求書*		負傷事故の状況を事前に報告し、詳細は、「学生資料室ー各種申請書・マニュアル」に入っている学生教育研究災害傷害保険のしおりを参照。
インフルエンザ等の予防接種をした	各種ワクチン 予防接種補助金 申請書*		領収書と印鑑を持参。
備品等を壊した	破損届*		窓口で相談。

※ 様式の配布及び提出は学生総合窓口で行います。

## 願書類

事項	提出書類	問合せ先	備考
休学をしたい	休学願*	各キャンパス 教務担当	前期からの休学希望：前年度の3月31日まで 後期からの休学希望：後期授業開始前日まで
退学をしたい	退学願*		学生証を添えて提出。
休学期間満了前に復学したい	復学願*		窓口で相談。
留学をしたい	外国留学出願書*		学科長の推薦書・計画書・受入れ大学の資料と承諾書の写しを添えて、休学願と一緒に提出。
学年を下げたい	学年降下願*		窓口で相談。
学科を変更したい	転学部・転学科 志願票*		各年度事前相談期間（CIT ポータルで案内）に窓口で相談。 対象：1年次・2年次
学生証が壊れた・紛失した	—		窓口で相談。
日本学生支援機構の奨学金を借りたい	日本学生支援機構奨学生願書	各キャンパス 学生担当	募集については、CIT ポータル等に掲載。予約採用候補者は「進学届」を提出すること。 他の奨学金制度については、大学に募集の通知があれば本学ホームページ等に掲載。
国の修学支援制度による授業料減免を申し込みたい			募集については、CIT ポータル等に掲載。日本学生支援機構給付奨学金申し込みの際に「授業料減免を希望します」と選択することで授業料減免の申込みとなる。
学生共済会制度で授業料を借りたい	学生共済会 学生納付金 貸与申請書*		書類審査、面接等あり。詳細を、「学生資料室－各種申請書・マニュアル」に入っている学生共済会のしおりで確認し窓口へ相談。連帯保証人が1名必要。
運動施設を利用したい	運動施設使用願		使用が可能か否か、事前に窓口で確認。
物品を借りたい	備品借用願*		借用備品につき事前に確認および打ち合わせをし、使用方法は係の指示に従うこととする。 返却期限を厳守し、印章は責任者のものとする。
オートバイや自転車で通学したい	駐輪場利用 許可願*		オートバイの場合は、保証人の同意が必要。
千葉工業大学大学院奨学金を申し込みたい	千葉工業大学 大学院奨学金 貸与申請書		募集についてはCIT ポータル等で対象者に周知。 収入申告書・奨学金等借用状況調査票等を提出。 （書類審査・詳細は入学手続きの要項に記載あり）
日本学生支援機構大学院授業料後払い制度を申し込みたい	日本学生支援機構奨学生願書	津田沼学生担当	募集についてはCIT ポータル等に掲載。
学費を延納したい	授業料延納願書	財務部会計担当	学期毎に申請。 様式は本学ホームページ又は「学生資料室」からダウンロード可能。 明確な延納理由と今後の納入計画を記入。

※ 様式の配布及び提出は学生総合窓口で行います。

## (5) 学生納付金について

### 1. 学生納付金及び諸会費（以下、「学費」という）の納入について

#### (1) 支払方法

本学の学費の支払方法は、次のとおりです。

- ① 銀行振込・クレジットカード・銀行 ATM（ペイジー）・ネットバンキングによる支払  
（手数料は、振込人負担）

本学独自の「学納金納入手続システム」で決済方法を選択して支払う方法

「オンライン決済」「銀行 ATM（ペイジー）決済」「金融機関から振込」を選択できます。

- ② ゆうちょ銀行自動払込（引落手数料は、大学負担）

事前に届け出たゆうちょ銀行の指定口座から、指定日に自動的に引き落とす方法

引落日・金額等の詳細は、各学期引落日の約 1 か月前に通知します。

※ 利用には、最寄りのゆうちょ銀行にて手続きが必要となります。本学ホームページ「学費の納入について」－「支払方法について」を確認の上、手続きを行ってください。

#### (2) 学費納入の案内時期及び学費納入期限

		対象	前期 / 春学期分	後期 / 秋学期分
銀行振込 クレジットカード ATM(ペイジー) ネットバンキング	案内時期 <sup>※1</sup>	新入生	—	9月上旬
		新入生以外	4月上旬	9月上旬
	振込納入期限 <sup>※2</sup>	全員	4月末日	9月末日
		自動払込	案内時期 <sup>※1</sup>	新入生
		新入生以外	4月上旬	9月上旬
	引落日	全員	案内通知に記載の日付	

※ 1 学費納入の案内は、CIT ポータルにて学生と保証人宛に通知します。

※ 2 振込納入期限が金融機関の休業日にあたる場合は、翌営業日を期限とします。

#### (3) 学費納入に関する注意事項

- ① 原則として、振込用紙等の発送は行いません。
- ② 一度納入された学費は原則として返還しません。事前に就学意思を保証人とよく相談してください。
- ③ 金融機関から振込の際は、過不足の無いようにしてください（一部入金は認めません）。
- ④ ゆうちょ銀行窓口から振込を行う場合、本学指定の振込依頼書は使用できませんので、ゆうちょ銀行専用の振込依頼書に転記してください。  
転記する際は、振込依頼人欄に学生氏名、通知番号欄に振込人コード（G + 学生番号）を記入し、振込金額を十分に確認の上、振り込んでください。
- ⑤ 以下の場合、「千葉工業大学 学生納付金納入細則」に基づいて、除籍対象者となります。
  - ・延納手続きをせず、納入期限より 1 ヶ月以上学費が納入されない場合
  - ・延納手続きを行い、延納許可者納入期限までに学費が納入されない場合

### 2. 保証人住所変更について

転居等により住所変更があった場合は、必ず CIT ポータルの保証人住所情報を変更してください。

### 3. 学費一覧表

(単位：円)

1年目		前期 / 春学期分	後期 / 秋学期分	合計
入学金		250,000		250,000
授業料		695,000	695,000	1,390,000
諸会費	PPA 会費	15,000	5,000	20,000
	同窓会終身会費分納金	5,000	5,000	10,000
	学生共済会会費	3,250	1,250	4,500
合計		968,250	706,250	1,674,500

2年目		前期 / 春学期分	後期 / 秋学期分	合計
授業料		720,000	720,000	1,440,000
諸会費	PPA 会費	5,000	5,000	10,000
	同窓会終身会費分納金	5,000	5,000	10,000
	学生共済会会費	1,250	1,250	2,500
合計		731,250	731,250	1,462,500

3年目		前期 / 春学期分	後期 / 秋学期分	合計
授業料		745,000	745,000	1,490,000
諸会費	PPA 会費	5,000	5,000	10,000
	同窓会終身会費分納金	5,000	5,000	10,000
	学生共済会会費	1,250	1,250	2,500
合計		756,250	756,250	1,512,500

4年目		前期 / 春学期分	後期 / 秋学期分	合計
授業料		770,000	770,000	1,540,000
諸会費	PPA 会費	5,000	5,000	10,000
	同窓会終身会費分納金	5,000	5,000	10,000
	学生共済会会費	1,250	1,250	2,500
合計		781,250	781,250	1,562,500

※ 本学の学費は在籍年数により決定され、学年とは関係ありません。

※ 金額は、全学部・学科で一律の金額です。

#### 4. 延納制度について

経済的事由により学費を所定の期限内に納入できない場合、「授業料延納願書」を提出することにより、納入期限を延長することができます。なお、国の修学支援制度による授業料減免の対象者及び申請者は、納入期限後に認定結果が通知されますので、延納手続きをしてください。

##### (1) 「授業料延納願書」に関わる期限について

	前期 / 春学期分	後期 / 秋学期分
延納願書提出期限	4月末日	9月末日
延納許可者納入期限	6月30日	12月20日

※ 各期限が金融機関の休業日にあたる場合は、翌営業日を期限とします。

##### (2) 「授業料延納願書」の提出について

延納を希望する場合は、本学所定の「授業料延納願書」に必要事項を記入し、学生総合窓口（郵送の場合は財務部会計担当宛）に提出してください。所定の用紙は本学ホームページ「学費の納入について」－「延納制度について」又は学生資料室「各種申請書・マニュアル」－「授業料」からダウンロードすることができます。

##### (3) 延納制度に関する注意事項

- ① 延納の申請は、学期毎に必要となります。
- ② 延納許可者納入期限を超えての、再延納制度は設けていません。
- ③ ゆうちょ銀行自動払込利用者が延納制度を利用した場合、学費の納入は「1. (1) ①銀行振込・クレジットカード・銀行ATM(ペイジー)・ネットバンキングによる支払」となります。ただし、国の修学支援制度による授業料減免の対象者は、認定結果の通知後、本学指定日に引き落としを行います。
- ④ 延納願書が受理された後、学納金納入システムの入納期限を変更しますのでご確認ください。

#### 5. 休学時の学生納付金

##### (1) 休学時の納付金額について

休学期間中は、休学在籍料及び諸会費のみ徴収します。金額は、以下のとおりです。

休学時の学生納付金（半期分） (単位：円)

		各学期共通
休学在籍料		100,000
諸会費	PPA 会費	5,000
	同窓会終身会費分納金	5,000
	学生共済会会費	1,250
合計		111,250

##### (2) 休学時の学生納付金に関する注意事項

- ① 休学時の学生納付金の納入方法は、「1. (1) ①銀行振込・クレジットカード・銀行ATM(ペイジー)・ネットバンキングによる支払」のみとなります。
- ② 納入期限は、通常の学費とは異なります。詳細は、休学が決定次第、財務部会計担当からご案内します。
- ③ 休学時の学生納付金に、延納制度は利用できません。

- ④ 納入期限より1ヵ月以上所定の学生納付金が納入されない場合、「千葉工業大学学生納付金納入細則」に基づいて、除籍対象者となります。

## 6. 学費関連の証明書発行について

学費に関する証明書が必要な場合は、本学ホームページ「学費の証明書について」を確認し、「学費関連証明書発行申請書」を学生総合窓口に提出してください。所定の用紙は本学ホームページ又は学生資料室からダウンロードすることができます。

## 7. その他

学費に関する詳細は、「千葉工業大学 学生納付金納入細則」に定められています。「学生資料室」に掲載されている「諸規程」を参照してください。

学費については本学ホームページの下記 URL を参照してください。

URL : <https://chibatech.jp/about/expense/tuition/>

## 〔6〕 クラス担任

クラス担任は、皆さんの学生生活をより豊かにするために、学生の相談や次のような指導にあたります。修学上、生活上の問題が生じたときはクラス担任教員に相談して、助言を得るようにしてください。また、各教員は学生の質問等に応じるため、研究室にいる時間（オフィスアワー）を設定していますので、CIT ポータルの「教員スケジュール」から確認してください。

- (1) 修学に関する指導、助言
- (2) 退学及び休学の指導、処置
- (3) 学生生活に関する指導、助言
- (4) 就職に関する指導、助言
- (5) 学内外の事故に対する処置
- (6) 学科内又は学科単位の行事に関する指導、助言
- (7) 福利厚生に関する指導、処置（例えば学生共済会の申請）、健康管理など
- (8) 慶弔に関すること

## 〔7〕 通学について

本学は、新習志野、津田沼両キャンパスとも非常に交通の便の良いところにありますので、自動車による通学は禁止しています。電車、バスなどの公共交通機関を利用してください。ただし、自転車・オートバイの利用は、許可した学生に限り認めています。駐輪場を利用したいときは、あらかじめ学生総合窓口で所定の手続きをしてください。

寮生は学生寮事務室（中央管理室）で所定の手続きをしてください。

通学に際しては交通安全に注意すると共に、交通事故の防止に努めてください。

また駐輪場内での盗難・破損・いたずらなどにはお互いに注意すると共に、各自その防止策を図ってください。

## 〔8〕 学生への連絡・伝達の方法

皆さんへの連絡、伝達事項は、すべて CIT ポータルによって行いますので、毎日かならずログインし、確認してください。

また指示があった場合は、決められた期日、時間内に手続きを済ませてください。万一指示、伝達を守らなかったときは、不利な取り扱いを受けることがあります。

### CIT ポータルによる連絡

#### (1) 連絡の内容

大学からの重要なお知らせ、履修手続き、授業日程の変更、授業時間表、進級・卒業判定結果、休講・補講、教室変更、補充授業、再試験、追試験、個人呼出し、学費納入の案内等

#### (2) システムへのアクセス

インターネットからアクセスすることができます。

URL : <https://potral.chibatech.ac.jp/uprx/>

MARINE 個人アカウントのユーザー ID とパスワードでログイン後、「ポータル」タブの掲示板より閲覧できます。

## 〔9〕 自然災害及び事故発生等における授業の取扱い措置

千葉県北西部に自然災害等に関する警報が発令されたときは、本学 CIT ポータル及びホームページに当該授業の取扱い情報（臨時休講情報など）又は指示内容を配信しますので、必ず確認してください。

※ 事前に相当の被害が予想される場合は、前日までに授業取扱い情報を配信することもあります。

### 〔大学の判断基準〕

千葉県北西部に「暴風警報（暴風雪警報を含む）」が発令された場合又は同地域に震度 6 弱以上の地震が発生した場合若しくは大規模地震災害時特別措置法に基づく「警戒宣言」が発令された場合とし、それ以外は原則、平常授業とします。

※ 午前 6 時の状況から午前休講又は臨時休講を判断し、午前休講とした場合は、午前 10 時の状況から臨時休講を判断します。

※ 通学経路に支障がでた場合、対象となる JR 線は津田沼キャンパスで開講される授業は総武線（錦糸町 - 千葉間）で、新習志野キャンパスで開講される授業は京葉線（東京 - 蘇我間）です。その他の JR 各線、私鉄は対象外となります。また、対象となる JR 線であっても、部分的不通（自宅付近のみ）や、一時的運休（信号機故障、車両故障、人身事故等）の場合は、判断の基準になりません。

なお、これら警報発令後に何らかの事情で大学から連絡事項が配信されないときは、身の安全を第一優先とし、自己の判断で行動してください。

## 〔10〕 「いざ！」というとき ー緊急避難ー

日頃から「防災対応マニュアルー大地震と津波に備えてー」を確認し、避難場所や連絡体制など防災への備えを心がけましょう。

なお、大学構内は、習志野市指定の一時避難場所となっており、緊急事には周辺住民が避難して来る可能性もあります。いざという時は落ち着いて行動し、互いに助け合うことを忘れないでください。

※ 「防災対応マニュアル」は以下の方法で確認できます。

学生資料室「各種申請書・マニュアル」ー「防災・安全」ー「防災対応マニュアル」

URL : [https://chibatech.jp/about/support/support/disaster\\_manual.html](https://chibatech.jp/about/support/support/disaster_manual.html)

（地震が発生したとき）

- 窓ガラスや棚など、倒壊・落下・飛散の危険がある場所から離れる。
- 机の下に身を隠す、またはバッグや衣類で頭を守るなどして、ガラス片や蛍光灯の落下から身を守る。
- 近くにドアがある場合は、出口確保のためドアを開ける（余裕があるときのみ）。
- 火気・薬品を使用している場合は、火を消し、薬品から離れる。
- 広場など落下物のない場所では、その場にしゃがみ込み、揺れが収まるまで待機する。

（揺れがおさまったら）

- 周囲の安全を確認（建物の損傷、火災、負傷者など）。
- 火災や負傷者がいる場合は、自分の安全を確保したうえで初期消火、応急手当を行う。
- 避難時は、エレベーターを使用せず、階段を利用する。
- 火災により防火シャッターが閉まっている場合は、取っ手を回して防火ドアから避難する。

さらに詳しい行動手順については「防災マニュアル ー大地震と津波に備えてー」をご確認ください。

## 〔11〕 千葉工業大学における個人情報の取り扱いについて

2005年4月1日から全面施行された「個人情報保護法(個人情報の保護に関する法律)」に基づいて、本学の個人情報の取り扱いを以下のとおり定めています。

- (1) 出願時・入学時及び在籍中に収集した学生・保証人の氏名・住所・電話番号・Eメールアドレスなどの個人情報は、修学及び学生生活上の指導目的並びに大学運営上必要な場合にのみ利用する。なお、発送業務については、本学と業務契約を締結している会社はその業務を委託することがある。
- (2) 収集した個人情報への不正アクセス、紛失、改ざん、漏えいがないように適切に管理し、収集目的の範囲内でのみ利用する。
- (3) 収集した個人情報を、あらかじめ示した提供先以外の第三者に提供・開示はしない。また、提供先に対しては、個人情報の適切な管理を徹底する。
- (4) 収集した個人情報を、本学又は本学出資の関係会社に取り扱う商品、サービスに関する業務に利用したり、あるいは当該個人情報に基づいて、これらの商品、サービスに関する情報を学生・保証人に提供したりすることがある。もし、学生・保証人がこのような利用、情報提供を希望しない場合、学生・保証人が個人情報の登録をした本学窓口に申し出ること。
- (5) 登録した自身の個人情報の確認、訂正、削除は、学生・保証人が個人情報を登録した本学の窓口に申し出ること。

本学が取り扱う個人情報の内容と利用目的に対する請求等については下記のとおりとなります。

### 【個人情報の内容】

学生・保証人の氏名、性別、生年月日、学部・学科・クラス(研究科・専攻・研究室)の所属、学生・保証人の住所、学生・保証人の電話番号、履修及び成績、健康状態、進路等の個人を特定できる各情報。

### 【利用目的に対する請求等】

修学指導を目的として、履修状況・成績等を本人並びに保証人に対し開示します。

これらの情報も含めて、個人情報について学生本人から「訂正・追加・削除」、「開示」、「利用の停止」、「第三者提供の停止」の請求を申し受けます。

### 問合せ先

新習志野教務担当 047-454-9754 (平日 9:00～17:00)

津田沼教務担当 047-478-0234 (平日 9:00～17:00)

第2章

学生生活について

(1) 学生委員会 ..... 23

(2) 新習志野学生担当・津田沼学生担当の取扱事項 ..... 23

(3) 大学生生活 ..... 23

(4) 奨学制度 ..... 26

(5) 厚生 ..... 29

(6) 課外活動（クラブ） ..... 36

(7) その他 ..... 38

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格及び卒業資格  
 教育発表・カンファレンス・教育研究

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カキコ（L）・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

## 学生生活について

### 〔1〕 学生委員会

学生の皆さんには、課外活動においても、あらゆる分野で各自の素質、能力を十分に発揮し、学生生活でしか味わうことのできない貴重な体験を通して、豊かな社会人として巣立ってもらいたいと願っています。この課外活動や日常の生活を指導し援助するため、学生委員会は新習志野学生担当・津田沼学生担当とともにその任にあたっています。取扱っている主な事項は、学友会、体育会、文化会などの課外活動関係、学生寮、学生相談室、厚生施設などです。

### 〔2〕 新習志野学生担当・津田沼学生担当の取扱事項

- (1) 通学証明書及び学割証発行に関する事項
- (2) 学生相談に関する事項
- (3) 保健衛生に関する事項
- (4) 学生の賞罰に関する事項
- (5) 在学の「証」に関する事項
- (6) 奨学金制度に関する事項
- (7) 学生共済会に関する事項
- (8) 学内外での事故・事件等に関する事項
- (9) 居所の紹介に関する事項
- (10) 課外活動に関する事項
- (11) 自治活動に関する事項
- (12) 救難対策に関する事項
- (13) 駐輪場に関する事項
- (14) 環境美化に関する事項
- (15) 学生寮に関する事項
- (16) ボランティアに関する件
- (17) 住所変更に関する事項
- (18) その他学生の生活指導及び福利厚生に関する事項

### 〔3〕 大学生生活

#### 1. 通学定期乗車券及び学生旅客運賃割引証

- (1) 通学定期乗車券
  - 通学定期乗車券を購入するときは、現住所の最寄り駅と大学の最寄り駅とを最短距離で結ぶ乗車券でなければなりません。
  - 駅に備え付けてある定期乗車券購入申込書に記入し、学生証及び通学証明書を最寄り駅の発売窓口に呈示して購入してください。
  - 通学証明書を発行・変更する場合は、予めCITポータルの「学籍情報変更申請」から区間の登録・更新を行い、証明書発行サービスの手順に基づいて発行してください。なお、区間を変更する場合

[目次へ戻る](#)

は住所変更も必要となります。同様に、CIT ポータルの「学籍情報変更申請」から変更してください。

- 通学定期の継続購入は、通学区間と在学期間の変更がない限り、卒業予定年月日までは通学証明書の提示は原則不要です。

注) 新習志野から津田沼など進級に伴う区間変更は CIT ポータルから申請が必要になります。

- 不正使用の場合は恩典を停止されることがあります。
- 卒業や退学等、通学定期乗車券の使用資格を失った場合、通学乗車券を使用することはできません。使用資格を失った場合は、交通機関の窓口で持参し通学定期乗車券の払い戻しを受けてください。
- 公共バスの定期券が必要な場合も、通学証明書が必要となるので、CIT ポータルの「学籍情報変更申請」から申請してください。

## (2) 学生旅客運賃割引証 (学割証)

- 学校学生生徒旅客運賃割引証は通常片道 101km 以上の JR 等の鉄道、航路を利用して、休暇、所用による帰省、実験実習、大学が認めた課外活動、見学、行事の参加、保証人との旅行等に必要とき交付します。
- 学割証の年間使用枚数は原則として 1 人 20 枚までとします。
- 学割証の有効期限は発行日より 3 カ月です。但し、各課程において最終学年の有効期限は当該年度末の 3 月 31 日です。
- 次のような不正使用の場合、学割での乗車は無効となり、本人は普通旅客運賃及び 3 倍の割増運賃を徴収されます。また、大学が学割証の発行停止処分を受けるので、使用にあたっては十分に注意してください。
  - ① 他人に学割証又は乗車券を譲り渡したとき。
  - ② 学生証を携帯せず乗車したとき。
  - ③ 有効期限切れや複製した学割証で乗車券を購入したとき。
  - ④ 他人の名義で学割証を使用し乗車券を購入して使用したとき。
  - ⑤ その他運送規則に違反したとき。
- 学割証は、証明書発行サービスで申請後、新習志野キャンパス 12 号館 1 階、津田沼キャンパス 1 号館 1 階にある学内発行機で即日発行できます。

## 2. 学生相談室

悩みや問題を抱えたことが一度もない、という人は少ないのではないのでしょうか。学生生活を送る中でも、「学業」「進路」「人間関係」「心や身体の健康」「自分の性格や気持ち」など、さまざまなことで悩みが生じる可能性があります。そのような際にはできるだけ一人で抱えず、信頼できる他者にも相談してください。他者に話をすることを通して気分が晴れたり、問題が解決したりすることがあるからです。

そして、そのように困ったときの相談先の一つとして、学内には「学生相談室」があります。学生相談室では、専門のカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）が、学生のさまざまな相談に応じています。原則的に相談者の秘密は守られますので、安心して利用してください。

学生相談室の場所は以下のとおりです。

【場所】 新習志野キャンパス：12 号館 2 階      津田沼キャンパス：1 号館 2 階

詳細については、本学ホームページ(<https://www.it-chiba.ac.jp/support/support/counseling/>)や、「学生相談に関するご案内」が「学生資料室－各種申請書・マニュアル」に入っているので、必要に応じて参照してください。

### 3. 保健室

保健室は、学生の皆さんが心身ともに健康な生活を送るために、自己管理ができる能力を身に付けられるよう、健康診断・健康相談・保健指導・応急処置をとおして支援を行っています。

- 学校保健安全法に基づき、4月に定期健康診断を実施しています。  
自分の健康状態を把握するため、また結核などの集団感染を予防するため、必ず受けてください。
- 定期健康診断を受けた学生は、証明書発行サービスの手続きを行い、学内またはコンビニエンスストアで健康診断証明書を発行することができます。この証明書は、就職活動、アルバイト、奨学金申請、教育・介護実習、インターンシップ参加などに必要となります。健康診断を受けていない場合、発行はできません。
- 保健室では、急病・ケガなどの応急処置や保健師による健康相談をいつでも受け付けているので、気軽に来室してください。校医による健康相談（週1回木曜日）も行っています。また、必要に応じて専門の医療機関を紹介しています。どこの病院に行けばよいのか困ったときは、保健室に問い合わせてください。
- 急病やケガに備えて、マイナンバーカード（健康保険証利用登録済み）又は資格確認書を日頃から携帯するようにしてください。

【校医健康相談】 循環器科・呼吸器科

木曜日 15:00～17:00 又は 16:00～18:00

【連絡先】 新習志野キャンパス保健室 12号館1階 電話 047-454-9764  
津田沼キャンパス保健室 1号館1階 電話 047-478-0231

### 4. 表彰

#### (1) 学生表彰制度

この制度は学則第44条に基づき、在学生の勉学意欲の増進を図るとともに、課外活動の活性化を目的として卒業時に行うものです。

- ① 理事長賞：学内外での活動等で特に著しい功績をあげた者。
- ② 学長賞：成績優秀者。成績が基準以上で、かつ、学内外での活動等で著しい功績をあげた者。
- ③ 優秀賞：成績優秀者で各学科を代表する者。
- ④ その他：「同窓会会長賞」、「PPA会長賞」

#### (2) 祝勝・奨励会

この制度は課外活動の活性化を図るため、活動が特に顕著であったクラブに対して、年1回大学主催の祝勝・奨励会を催し、その努力を称え労をねぎらうものです。

### 5. 在学の「証」

学生が在学中に不慮の事故又は病気などで死亡したときは、大学は弔意を表すことを目的に、その学生が本学に在学した証として「証」を遺族に贈呈します。

目次へ戻る

## 〔4〕 奨学制度

### 1. 日本学生支援機構奨学金（給付）・授業料等減免

国の高等教育における修学支援新制度として、日本学生支援機構奨学金（給付）と授業料減免があります。意欲と能力のある若者が経済的理由により進学及び修学の継続を断念することのないよう、原則として返還義務のない給付奨学金の支給と授業料等の減免を合わせて行うものです。

国費の財源としているため、採用時はもちろん、採用後も毎年学業基準、家計基準を満たしているか確認が行われます。その結果、支援が打ち切りとなったり、支援が遡って取り消される（減免が取り消されて減免額の全額返還が必要となる）場合がありますので、ご注意ください。

※毎年、家計基準による支援区分の見直しを日本学生支援機構が行い、10月以降の1年間の支援区分を決定します。また、3月には学業成績等により適格認定を行い、支援の継続有無を決定します。

#### ① 出願

日本学生支援機構奨学金（給付）と授業料等減免は連動しており、給付奨学金を申請し採用されることで授業料等減免も受けられます。（支援区分により給付奨学金が0円の場合もありますが、同様に給付奨学金を申請する必要があります）年2回（4月、9月）の出願時期に、必要書類を揃えて提出してください。なお、募集案内はCITポータルに掲示にて行います。

#### ② 選考基準

##### （イ）学力

次のいずれかに該当する必要があります。

##### 1年生

- 高等学校等における評定平均値が3.5以上であること、又は、入学者選抜試験の成績が入学者の上位1/2の範囲に属すること
- 高等学校卒業程度認定試験の合格者であること
- 将来、社会で自立し、活躍する目標を持って学修する意欲を有していることが、学修計画書により確認できること

##### 2年生以上

- GPA等が在学する学部等における上位1/2の範囲に属すること
- 修得した単位数が標準単位数以上であり、かつ、将来、社会で自立し、活躍する目標を持って学修する意欲を有していることが、学修計画書により確認できること

##### （ロ）家計

「収入基準」及び「資産基準」の要件を満たしている必要があります。

詳細は、「給付奨学金（返済不要）」日本学生支援機構奨学金ホームページで確認してください。



<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kyufu/index.html>

③ 支給・減免額

世帯の所得金額に基づく区分（詳細は「奨学金の制度（給付型）」日本学生支援機構奨学金ホームページ参照）に応じて支給・減免されます。

区分		給付奨学金 ※ 1		授業料等減免 ※ 3		
		自宅通学	自宅外通学	入学金減免額 (1 回限り※ 2)	授業料減免額 (前期)	授業料減免額 (後期)
1 子 2 子 世 帯	第Ⅰ区分	38,300 円 (42,500 円)	75,800 円	250,000 円	350,000 円	350,000 円
	第Ⅱ区分	25,600 円 (28,400 円)	50,600 円	166,700 円	233,400 円	233,300 円
	第Ⅲ区分	12,800 円 (14,200 円)	25,300 円	83,400 円	116,700 円	116,700 円
	第Ⅳ区分 (理工農学部系)	—	—	83,400 円	116,700 円	116,700 円
多 子 世 帯	第Ⅰ区分 (多子世帯)	38,300 円 (42,500 円)	75,800 円	250,000 円	350,000 円	350,000 円
	第Ⅱ区分 (多子世帯)	25,600 円 (28,400 円)	50,600 円			
	第Ⅲ区分 (多子世帯)	12,800 円 (14,200 円)	25,300 円			
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	9,600 円 (10,700 円)	19,000 円			
	多子世帯	—	—			

- ※ 1 生活保護を受けている生計維持者と同居している方や児童養護施設等から通学している方は ( ) 内の金額となります。
- ※ 2 入学金の減免を受けられるのは、入学月から支援対象となった方です。ただし、過去に本制度による入学金減免を受けたことがある方は対象外となります。
- ※ 3 授業料減免額は、支援区分と対象期間の組み合わせによって 100 円単位で端数調整を行う場合があります。
- ※ 4 学業成績が著しく不良でやむを得ない事由がない場合、大学から懲戒処分を受けた場合、偽りその他不正手段で支援を受けた場合は、遡って支援取消（支援額の返金）となる場合があります。

2. 日本学生支援機構奨学金（貸与）

大学・大学院で学ぶ人に国が実施する貸与型の奨学金で、第一種奨学金（無利息）と第二種奨学金（利息付）の 2 種類があります。いずれの場合も奨学生は、人物・学業ともに優秀であって、経済的理由で学資の支弁が困難な者であることが資格の要件です。第一種奨学金の場合は、第二種奨学金の場合よりも著しく家計困窮であって、特に学力資質が優秀である者を対象としています。これらの資格の要件を備えた者のうちから選考のうえ採用された奨学生には奨学金が毎月貸与されます。

奨学金の返還については、入学当初から卒業まで貸与されるとかなりの金額になるので、出願にあたっては十分念頭においてください。第二種奨学金の貸与利率は、在学中は無利息とし、卒業又は退学後の利率は年 3%以内です。

① 出願

奨学金の貸与を希望する場合は、年 2 回(4月, 9月)の出願時期に、必要書類を揃え提出してください。なお、募集案内は CIT ポータルの掲示にて行います。

目次へ戻る

② 選考基準

(イ) 学力

	第一種奨学金	第二種奨学金
1 年次	高校時の成績が平均値 3.5 以上	① 出身学校又は在籍する学校における成績が平均水準以上と認められること ② 特定の分野で特に優れた資質能力を有すると認められること
2 年次以上	本人の属する学科の上位 1 / 3 以内	③ 学修に意欲があり学業を確実に修了できる見込みがあると認められること ④ 高等学校卒業程度認定試験合格者で、上記のいずれかに準ずると認められること

(ロ) 家計………経済的理由により修学に困難がある場合。

上記基準により学生委員会で総合的に審査し、適格者を日本学生支援機構に推薦します。

日本学生支援機構では全国の推薦者をさらに選考し、採用を決定します。

③ 貸与額

貸与月額 (第一種) 自 宅 20,000円・30,000円・40,000円・54,000円(※)より選択

自 宅 外 20,000円・30,000円・40,000円・50,000円・64,000円(※)より選択

※ 日本学生支援機構の給付奨学金を併せて受給する場合、給付奨学金の支援区分等に応じて貸与月額が調整されます。

※ 最高月額は、申込時における生計維持者の年収が一定額以下の場合に適用されます。

(第二種) 20,000 円～ 120,000 円 (10,000 円単位) より選択

3. 千葉工業大学家計急変奨学金

家計を支えている方の死亡・生別、失職、長期療養などにより、学費の納入が著しく困難な学生を対象として、選考により授業料を給付する卒業後に返済の必要がない奨学金(在学期間中に1回のみ)です。

4. 千葉工業大学災害見舞奨学金

家計を支えている方又は学生が居住している家屋が、災害に被災したことにより、経済的に困難な事態となった場合に給付する返済の必要がない奨学金(上限は20万円)です。

5. その他

「千葉工業大学経済的支援奨学金(3年生以上)」等の給付型奨学金や外部団体からの奨学金などもあります。それぞれに条件が定められていますが、今後学費の納入が困難になってしまった場合は、まず学生担当へ相談してください。

## (5) 厚生

### 1. 千葉工業大学学生共済会

本学には全学生による相互扶助の精神に基づき、会員の疾病、傷害、死亡、災害について救済し、さらに健康増進及び福利厚生を図ることを目的として、「千葉工業大学学生共済会」が設立されています。「共済会のしおり」がCITポータルの「学生資料室－各種申請書・マニュアル」に入っているので、よく読んでおき、該当する事態に遭遇したら、すみやかに手続きをとってください（問合せ先は、各キャンパス学生担当）。

#### 見舞金給付のあらまし

見舞金種類	範囲（内訳）	見舞金額
入院見舞金	a. 正課中・大学行事中の傷害	4,000円／1日（180日限度）
	b. 通学中・大学施設等移動中・課外活動中・大学施設内の傷害	3,000円／1日（180日限度）
	c. 疾病（7日以上）	2,000円／1日（60日限度）
	d. 上記以外（15日以上） （交通事故を含む）	1,500円／1日（60日限度）
死亡弔慰金	a. 正課中・大学行事中の傷害	事故後180日以内200万円 事故後180日以内100万円
	b. 通学中・大学施設等移動中・課外活動中・大学施設内の傷害	
	c. 疾病	20万円
	d. 上記以外（交通事故を含む）	15万円
後遺障害見舞金	a. 正課中・大学行事中の傷害	最高200万円
	b. 通学中・大学施設等移動中・課外活動中・大学施設内の傷害	最高100万円
	c. 上記以外（疾病を除く）	最高15万円
災害見舞金	学生の居住する自宅・下宿・アパート等の焼失、滅失	災害の程度により最高10万円
通院見舞金	a. 正課中・大学行事中の傷害	1,000円／1日（1～15日）
	b. 通学中・大学施設等移動中・課外活動中・大学施設内の傷害	1,000円／1日（5～15日）

#### (1) 学生教育研究災害傷害保険

学生教育研究災害傷害保険へ学生共済会が団体加入しているので、該当すれば、共済会の見舞金のほか、次の保険金が給付されます。

##### ① 死亡保険金（事故の日から180日以内に死亡したとき）

- (イ) 正課を受けている間及び学校行事に参加している間 2,000万円
- (ロ) (イ)以外で通学中や学校施設間の移動中又は学校施設内にいる間及び課外活動を行っている間 1,000万円

##### ② 後遺障害保険金（事故の日から180日以内に後遺障害が生じたとき）

その程度に応じて

- (イ) 正課を受けている間及び学校行事に参加している間 120万円～3,000万円まで
- (ロ) (イ)以外で通学中や学校施設間の移動中又は学校施設内にいる間及び課外活動を行っている間 60万円～1,500万円まで

[目次へ戻る](#)

③ 医療保険金（医師の治療を受けた場合及び入院加算金）

事故発生時の活動の種別		治療日数（注）	医療保険金	
治療日数 1 日 から対象 正課中・学校行事中	(対象外)	1 日～ 3 日	3,000 円	
		4 日～ 6 日	6,000 円	
	治療日数 4 日 以上が対象 課外活動（クラブ 活動）を行って いる間以外で学校施 設内にいる間・通 学特約加入者の通 学中・学校施設等 相互間の移動中	(対象外)	7 日～ 13 日	15,000 円
		治療日数 14 日 以上が対象 学校施設内外を問 わず、課外活動（ク ラブ活動）を行っ ている間	14 日～ 29 日	30,000 円
			30 日～ 59 日	50,000 円
			60 日～ 89 日	80,000 円
			90 日～ 119 日	110,000 円
			120 日～ 149 日	140,000 円
			150 日～ 179 日	170,000 円
			180 日～ 269 日	200,000 円
270 日～	300,000 円			

 入院した場合

入院加算金（180 日限度）
入院1日につき4,000円 いずれの活動種別においても入院1日目から支払われます。

（注）実際に入院又は退院した日数をいいます。傷害を被り治療を開始した日から「医師が必要であると認めた治療が完了した日」の間の実治療日数であり、治療期間の全日数が対象になるわけではありません。

(2) 学生補償サポート制度

学生共済会が全ての会員（学生）を対象とし個人賠償責任補償特約セット傷害総合保険（引受保険会社：損害保険ジャパン㈱）へ加入をしています。24 時間 365 日補償及び示談交渉付きなので日常生活で起きる万が一に対応できます。

① 個人賠償責任補償（国内・国外を問わず、日常生活上、誤って他人にケガをさせたり、他人の財物を壊した際の損害賠償金及び費用（訴訟費用等）を補償。）

※個人賠償責任補償については学生本人と生計を共にする同居の親族も対象となります。

「補償限度額 1 億円」

② 死亡・後遺障害補償（ケガで死亡したとき及び後遺障害を被ったときに補償。）

「補償限度額 10 万円」

2. 学生納付金貸与について

会員の経済環境の急変にともない、修学の熱意があるにもかかわらず、学費の支弁が著しく困難になり、退学又は休学を余儀なくされる会員に対して、学業の継続を援助することを目的として学費の一部を貸与します。

(1) 対象

- ① 学費支弁者が死亡又は生別
- ② 学費支弁者が失職
- ③ 学費支弁者が病気又は事故
- ④ 学費支弁者が火災・風水害等のため高額出費があった場合
- ⑤ 家庭内において病気傷害等のため高額出費があった場合
- ⑥ その他、運営委員会が特に必要と認めた場合

## (2) 申請期間

受付は、随時行い前期は7月15日、後期は1月15日を最終締切日とします。ただし、当日が休日の場合にはその前日を締切日とします。

## (3) 貸与額

原則として当該学年次の学費相当額の2分の1とし、在学期間中の貸与総額は、300万円までです。1999年度PPA設立50周年記念事業の一環として、本貸与制度に対し、多額の基金が寄付されたことにより、3・4年生でやむを得ない事情がある者に限り、当該学年次の学費相当額を貸与することができます。

## (4) 利率

無利子とします。

## (5) 返還期間

在学中は、返還を猶予し、卒業後（最短卒業年数）原則として5年・7年・10年の返還期間からいずれかを選択し、返還するものとします。

## (6) 選考

提出書類を審査の上、運営委員会が面接を行い、学業継続の意志・学費支弁の困窮度・人物・健康・学業成績などから選考します。

## (7) 問合せ

経済環境の急変などがあり、貸与を希望する場合は、クラス担任・各キャンパス学生担当あるいは学生相談室などで相談に応じます。

### 3. 千葉工業大学学生共済会『オンラインカウンセリングサービス』

学生共済会が外部専門機関（(株) cotree コトリー）と契約し、24 時間 365 日利用可能なオンラインカウンセリングサービスです。

また、悩みに合わせてカウンセラーを自分で選ぶこともできます。会員本人（学生）だけでなく保護者まで相談可能です。

#### ▼電話・チャット相談 24 時間年中無休「予約制」

- ・ 人間関係の悩み相談
- ・ 将来・就活の悩み相談
- ・ 学生生活の悩み相談

#### (利用について)

- ・ 法人専用登録コード URL より事前会員登録をしてください。

URL [https://cotree.jp/users/register?code=cotree\\_chibakoudai](https://cotree.jp/users/register?code=cotree_chibakoudai)

- ・ 相談したいカウンセラーを選択します。  
※マッチング診断に答えて頂くとおすすめのカウンセラーをご紹介します。
- ・ カウンセリングの日時を予約します。
- ・ 詳しくは、CIT ポータルの「学生資料室－各種申請書・マニュアル」又は HP を参照してください。



#### 4. キャンパス外厚生施設

##### (1) キャンパス外厚生施設

- ① 利用資格：本学学生及びその家族。
- ② 申込み方法：利用希望者は利用日の7日前までに各キャンパス学生担当において利用申込書に記入し、所定の金額を添えて申込み、利用許可書のコピーを受け取り、当日、フロントに提出してください。現地での申込みは受け付けません。

※詳細については各キャンパス学生担当にお問い合わせください。

名称	御宿研修センター
住所	千葉県夷隅郡御宿町岩和田 1320
電話	0470 - 68 - 6155
交通	J R外房線御宿駅下車，徒歩 18 分
利用期間	年間利用可（休館日・年末年始を除く）
利用料金	宿泊：本学学生 1 泊 2 食付 2,700 円，家族は 3,200 円 ※素泊まりの利用は出来ません

名称	シャトレーゼホテルにらさきの森
住所	山梨県韮崎市穂坂町長久保 520 - 1
電話	0551 - 45 - 7373
交通	JR 韮崎駅下車，タクシー約 25 分 JR 甲府駅下車，タクシー約 30 分
利用期間	年間利用可（休館日を除く）
利用料金	宿泊：本学学生 1 泊 2 食付 2,500 円，家族は 3,500 円 ※素泊まりの利用はできません。

##### (2) その他利用できる厚生施設（PPA 契約保養所）

千葉工業大学 PPA は、保護者と教職員によって構成される団体で、本学の教育・研究の充実を図り、会員相互の親睦と教養を深め、併せて学生および教職員の福祉増進を図ることを目的としています。

その事業の一つとして、本学所有の厚生施設とは別に PPA 独自で民間宿泊施設と契約を結び、会員、学生およびその家族が安く利用できる保養所を開設しています。

なお、保養所を利用する場合は、次ページに記載のある【問合せ先】へお問い合わせください。

【開設施設】

施設名称	都道府県	住所
越後湯沢 湯沢グランドホテル	新潟県	南魚沼郡湯沢町大字湯沢 2494
あてま高原リゾートベルナティオ	新潟県	十日町市珠川
ニュー・グリーンピア津南	新潟県	中魚沼郡津南町秋成 12300
日光きぬ川ホテル三日月	栃木県	日光市鬼怒川温泉大原 1400
箱根湯本 天成園	神奈川県	足柄下郡箱根町湯本 682
ニューウェルシティ湯河原	静岡県	熱海市泉 107
ホテルうかい※	山梨県	笛吹市石和町市部 307
仲間の宿 川きん※	千葉県	南房総市久枝 749
Sport&Do Resort リソルの森※	千葉県	長生郡長柄町上野 521-4

※ ホテルうかい, 川きん, Sport&Do Resort リソルの森は, 合宿用利用料金の設定があります。

【問合せ先】

PPA 事務局 (津田沼キャンパス 1号館 2階 047-478-0209)

新習志野学生担当 (新習志野キャンパス 12号館 1階 047-454-9756)

津田沼学生担当 (津田沼キャンパス 1号館 1階 047-478-0230)

5. 海外研修

国際化時代をむかえ, 本学では, 海外の文化・社会に接してその認識を高めるとともに外からの日本を捉え, 国際的な視野を養ってほしいために, 大学及び PPA からの援助を受け, 毎年海外研修を実施しています。

なお詳細については, 国際交流担当に問い合わせてください。

【問合せ先】

国際交流担当 (津田沼キャンパス 1号館 1階 047-478-0245)

## 6. 居所の紹介

遠く家庭を離れて勉強する学生のため各キャンパス学生担当では、できるだけ安くかつ勉学にふさわしい環境の下宿（食事付の部屋）又は貸間（部屋だけ）の紹介を（株）CIT サービスに委託しています。

なお、下記の事項に注意してください。

- (1) 下宿・貸間一覧表は各キャンパスの購買部に置いてあります。その中で適当なものがあれば先方に出向いて学生証を提示のうえ交渉してください。
- (2) 入居終了後、すみやかに CIT ポータルの「学籍情報変更申請」から住所変更を申請してください。

## 7. 学生寮

学生寮は故郷を離れて入学した学生に住居や勉学の場所の確保を容易にさせると同時に、健全な共同生活を通じて、社会の秩序、規律と人を思いやる精神を身に付けるよう、人格形成に役立たせることに意義を認めて設立されています。場所は新習志野キャンパス内にあり、津田沼キャンパスへはキャンパス間連絡用のスクールバスが通っています。

入寮は新入生を対象とし、希望者は選考の上、入寮を許可されます。途中からの入寮はできません。



## 5. 学内の課外活動の紹介

### (1) 学友会

学友会は、勉学以外の学生生活を明るく豊かにするため、学生相互の親睦、学内環境の改善などを目的として、全学生が協力し自主的に運営する課外活動の場です。全学生が学友会の会員であり、学友会主催の各種行事は誰もが参加できます。

学内において生ずる学生同士の共通の諸問題は、学友会を通じて民主的に解決することになっていきます。学生だけでは解決できない問題に対しては、学生委員会が相談にのり、求められれば助言、協力もします。大学としても、学友会活動がスムーズに行えるように側面から援助しています。

### (2) 体育会

課外活動としての体育会は学生の自主的な活動の場であり、余暇の利用と心身の健康の助長、ストレスの解消、趣味や教養を高め、個性の伸長を図り、さらに集団生活をとおして人間形成のうえに、種々な美点を学びとることにあります。本学の各クラブは全国大会に出場したり、数々の優勝や立派な成績をおさめ、年々充実した活動をしています。また、部長・顧問の教職員とともに楽しい雰囲気の中で親しい先輩や同輩を得、充実した学生生活を送っています。新しい学生生活を送るにあたり、学業との調和のうえに、希望するクラブに入り健全な心身を作りあげることが望まれます。

体育会には、次の 37 クラブがあります。

合気道部 ウインドサーフィン部 空手道部 弓道部 剣道部 航空部 硬式庭球部  
硬式野球部 ゴルフ部 サイクリング部 サバイバルゲーム部 山岳部 自動車部 射撃部  
柔道部 少林寺拳法部 水泳部 躰道部 卓球部 軟式庭球部 バドミントン部  
バレーボール部 ハンドボール部 フォークダンス部 よさこいソーラン風神部  
ラグビー部 陸上競技部 サッカー同好会 スキューバダイビング同好会  
第二テニス同好会 二輪同好会 バasketボール同好会 ワンダーフォーゲル同好会  
テコンドー愛好会 ビーチバレー愛好会 フットサル愛好会 フライングディスク愛好会

### (3) 文化会

文化会は、クラブ活動をとおして趣味を養い、教養を高め、個性を伸ばし、人格の形成を図るとともに新しい文化を創造し、発展させてその恩恵を自己に、また広く一般に還元させることにあります。これらは、各クラブにおける先輩や朋友との深い親交の中で、また顧問など教職員の親密な協力のもとで達成され、大きな成果につながります。このような文化会活動の中で学生各自が努力して、明日への糧となるよう、充実した学業と調和のとれた学生生活を送ることが望まれます。

文化会には次の 34 クラブがあります。

囲碁部 演劇部 環境科学研究会 ギタークラブ ゲームサークル 航空工学研究会  
茶道部 自動車工学研究会 写真部 書道倶楽部 吹奏楽部 精密ロボット工学研究会  
総合工学研究会 ソフトメディア研究会 TRPG 研究会 鉄道倶楽部 電気研究部  
電子工学研究会 天文研究部 動画制作部 陶芸研究会 東洋学術研究会 美術部  
フィッシャークラブ フォークソング研究会 フォトクラブ 放送研究部 マンガ研究会  
民俗音楽研究会 アカペラサークル 軽音学部 手芸倶楽部 将棋倶楽部 模型部

## 〔7〕 その他

### 1. 遺失・拾得物

学内で遺失、拾得した場合は各キャンパス学生担当に届け出てください。持主がはっきりわかっている場合は、本人へ連絡しますが、判明しないものについては各キャンパス学生担当で保管しています。

### 2. 学生宛郵便物

三会（学友会、体育会、文化会）宛の郵便物は津田沼学生担当で扱っています。  
各クラブ宛のものは三会役員がまとめて各クラブの郵便受けに入れていきます。  
個人宛の郵便物は一切受け付けていません。

### 3. 電話の呼出し

学外からの学生個人に対する電話呼出しは原則として受け付けません。ただし、緊急を要する場合には適宜対処します。

### 4. 駐輪場の利用

各キャンパスとも二輪車（自転車及びオートバイ）の駐輪場が設けられています。駐輪場の利用を希望する場合は台数に制限があるので、各キャンパス学生担当で所定の手続きを行ってください。利用にあたっては、次の利用規則に従ってください。

特にオートバイ通学者は、保証人の同意書の提出が必要です。

〔駐輪場の利用規則（自転車・オートバイ共通）〕

- (1) 利用時間は午前7時から午後10時まで（夜間駐車禁止）とする。  
（但し、新習志野キャンパスにおいては寮生を除く）
- (2) 指定された駐輪場以外には、駐輪しないこと。また、係員の指示に従うこと。
- (3) 利用登録については、一度登録すれば在学期間中有効とする。  
（但し、大学院に進学の場合、再申請が必要です。）
- (4) ステッカーは見易い位置に貼付すること。（紛失した場合は再登録が必要）
- (5) 盗難防止のため、駐輪場では必ず施錠すること。（2重ロックが望ましい）
- (6) 駐輪場における盗難・破損等について、大学は一切責任を負わない。
- (7) 駐輪場内整理のため、係員が車両移動させることがある。
- (8) 他人に迷惑を及ぼす行為、駐輪場の管理に支障を及ぼす行為をしないこと。
- (9) 大学の施設・設備等に損害を与えた場合は、賠償の責を負う。
- (10) キャンパス内ではオートバイのエンジンを停止し、指定された通路を通行すること。
- (11) 新習志野キャンパス構内へのヘルメット持込を禁止する。
- (12) ヘルメット用ロッカーを利用する場合は、新習志野学生担当で登録をすること。  
（ロッカー登録手数料年間1,000円）
- (13) 提出された駐輪場利用許可願い・保証人同意書に記載されている個人情報には大学で管理を行い、駐輪場管理業務以外の目的には利用しない。
- (14) 登録を取り消す場合は、速やかに各キャンパス学生担当へ申し出ること。  
（ロッカー利用者は新習志野学生担当へ申し出ること）
- (15) 車両を放置した場合は、撤去対象とする。

## 5. 自転車通学について

交通事故から自分の身を守るだけでなく、周りの人の迷惑とならないよう、地域社会の一員としてマナーを守るようにお願いします。

また、道路交通法の改正により「ながらスマホ」と「酒気帯び運転」は罰則（懲役または罰金）の対象となりました。絶対に行わないでください。

## 6. 自動車通学禁止

本学では、学生の自動車通学を禁止しています。授業開講時期となると、大学近隣に本学学生のものであると思われる自動車が多く駐車しており、企業・住民などからの苦情が頻繁に寄せられています。

また、構内に無断で車両乗り入れをしていることが発覚した場合には、処分の対象となるので、自動車による通学は絶対に行わないでください。

## 7. 学内美化

学内美化のため、次の各項目を遵守してください。

- (1) 大学施設内全面禁煙
- (2) ゴミの放置禁止
- (3) 机の落書き禁止

また、毎月第2水曜日にクリーンデイを行っているので、学内美化に協力してください。

## 8. 物品の販売

学内における、物品等の販売は原則として禁止します。

また、大学名を使用して物品の販売や旅行の参加募集をする業者がありますが、学内に許可されて掲示されたもの以外は、本学と無関係なので十分注意してください。

## 9. 運動用具貸出し

運動用具は、新習志野学生担当で貸出しを行っています。貸出しを希望する際は、学生証を提示してください。

(用具) ソフトボール・グローブ・バット・テニスラケット・テニスボール・フットサル用ボール

## 10. 悪質商法の注意

次のような特殊商法（アポイントメント商法、キャッチ商法など）があるので十分注意し、万一被害にあった場合には消費者保護の制度（クーリング・オフ）があるので、詳しくは各キャンパス学生担当に相談してください。

アポイント商法： 電話やハガキで「コンピュータで選ばれた」「記念品がある」などと誘う。

キャッチセールス商法： 路上・駅周辺などで「アンケート」「無料診断」などと誘う。

かたり商法： 「役所」などからの訪問をよそおい若者の無知につけこむ（役所が直接物を売ったり勧めたりはしない）。

マルチ商法： 友人から友人へ「儲かる」と次々に紹介していく。

## 11. 特殊詐欺・闇バイトの注意

特殊詐欺や闇バイトに加担すると、悪いこととは知らなかったでは許されません。怪しいアルバイトがあったら、まずは疑ってみてください。楽をして大金を稼げるアルバイトは存在しません。

少しでも怪しいと思ったら、一人で悩まずに警察、各キャンパス学生担当に相談してください。

## 12. 大学内での宗教勧誘活動禁止

本学では、学内での宗教の勧誘活動を禁止しています。

学内において、このような活動を見かけた場合は、各キャンパス学生担当まで連絡してください。

第3章

修学について

- [1] 新習志野教務担当・津田沼教務担当の取扱事項 ..... 43
- [2] 学籍 ..... 43
  - (1) 修業年限と在学年限 ..... 43
  - (2) 欠席・休学・復学・学年降下・退学・除籍・再入学 ..... 43
- [3] 履修要項 ..... 44
  - (1) 単位 ..... 44
  - (2) 科目の区別 ..... 45
  - (3) 履修できる科目と履修 ..... 45
  - (4) 履修手続き ..... 46
  - (5) 試験 ..... 46
  - (6) 科目の成績 ..... 47
  - (7) 補充授業 ..... 48
  - (8) 補習授業 ..... 48
  - (9) 再履修 ..... 48
  - (10) 単位の認定 ..... 48
  - (11) GPA 制度 ..... 50
  - (12) 進級資格要件及び卒業資格要件 ..... 50
  - (13) 成績優秀者に対する教育制度 ..... 51
- [4] 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム ..... 52
- [5] 特別専門学修プログラム ..... 52
- [6] 学生サポートセンター・グローバルラウンジ ..... 53
  - (1) 学生サポートセンター ..... 53
  - (2) グローバルラウンジ ..... 55

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カリキュラム・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カリキュラム・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

## 修学について

工学部の学生に共通する修学に関連のある事項について説明します。なお、教育課程や進級・卒業資格は第4章「進級資格要件及び卒業資格要件, 教育課程表（学生資料室「入学年度・学科選択」－「進級要件・卒業要件・教育課程表」－「学科名」）を、授業内容や時間表, 履修手続きなどは, CIT ポータルの「シラバス検索」及び学生資料室の「授業時間表&履修ガイド」を参照してください。

学生資料室 進級要件・卒業要件・教育課程表, 授業時間表 & 履修ガイド

URL : <https://kmsk.is.it-chiba.ac.jp/portal/>

CIT ポータル シラバス検索

URL : <https://portal.chibatech.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

修学に関する事務上の取扱いは教学センター内にある新習志野教務担当, 津田沼教務担当が行っています。

以下, 工学部の学生に共通する事項を説明します。

### (1) 新習志野教務担当・津田沼教務担当の取扱事項

新習志野教務担当及び津田沼教務担当の取扱事項は次のとおりです。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 履修手続きに関する事項
- (3) 授業に関する事項
- (4) 試験に関する事項
- (5) 成績に関する事項
- (6) 学籍等に関する事項
- (7) 学生証及び成績等の証明書に関する事項
- (8) 欠席, 休学, 復学, 学年降下, 退学, 除籍, 再入学及び卒業に関する事項
- (9) 教育職員免許に関する事項
- (10) 科目等履修生及び研究生に関する事項
- (11) その他教務に関する事項

### (2) 学籍

#### (1) 修業年限と在学年限

本学の課程を修め卒業するために必要な修業年限(在学しなければならない最低年数)は4年であり, 在学年限(在学できる最長年数)は8年です。また, 同一学年に在学できる年限は3年です。ただし, 休学期間は上記いずれの年数にも算入されません。

#### (2) 欠席・休学・復学・学年降下・退学・除籍・再入学

① 欠席について……病気・ケガ・忌引など, やむを得ない理由で授業を欠席する場合の手続きはその期間によって異なります。

(a) 1カ月未満……………所定の欠席届に記入の上, 科目担当教員に直接提出します。

学生資料室 欠席届(1ヶ月未満)

URL : [https://kmsk.is.it-chiba.ac.jp/portal/whole/gakubu/absence\\_notification.pdf](https://kmsk.is.it-chiba.ac.jp/portal/whole/gakubu/absence_notification.pdf)

(b) 1 カ月～6 カ月未満……所定の欠席届に記入の上、各キャンパス教務担当に提出します。

この欠席届は各キャンパス教務担当窓口で配布しています。

(郵送や CIT ポータルでの送付も可能です)

- ② 休学・復学について……疾病その他の理由により年度内に6 カ月以上授業に出席できない場合、学長の許可を得て休学することができます(学則第35条)。休学願は各キャンパス教務担当の窓口で配布しています(郵便や CIT ポータルでの送付も可能です)。

提出期限(厳守)

○ 前期からの休学を希望する場合：前年度の3月31日まで

○ 後期からの休学を希望する場合：後期授業開始の前日まで

なお、休学期間は1年以内(1年間または前期・後期の学期単位)です。特別な事情がある場合は、引き続き休学することができますので、事前に各キャンパス教務担当まで相談してください(通算して4年以内)。また、休学期間満了後に引き続き休学する場合は、あらためて休学願を提出する必要があります。

休学する場合は、休学する学期ごとに休学在籍料と諸会費111,250円(休学在籍料100,000円+PPA会費5,000円+同窓会終身会費分納金5,000円+学生共済会会費1,250円)を納入します(海外留学を伴う休学については、在籍料の減免制度が適用される可能性があるか窓口にお問い合わせください)。休学期間は在学期間には算入されません。休学している学生が病気回復・事情の好転等により復学する場合は、各キャンパスの教務担当に相談してください。

- ③ 学年降下について……進級資格の要件は満たしていても、単位不足によりその後の履修に困難が予想される場合、本人の申し出により学年を降下することができます。
- ④ 退学について……事情により退学を希望する学生は、退学理由を明記のうえ所定の退学願を提出し、学長の許可を得なければなりません(学則第39条)。退学願は各キャンパス教務担当の窓口で配布しています(郵送や CIT ポータルで送付も可能です)。
- ⑤ 除籍について……次の各項に該当する学生は、除籍になります(学則第41条)。  
ただし、除籍が確定するまでに退学が許可された場合は退学となります。
- (a) 定められた期間内に所定の授業料を納入しない者(学生納付金納入細則参照)
- (b) 在学年限(8年)を満了して、なお卒業できない者
- (c) 休学期間の限度(通算4年)を超過した者
- (d) 長期間行方不明の者
- (e) 同一学年に3年間在学し、なお進級・卒業できない者
- ⑥ 再入学について……所定の手続きをして本学を退学した者又は授業料の滞納や休学期間の超過によって除籍された者は、退学した又は除籍された月の翌月から起算して4年度以内に限り再入学を出願できます(ただし、出願の受付については、大学の定める所定の期間内に行われず)。事情が好転し、勉学の継続が可能になった場合、各キャンパス教務担当に相談してください。

## (3) 履修要項

### (1) 単位

本学の教育課程は単位制に基づいて編成されています。

単位制とは、教育課程に従って授業科目を履修し、その科目の学力が一定の水準に達したときに単

位が認定され、修得した単位数が進級の要件を満たすことにより進級でき、卒業の要件を満たすことによって学士の学位が与えられる制度です。

授業科目の標準単位数は、授業時間及び自学・自習時間を合わせて45時間の学修時間をもって1単位としますが、科目の性質により次の基準によって計算されます。

- ① 講義及び演習は、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とします。
- ② 実技、実験、実習及び製図は、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とします。

## (2) 科目の区別

- ① 科目の区分……授業科目は、その内容により教養科目と専門科目の科目群に区分されます。教養科目は「教養基礎科目」、「教養共通科目」、「教養特別科目」、専門科目は「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」の分野に分かれています。

進級及び卒業の要件を満たすためには、それぞれ科目群別・分野別に所定の単位を修得する必要があります。

教養科目……………現代人として必要な人間力（知識、汎用的技能、態度、思考）やコミュニケーション能力を養う科目。

- ・教養基礎科目は「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」に分類されます。
- ・教養共通科目は「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」に分類されます。
- ・教養特別科目は11科目で構成されます。

専門科目……………各学科の教育目標を達成するために、学科ごとに、専門知識を基礎から応用まで体系的に修得できるように編成された科目であり、以下の分野で構成されます。

専門基礎科目…工学に関する基礎的知識を修得するため、数学及び自然科学から編成される数理科学の基本を学ぶための科目。

専門基幹科目…専門知識修得のための中心となる科目。

専門展開科目…専門的知識及び技術を修得するための科目。

- ② 科目の種別……科目の種別は以下の科目に分けられていて、その内容は次のとおりです。

必修科目……………必ず単位を修得しなければならない科目。

選択科目……………自由に選択して単位を修得できる科目。

## (3) 履修できる科目と履修

履修できる科目は次のとおりです。詳しくは学生資料室の「授業時間表&履修ガイド」を参照してください。

- ① 科目の履修……履修して単位を修得できるのは、在籍している学科の教育課程表（第4章、学生資料室「入学年度・学科」選択検索－「進級要件・卒業要件・教育課程表」－「学科名」参照）に示した科目のうち、在籍年次以下の学年に開講されている科目に限られます。

1年間の履修登録可能な単位数（CAP）は前期・後期合わせて40単位を上限とします。なお、年間の履修登録できる単位数上限に含めない科目（CAP除外科目）があるので、教育課程表を確認してください。また、履修の上限は修得単位数の上限ではないので注意してください。

- ② **特別講義**の履修……教養科目で2単位まで、専門科目で4単位まで履修し、資格の要件に算入することができます。原則として下級年次学生の履修は認めませんが、開講学科が認めた場合は履修できます。

年度毎に開講内容の詳細をCITポータルでお知らせします。

※単位の取扱いは履修規程(第9章, 学生資料室「入学年度・学科」選択検索-「諸規程」-「履修規程」参照)も参照してください。

- ③ **放送大学及び他大学開講科目**の履修……放送大学及び他大学開講科目の履修を希望する場合は、「(10)単位の認定」についての記載を参考にして手続きをしてください。

#### (4) 履修手続き

本学開講科目……履修する全ての科目は原則として履修手続き期間内に各自でCITポータルを利用して登録しなければなりません。その詳細については学生資料室の「授業時間表&履修ガイド」を参照してください。

〔履修手続き期間〕毎年指定の期間に年間の履修登録を行います(詳しい日程はCITポータルで通知します)。

この手続き期間の後、履修申請した科目が正しく登録されているかどうかCITポータルで必ず確認し、必要であれば履修訂正期間に追加・削除等を行ってください。

〔履修訂正期間〕前期：なし(新入生のみ4月下旬に訂正)、後期：9月中旬頃から

履修手続きをしていない科目については、仮に合格と評価されてもその単位は修得できないので注意してください。

履修削除……履修訂正期間後に登録確認の遺漏や履修計画の変更等の理由により受講を取り止めた科目が生じた場合には、履修削除期間(期間は、各学期授業開始後8週目付近に設定します)に申請することができます。ただし、履修削除は当該授業科目を担当する教員が許可した場合に限ります。

#### (5) 試験

##### 試験の種類

- ① **講義内試験**……授業時間内に科目担当教員が行う試験です。(施設等の関係で、日時・場所が平常授業とは異なることがあります。その際には前もって科目担当教員から連絡があります。)
- ② **共通試験**……前期末及び後期末に試験時間表に従って行われます。試験時間表は、前期は6月中旬に、後期は11月中旬にCITポータルで通知します。
- ③ **追試験**……病気、怪我(いずれも診断書が必要)、忌引(2親等まで)、通学区間における交通機関の遅延(遅延証明書が必要)等やむを得ない理由で講義内試験(期末試験)又は共通試験を受けることができなかった学生で、科目担当教員が認めたときに限って行われる試験です。

試験を受けることができなかった場合	提出書類	取扱窓口	申請期限
病気・怪我の場合	欠席期間入りの診断書や受診証明書(様式あり)又は、治癒証明書	各キャンパス 教務担当	年度で異なるため、CITポータルで通知します
通学区間における交通機関遅延の場合	遅延証明書		
忌引(2親等まで)の場合	会葬礼状		

- ④ 再試験…通常の授業科目において成績が不合格になった場合に、科目担当教員の判断により補充期間内に受けられる試験です。実施となる場合は、前期は7月・8月、後期は1月・2月の期間で実施されます。

対象者は科目担当教員がもう少しで合格基準に達すると判断した学生のみで、該当者には各キャンパス教務担当から個別にCITポータルで連絡しますので、受験希望者は所定の手続き（1科目につき受験料2,000円がかかります）をしてください。

### 試験の方法

試験は筆記試験、口述試験、実技、レポートなどの様々な方法があり、またこれらを組み合わせる場合もありますので、科目担当教員の指示に注意してください。

### 受験心得

- ① 受験者は試験開始時刻までに試験場に入り、指定された座席に着席する。
- ② 筆記具（鉛筆・シャープペンシル・消しゴム）及び許可された物品以外のものは、カバン又は袋等に入れ、監督者の指示する場所に置く。また、携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、腕時計型端末などの電子通信機器は必ず電源を切り、カバンの中にしまう。
- ③ 着席後は、必ず学生証を机上（試験監督者の見やすいところ）に置く。もし、学生証を忘れた場合は、各キャンパス教務担当に申し出て、仮受験票（有料・当日限り有効）で受験する。
- ④ 試験開始後、直ちに在籍学部・学科・学年・学生番号・氏名を記入する。
- ⑤ 試験開始後30分間は退出できない。また、遅刻者の入場は、試験開始後20分間は許可するが、以後は許可しない。
- ⑥ 試験中、受験者は監督者の指示に従う。監督者の指示に従わない者は受験を停止させる。
- ⑦ 解答の有無にかかわらず、答案用紙は必ず提出する。
- ⑧ 退出した後、廊下等で絶対に騒がない。
- ⑨ 試験中の不正行為は絶対に行わない。不正行為を行った者は、学則第45条に従って、「当該学期全ての受講科目零点・1週間の停学」、「当該学期の全科目零点・退学」などの厳罰に処される。

なお、不正行為を行った場合は、個人情報保護法に関わらず、学科名、学年、学生番号、氏名、処分内容を掲示します。

### (6) 科目の成績

- ① 成績の評価……成績は、普段の学習状況及び試験（口述試験、実技、レポート、課題作品なども含む）の成績などによって評価されます。
- ② 成績の表示……成績は、次の記号や文字で表示されます。ただし、合格・不合格のみを表示する場合もあります。

成績表の表示記号	評点及び評価	
S	100点～90点	} 合格
A	89点～80点	
B	79点～70点	
C	69点～60点	
D	59点以下	不合格
認定	学科・教育センターにより単位認定された科目（合格）	

※ただし、Sの表示はCITポータルのみ。

合格	各学科が特定科目について合格と判定するもの（合格）
不合格	各学科が特定科目について不合格と判定するもの（不合格）
履修中	受講中であって、評価されていない科目
欠席	授業及び試験等を欠席した科目（不合格）
保留	成績の評価が保留されている科目（不合格）

- ③ 保留……科目担当教員が成績の評価を保留した場合、成績表には「保留」と表示されます。この場合は、成績確認期間前に科目担当教員の指示が掲示されますので、その内容に従ってください。その後、期日までに評価が提出された場合は、その評価が確定します。
- ④ 成績の確認……成績は、CIT ポータルで確認できます。

### (7) 補充授業

履修した科目の成績が不合格の学生に対して、科目担当教員の判断により補充授業を行ったうえで、再評価する場合があります。補充授業は年 2 回（前期：7 月・8 月 後期：1 月・2 月）実施されます。通常試験終了後、該当者には各キャンパス教務担当から個別に CIT ポータルで連絡しますので、受講希望者は所定の手続き（1 科目につき受験料 2,000 円がかかります）をしてください。

### (8) 補習授業

進級や卒業に重要な授業科目（学科により異なる）で、学科が必要と認めた場合、補習授業を開設することがあります。

開設科目については各学期の成績評価後、CIT ポータルで連絡をします。ただし補習授業の受講には、補習授業が開設される前の学期までにその授業科目を受講していることが必要です。

補習授業を受講する場合は履修手続きをしなければなりません。なお、補習授業の単位数は年間履修上限の 40 単位には含まれません。

### (9) 再履修

開講学期で履修したにもかかわらず、不合格で単位を修得できなかった科目は、次学期以降に再履修することができます。ただし、再履修の単位数は年間履修上限の 40 単位の一部として含まれるので、注意してください。

再履修では当該科目を再度受講し、再度試験を受けることとなります。再履修を希望する場合は、正規科目と同様、履修手続きをしなければなりません。

### (10) 単位の認定

- ① 放送大学・他大学開講科目……在籍学科が認めた科目を履修し、単位を修得すると、資格の要件に必要な単位として認定されます。ただし、放送大学及び他大学開講科目を合わせて 60 単位までとします（学科によっては単位数の上限を別に定めている場合があるので注意してください）。また、原則として単位の認定は、放送大学及び他大学において単位を修得した次の学期に行われます。 本学ホームページ 単位互換連携大学

URL：<https://chibatech.jp/about/support/credit.html>

なお、放送大学及び他大学開講科目の履修手続きは次のとおりです。

放送大学開講科目……放送大学では、本学学生を「特別聴講学生」として受け入れています。在籍学科又は教育センターが認めた科目を履修し、単位を修得すると単位認定され、資格の要件に

算入されます。ただし、「特別聴講学生」として履修できる期間は、1年次後期から4年次前期までです。

受講希望者は、各キャンパス教務担当に用意してある出願票で期日までに手続きをしてください。

受付期間 前期：前年度1月下旬 後期：7月中旬

※本学の履修手続き期間とは異なるので注意してください。

受講料は1単位6,000円（2026年4月現在）で、出願票提出後、放送大学から受講料納付書が送られてきますので期日（前期：前年度3月中旬 後期：9月中旬）までに納付してください。

入金が確認され次第、入学許可証と教材が送付されます。

**他大学開講科目**……千葉県内私立大学間（短期大学を含む）及び千葉大学工学部との間における単位互換協定に基づいて、県内の大学で開講されている科目を特別聴講学生として履修することができます。

本学指定の科目の単位を修得すると、単位認定され、資格の要件に算入されます。ただし、「特別聴講学生」として履修できる期間は1年次後期から4年前期までです。なお、履修できる科目については各キャンパス教務担当に問い合わせてください。

受講希望者は、各キャンパス教務担当に用意してある出願票で期日までに手続きしてください。

受付期間 前期：前年度2月～3月頃 後期：7月下旬～8月頃（大学ごとに異なるので窓口にお問い合わせください。）

- ② **英語海外研修**……本学の主催する英語海外研修に参加した場合、単位認定を受けることができます。単位認定に必要な条件等は説明会に出席するか国際交流担当へ問い合わせてください。
- ③ **外部資格**……大学在籍中に TOEIC 450点以上又は英語検定 準2級以上を取得した場合、所定の手続きにより下記の表-1に示してある科目の単位認定を受けることができます。

※②英語海外研修と③外部資格を合わせて最大2科目2単位まで単位認定を受けることができます。

表-1

外部資格	認定基準	対象となる授業科目	備考
TOEIC	450点以上－ 599点以下	[教養特別科目区分] ・イングリッシュアクティブラーニング1～3	1科目1単位まで
	600点以上	[教養特別科目区分] ・イングリッシュアクティブラーニング1～3 [コミュニケーションスキル区分] ・基礎、中級、上級の所属クラス全開講科目	2科目2単位まで ※但し、コミュニケーションスキル区分の科目は、1科目1単位まで
英語検定	・準2級 ・準2級プラス	[教養特別科目区分] ・イングリッシュアクティブラーニング1～3	1科目1単位まで
	2級以上	[教養特別科目区分] ・イングリッシュアクティブラーニング1～3 [コミュニケーションスキル区分] ・基礎、中級、上級の所属クラス全開講科目	2科目2単位まで ※但し、コミュニケーションスキル区分の科目は、1科目1単位まで
受付期間	各学期共通試験日の翌日まで (詳細は各キャンパス教務担当にて確認してください)		

※単位認定は、大学在籍中に取得した場合に限ります。

## (11) GPA 制度

本学部では、学業成績を示す基準として、「S」「A」「B」「C」「D」の成績評価に加えて GPA (Grade Point Average) 値の表記をしています。

GPA は、学生の成績を総合的に評価するために、履修及び修得した単位と成績を数値化し、適切な学修指導や進路指導を行う目的で導入しています。

① GPA には 2 種類あって、セメスターごとの平均点を求めたものを単に「GPA」又は「セメスター GPA」、すべてのセメスターの平均点を求めたものを「累積 GPA」とよびます。

② GPA の計算

各セメスターの GPA は次のように計算されます。当該セメスターにおいて、評価 S, A, B, C の科目の合計単位数をそれぞれ s, a, b, c とし、履修登録科目の合計単位数（不合格の科目の単位数を含む）を n とするとき

$$(\text{GPA}) = \frac{4s + 3a + 2b + c}{n}$$

で算出します。

また、累積 GPA は次のように計算されます。第 1 セメスターから当該セメスターまでの評価 S, A, B, C の科目の累積合計単位数をそれぞれ  $\sigma$ ,  $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$  とし、履修登録科目の累積合計単位数（不合格の科目の単位数を含む）を N とするとき

$$(\text{累積 GPA}) = \frac{4\sigma + 3\alpha + 2\beta + \gamma}{N}$$

で算出します。

これらの GPA の計算では、除外科目が設定されていますので、教育課程表で確認してください。

なお、年間の累積 GPA が 1.0 未満となった学生は、今後の修学意思について確認の面談を行います。

## (12) 進級資格要件及び卒業資格要件

教育課程に従って進級・卒業するためには、次の資格要件に定める所定の単位を修得する必要があります。詳細は各学科教育課程表（第 4 章、学生資料室「入学年度・学科」選択検索－「諸規程」－「履修規程」参照）の冒頭に記載しています。

① 第 2 年次進級資格要件

2 年次に進級するために必要な修得単位数が決められています。

「第 2 年次進級資格要件」を熟知しておいてください。

② 第 3 年次進級資格要件

3 年次に進級するために必要な修得単位数が決められています。

「第 3 年次進級資格要件」を熟知しておいてください。

③ 第 4 年次進級資格要件

4 年次に進級するために必要な修得単位数が決められています。

3 年次までの在籍期間中に修得する必要がある単位数や科目の科目群別・分野別・種別ごとの修得単位数、特定の科目の修得など各学科で詳細に定められていますので熟知しておいてください。

④ 卒業資格要件

学則により卒業の資格は次のように定められています。ただし、科目の種別の修得単位数、特定の科目の修得など各学科で詳細に定められていますので必ず在籍学科の卒業資格要件を確認してください。また、総単位数には教職科目は含まれませんので注意してください。

総単位数	124 単位以上
教養科目	35 単位以上
専門科目	89 単位以上

(13) 成績優秀者に対する教育制度

工学部では、成績優秀であると認められる学生に対して、より意欲的な学修が可能になるよう成績優秀者先行履修制度と短期卒業制度を用意しています。制度毎に成績優秀者と判断するための基準要件が定められていますので、この基準要件を満足し、制度の利用を希望する学生は、必ず学生総合窓口にご相談してください。

① 成績優秀者先行履修制度

成績優秀者先行履修制度は、1年次を終えた時点での成績が優秀であると判断された学生に対して、2年次の段階で3年次に開講されている一部の授業科目を履修することができる制度です。(3科目6単位まで [キャリアデザイン3はこの制限に含みません]、履修が許可される科目は対象者となった時点で通知します。) ※年間履修単位数の上限には含みません。

[申請のための基準要件]

- ・ 1年次終了時点で、40単位以上(38単位まで可)を修得し、累積GPAが3.8以上であること。

② 短期卒業制度

短期卒業制度は、成績優秀者先行履修制度から更に成績優秀と判断された学生に対して、短期卒業(学部で3年又は3年半の在学で卒業となる)候補者となるための申請が出来る制度です。申請のうえ、短期卒業候補者と認められた学生は、学部における3年又は3年半の在学で卒業要件を満足することで、本学大学院に進学する権利と共に卒業を許可されます。

※卒業要件を満足するために必要な4年次開講科目は、年間履修単位数上限に含みません。

[申請のための基準要件]

- ・ 2年次終了時点で、80単位以上(78単位まで可)を修得し、累積GPAが3.9以上であること。
- ・ 成績優秀者先行履修制度で3単位以上を修得していること。
- ・ 本学大学院に進学する意思があること。(最終的に本学大学院の入学試験に合格していること。)

以上の要件を満足したうえで、工学部長及び所属学科長、所属学科長以外の学科長1名と面談し、申請の許可を得る必要があります。

各制度の利用に関しては、必ず学生総合窓口にご相談してください。

はこめじ

学生生活1105N

進学1105N

学部紹介・進級指導及び卒業指導  
教育課・キャリアセンター・教育研究室

各学科で取得可能な資格1105N

教育職員免許1105N

## 〔4〕 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

本学では、技術者として必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎知識やスキルを修得し、それらを有益に活用するための基礎的な素養を身に付ける教育プログラムを必修化しています。

本学ホームページ 数理・データサイエンス・AI 教育

URL : <https://chibatech.jp/faculty/ai.html>

数理・データサイエンス・AIの基礎的な素養を身に付けることは、これまでのAI、ロボット、センシング（センサー）などの工学分野のみならず、専門領域を超えて、あらゆる分野、ビジネスに必要な不可欠な学修となっているためです。

本学における数理・データサイエンス・AI教育プログラムの構成科目は、以下のとおりとなりますので、必ず修得してください。（以下の2科目を修得することで、教育プログラムの完成となります。）

### 〔数理・データサイエンス・AI 基礎教育プログラムの構成科目（全学部共通）〕

教育課程上の科目群・分野・分類名	授業科目の名称	単位区分	単位数
教養科目・教養基礎科目・情報リテラシー	数理・データサイエンス・AI 入門	必修	1 単位
教養科目・教養基礎科目・人間力養成	初年次教育	必修	1 単位

※このプログラムは、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されています。



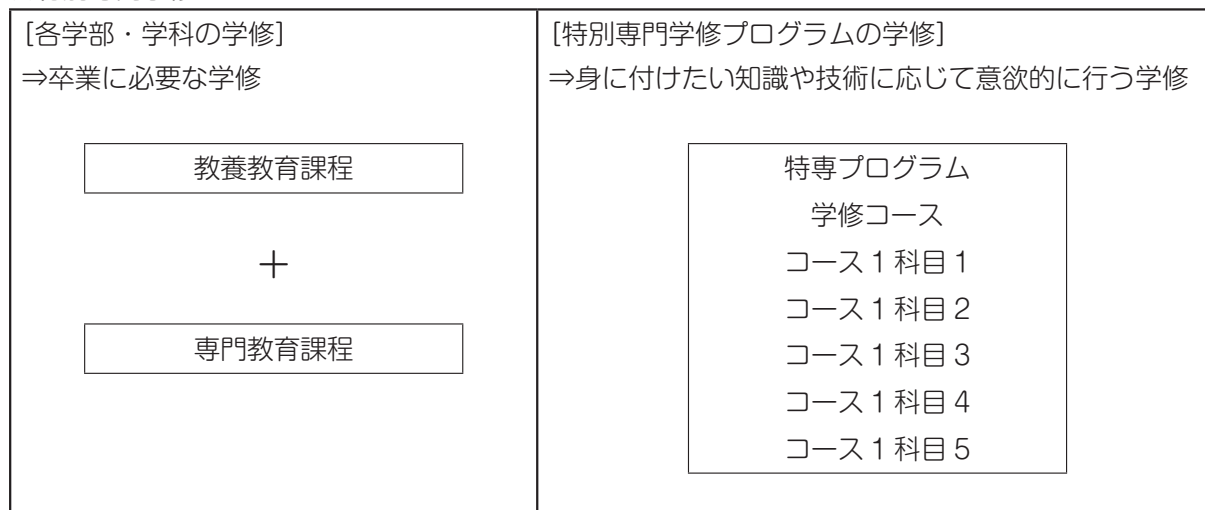
## 〔5〕 特別専門学修プログラム

現代の高度情報化社会では、一定の専門領域をも越えて、他領域との融合による新たな価値の創造を目指すための知識・技術や将来的に社会変革をもたらすような最先端技術のリテラシーが求められることとなります。

本学では、自身の所属する学部・学科の学修に加えて、全ての学生がこれらの知識・技術を意欲的に学修できるよう、一定のテーマに基づいた複数の授業科目が体系的に構成される「特別専門学修プログラム（以下「特専プログラム」）」を開講しています。

※ 特専プログラムの中には一定のテーマ毎にコースが設定されますので、学修するコースを選んでいただくこととなります。

★特別専門学修プログラムのイメージ



特専プログラムに設定されるコースでは、最初にコースを受講するための登録が必要になります。また、学修の方法やコース修了の要件などもコース毎にそれぞれ設定されます。

そのため、受講可能なコース、コース登録方法、学修方法及びコース修了要件は「千葉工業大学特別専門学修プログラム\_受講要項 (CIT ポータルから案内)」に示していますので、ご参照ください。

有益な学修にあたり、全体的に必要な留意事項は以下のとおりです。

[特専プログラムの学修に関する留意事項]

- ・ 特専プログラムの各コース学修は、通常の学部・学科での学修と異なり、必要に応じた意欲的な学修となります。そのため、コース学修により修得した単位数は卒業に必要な単位数には加算されません。
- ・ 特専プログラムの各コースには修了の要件が設定されおり、コース単位で修了要件を満たした時点で「特別専門学修プログラム (〇〇コース) 修了証明書」が NFT で発行されます。

## [6] 学生サポートセンター・グローバルラウンジ

### (1) 学生サポートセンター

本学ホームページ 学生サポートセンター

URL : <https://chibatech.jp/about/support/shiencenter.html>

#### [1 階] 学生生活支援 (通称 がくさぼ)

主に1・2年生を対象にあらゆる学生生活の悩みなど、どこに聞けば良いのか分からない時などいつでも気軽に相談することができる場所です。3・4年生を中心とした先輩たちが相談役として、丁寧に対応します。

落ち着いた室内はパーテーションで仕切られた場所もあり、プライベートな相談事にも配慮しています。また、静かに自習したり、授業の合間の休憩場所としても利用可能です。

時々イベントも開催していますので、ぜひご利用ください。

[2階] 修学支援 学生サポーター 自習スペース

主に1・2年生の学びをサポートする組織です。専任スタッフが、大学での専門的な学習の前提となる数学・物理学・化学・英語等に対して、習熟度が十分でない分野の基礎学力の習得支援や学生個人にあった支援を行っています。学習支援の形態としては、個別の質問受付け、各種特別講座、特定の科目とリンクした形での支援等があります。個別の質問受付けについては、予約は不要です。また、広い自習スペースは個人でもグループでも自由に利用することができます。開設時間内であればいつでも気軽に利用できます。

また、授業期間中は、学生サポーター（通称 SA、2年生～4年生・院生）が履修相談や専門科目の学習を中心とした、修学の幅広いサポートも行っています。

場 所：新習志野キャンパス 10号館

開設曜日：月曜日～金曜日

開設時間：10：00～17：00（学生サポーターのみ 12：00～17：00）

※学生生活支援（通称 がくさぼ）と学生サポーター（通称 SA）は授業期間中のみです。

内 容：数学

大学での数学が難しくてわからないという学生が多く見受けられますが、その原因は小学校から高校までの段階で学んだことが曖昧になっていることがほとんどです。学生サポートセンターでは「わからないこと」を足がかりにして、質問に来る学生諸君一人一人の「抜けている基礎」に気づいてもらい、そこからひとつずつ積み上げることで広がる数学の世界の奥深さに気づいてもらうことを目指しています。

：物理学

物理学は積み重ねの学問です。従って、高校までの基礎がしっかりと固まっていないと大学で学修成果を十分に上げることができません。学生サポートセンターでは、一人一人の「わからない」をなくすために基礎的な部分から徹底的にサポートし、着実に、そして確実に基礎を固められるように実力アップを図っています。

：化学

化学は、苦手な人ほど暗記に頼る学習をしています。化学も他の理工系科目と同様に、理解する学習が必要です。学生サポートセンターでは、授業でわからなかったことや忘れてしまった高校レベルの基礎から大学で習う専門科目までじっくり指導するとともに、一人一人に合った効果的な学修方法もアドバイスしています。さらに、多くの学生が苦手としている実験考察のまとめ方についても助言を行っています。

：英語

大学での英語は、「英語を道具として使用する」ことにあります。たとえば英語で書かれた専門書を読んだり、英語で論文を書いたりする機会もあると思います。そのためには、確かな文法力と英語を構造としてとらえる力が必要です。学生サポートセンターでは、中学、高校の英語まで遡り、疑問の解消と親身なアドバイスで、皆さんの英語学習を強力にバックアップします。

## (2) グローバルラウンジ

本学ホームページ グローバルラウンジ

URL : <https://chibatech.jp/about/global-rounge.html>

グローバルラウンジでは、英語のネイティブスピーカー 3 名が常駐しています。英語力を高めるためには、知識だけでなく体験を積み重ねることがとても大切です。楽しく学ぶことのできる環境の中で、英語によるコミュニケーションの練習や補完的な授業などを行っています。

対面だけでなく、オンラインによるレッスンも実施していますが、受講のための予約が必要です。空き時間を確認し、ぜひ利用してください。

場 所：新習志野キャンパス 12 号館 2 階

開設曜日：月曜日～金曜日（授業期間中）

利用時間：10：30～17：55

※津田沼キャンパスでもレッスンを実施しています。詳細はお問い合わせください。

### 【問合せ先】

グローバルラウンジ 047 - 454 - 9967

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カリキュラム・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

第 4 章

学部学科紹介・進級資格要件及び卒業資格要件・  
教育課程表・カリキュラムツリー・教員研究室

工学部 ディプロマ・ポリシー, カリキュラム・ポリシー	59
機械工学科	61
宇宙・半導体工学科	70
先端材料工学科	79
電気電子工学科	87
情報通信システム工学科	96
応用化学科	106
教員研究室一覧	116

はじめに

学生生活について

修学について

学部学科紹介・進級資格要件及び卒業資格要件・  
教育課程表・カリキュラムツリー・教員研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カリキュラム・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

# 工学部

## Faculty of Engineering

### ディプロマ・ポリシー

工学部は、社会ならびに産業界の工学分野およびその学際領域において、建学の精神である世界文化に技術で貢献する人材の育成を目的とし、卒業時点で学生が身に付けるべき以下の6項目の能力を定め、これらの能力の獲得とカリキュラム上で定める所定単位（教養科目 35 単位以上、専門科目 89 単位以上、合計 124 単位以上）の取得をもって、人材像の達成とみなし、学士（工学）を授与する。

[工学部の学生が卒業時点において身に付けるべき能力]

- (1) 自然科学に関する基礎学力に裏付けられた工学分野での専門基礎知識と基礎技術を有し、技術者として必要な教養を身に付けている。
- (2) 問題解決に必要な専門知識や技術を修得するため、自ら継続的に学習する能力を身に付けている。
- (3) 専門知識を活用して工学的な観点から問題解決する能力を身に付けている。
- (4) 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付けている。
- (5) グループでの共同作業を適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆく能力を身に付けている。
- (6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

### カリキュラム・ポリシー

工学部のディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得させるために、以下に示す教育課程編成の基本方針、教育課程編成における6項目の具体的な方針、及び能力到達度の評価方針を定める。

[教育課程編成の基本方針]

厳選した少数の科目による教育課程編成を基本とし、履修科目の違いによらず、ディプロマ・ポリシーで定めた各能力を修得できるよう科目を配置する。また、教養科目群及び学科別専門科目群毎に学修・教育目標を設定し、各目標を達成するうえで必要な科目の体系と順次性をカリキュラムツリー及び科目ナンバリングにより明確化する。

[教育課程編成における具体的方針]

- (1) 自ら継続的に学習することができるように、初年次教育及びキャリアデザイン科目を必修科目に位置付けて主体的に学ぶ手法を修得させ、後続する教養・専門科目群において主体的な学びの場を提供する。
- (2) 自然科学に関する基礎学力に裏付けられた工学分野での専門基礎知識と基礎技術を有し、工学の各専門分野のものづくりやシステムづくりに活用できるように、科目群ごとに演習科目を効果的に配置する。

- (3) 専門知識を活用して工学的な観点から問題解決ができるように、学修の初期段階に課題探究セミナーを置き、その後の実験・演習・実習・ゼミナールなど課題解決型の科目を適切に配置する。
- (4) 論理的に表現・説明する能力を有し、日本語ならびに英語で情報を伝達できるように、実践的な日本語・英語スキルを高める科目を設置する。
- (5) グループでの共同作業を計画的にかつ適確に実行し、適切な協力関係をつくり上げてゆくことができるように協同学習の場を提供する。
- (6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解できるように、技術者倫理に関する科目を配置すると共に、各専門科目においても倫理性・社会的責任を意識させる。

〔能力到達度の評価方針〕

ディプロマ・ポリシーで定めた各能力の修得については、以下の共通要件に加え、各学科で具体的に定める要件をもって評価する。

- ・ 全ての必修科目を修得すること。
- ・ コミュニケーションスキル分類で6単位以上を取得すること。
- ・ 国際理解分類の「グローバル時代の法」及び「国際社会論」の中から2単位以上を取得すること。
- ・ 人間・社会・自然の理解分類の学部指定科目群1から6単位以上、学部指定科目群2から4単位以上を取得すること。
- ・ 教養特別科目分野から1単位以上を取得すること。
- ・ 総合分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から2単位以上を取得すること。

# 機械工学科

## Department of Mechanical Engineering

### 沿革

機械工学科は、社会の変化とニーズに積極的かつ柔軟に対応し、機械工学に関する幅広い知識と技術の修得に加え、幅広い視野と的確な判断力、豊かな創造性を有し、かつ社会性と倫理観を備えた人材を養成するため、2016年4月に設立された学科です。

本学科は、旧制の機械工学科（1944年学部開設）、1950年新制大学設置に伴い開設された第一部機械工学科、第二部機械工学科の流れを汲み、2003年4月に金属工学科、精密機械工学科を統合した機械サイエンス学科が前身です。機械サイエンス学科は、機械工学コース、機械設計・開発コース、先端材料工学コース、およびマイクロサイエンス工学コースの4コースから構成されていました。これらのうち機械工学コースと機械設計・開発コースを母体として、本機械工学科は設立されました。

以上の沿革のとおり、旧制の機械工学科から機械サイエンス学科の機械工学コースおよび機械設計・開発コースに至るまで、技術立国としての日本を支え、かつ本学の建学精神である「世界文化に技術で貢献する」技術者や研究者を多数輩出してきました。これらの旧学科、旧コースの流れを汲む本学科は、本学とともに歩んできた最も歴史のある教育研究組織です。

### ディプロマ・ポリシー

機械工学科では、所定の期間に所定の単位を取得し、下記の要件を満たす人材に学士（工学）の学位を授与する。

- (1) 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- (2) 機械工学分野を専門領域とし、機械製品の設計・開発・製造に関する基礎的・基本的な知識と技術を修得している。
- (3) ものづくりのための創造的な能力を有し、実践的な知識や技術を修得している。また、機械工学分野の専門領域を学修するために必要な技術、能力の向上心を持ち、継続的に学修する姿勢を習得している。
- (4) 機械工学の知識に基づいて、さまざまな課題を合理的に解決するための応用力、思考力、判断力、計画性、主体性がある。
- (5) 思考や判断の根拠と過程を説明し、伝達するための発表能力、文書作成能力、コミュニケーション能力がある。
- (6) 機械技術者として、社会や環境への影響を考え、倫理観を持ち、多様な人々とも協働できる。
- (7) 機械技術を活用して、人間生活の利便性と生活の質の向上と、社会や産業の健全な発展に貢献できるよう、専門技術者としての社会的責任を理解している。

## カリキュラム・ポリシー

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- (2) 機械工学分野の専門領域に関する基礎的・基本的な知識と技術を修得させるために、自然科学に関する科目から構成される「専門基礎科目」、専門教育を体系的に学習するうえでの導入、総論として、機械工学における学問体系と基本的な知識を理解する科目から構成される「専門基幹科目」を編成する。
- (3) 機械工学分野の基礎的・基幹的な知識や技術を機械製品の設計・開発・製造などの専門領域で応用するための科目等から構成される「専門展開科目」を編成する。また、専門基幹科目、専門展開科目には、ものづくりのための創造的な能力を有し、実践的な知識や技術を修得させるために、専門科目の中に演習系科目、実験系科目、設計製図系科目、卒業研究を配置している。
- (4) 機械工学分野の知識・技術に基づいて、さまざまな課題を合理的に解決するための応用力、思考力、判断力、計画性、主体性を育成し、発表能力、文書作成能力、コミュニケーション能力を育成するために、専門科目の中に演習系科目、実験系科目、ゼミナール、卒業研究、技術英語を配置している。
- (5) 機械技術者として、社会や環境への影響を考え、倫理観を持ち、多様な人々とも協働できる能力を育成し、機械技術を活用して、人間生活の利便性と生活の質の向上と、社会や産業の健全な発展に貢献しようとする意欲を持たせるために、環境工学、技術史、技術者倫理、ゼミナール、卒業研究に関する科目を配置している。

### 教育の特徴と学修・教育目標

機械製品の製造には、製造対象の構造・機能を実現可能な材料を選択し、その材料を用いて形を作り出すための設計、加工、生産方法、さらに使用済みの製品のリサイクルや環境対策に至るまで、多岐にわたる知識が必要となります。

そこで機械工学科は、機械製品の設計・開発・製造に必要な専門基礎知識、ならびに基礎学問・知識を修得し、社会の変化に対応できる柔軟性と社会性、ならびに倫理観を備え、携わった仕事に責任と誇りをもてる人間性豊かな機械系技術者を養成することを目的としています。このために以下を目標に教育を行います。

まず、教養科目の修得により、社会人として自立できる教養と責任感・倫理観を身に付けます。

そして、専門基礎科目の修得により機械工学の専門基礎科目の修得に必要な数学、物理学、化学等の基礎学問、情報技術知識の修得とともに、実験・演習、報告書作成を通じて責任と協調性を育みます。

また、専門基幹科目の修得により機械技術者としての基礎的専門科目の入門課程を修得します。そして、主体的なものごとに取り組む積極性や、目標達成に向けた強い意志と探究心、コミュニケーション能力、創造性を身に付けます。

さらに専門展開科目では、機械工学の基礎を身に付けるとともに、エネルギー変換、機械システム技術などに強みを持つ機械技術者にとって重要な、機械の設計・製造に必要な知識を修得します。具体的には、材料の力学、機械の力学、熱の力学、流れの力学を中心とした基礎科目をもとに、構造解析、

振動・制御，熱機関，伝熱工学，機械設計，生産加工などに関する専門知識を修得します。また，ものづくりのための設計・加工の実践を通して，企画・設計・製図（CAD）・機械工作（CAM）による製品製作の一連の流れを学び，ものづくりを担う技術者に要求されるさまざまな能力を身に付けます。

卒業研究では，研究をとおして，筋道を立てて論理的に考える能力，条件や制約の負荷に対しても計画的に仕事を遂行できる能力，自ら問題点を見出し，解決するための知識と応用力および社会の要求に対応できる機械技術者としての能力を身に付けます。

### 研究の特徴

以下のように，材料力学，機械力学，熱力学，流体力学といった四大力学のほか，加工学，設計工学などに関して，基礎から応用に至るまで幅広い研究が行われています。

材料力学分野では，強度試験や数値解析に基づいて，耐熱金属材料の余寿命評価法の開発，構造用複合材料の素材開発と強度信頼性評価・最適化設計，高効率エネルギーシステムに内在する材料強度課題の解明などの研究が行われています。機械力学および振動・制御分野では，自動車・鉄道車両や機器の制振，福祉・介護機器の設計開発，ハードディスクドライブ（HDD）やドローン等の制御などに関する研究が行われています。熱分野では，熱・物質の微小スケールにおける輸送現象を解明する計測・解析手法の高度化，住環境に関わる熱マネージメント，および熱交換器などのエネルギー変換機器の性能向上による省エネルギー化，伝熱促進技術の開発などの研究が行われています。流体分野では，ポンプや送風機，風車，水車，攪拌機などの流体機械の開発や性能向上，航空機，自動車や列車などの輸送機器に関連する流体現象について研究が行われています。加工学・設計工学の分野では，機械加工や特殊加工を利用した機械部品の精密加工，高能率加工に関する研究や，機械要素に関する新技術開発や特性解明に関する研究が行われています。

### 就職・進路

製造業全般において，設計や研究開発の職種で活躍できるものと期待されます。特に，機械製造企業，自動車関連企業を中心に，重機器関連，電気関連企業，精密機械関連においての活躍が期待されます。また，機械工学科で修得する知識と能力は，機械工学分野だけにとどまりません。そのため，建設・建築，運輸，電力，ガスなど，幅広い分野や業種からの求人が期待されます。

本学科が取得することのできる資格として，高等学校教諭一種免許状（工業）の教育職員免許状が用意されています。教育職員免許に関しては，第6章「教育職員免許について」を参照してください。

学部成績の優れたものは大学院の進学に際して，推薦の適用が受けられ，さらに高度な知識と能力を有する技術者・研究者を目指すことができます。

### 教養科目における学部指定科目群の履修について

教養科目の「人間・社会・自然の理解」分類は、「国際理解」分類の学びを基礎として、世の中の様々な出来事や考え方、仕組みなどについて幅広く学習する科目が開講されています。その中から工学部（機械工学科、先端材料工学科、応用化学科）では、専門科目との繋がりを考慮して1・2年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群1」と3・4年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群2」がそれぞれ設定されていますので、これら科目群から興味・関心のある科目を選択して履修してください。（これ以外の科目も履修は可能ですが、卒業要件にある学部指定科目群1又は2の単位取得要件には含まれないので、注意してください。）

また、2年生後期では「国際理解」分類及び「学部指定科目群1」で学んだ内容を主体的にまとめ、より深い理解や応用の思考力を養うために「総合」分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」が開講されるので、必ずどちらか1科目を履修してください。

[国際理解及び学部指定科目群の履修体系]

「国際理解」分類（1・2年生）		「学部指定科目群1」（1・2年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群1の 対象科目（※）
異文化理解	必修	哲学	
言語と文化1	必修	倫理学	○
言語と文化2	必修	文学と芸術	○
		歴史と人間	
		心理学	
		身体と健康の科学	○
		憲法と社会	○
		現代社会論	○
		科学技術史	○
		環境科学概論	

※○の科目から3科目を選択して履修



「総合」分類（2年生後期）

科目名
課題探究セミナー（※）
総合学際科目（※）

※1科目を選択して履修



「国際理解」分類（3・4年生）		「学部指定科目群2」（3・4年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群2の 対象科目（※）
グローバル時代の法	（※）	経済学	
国際社会論	（※）	物理の世界と先端技術	
		物質科学	○
		政治と社会	○
		地球科学	○
		生命科学	○

※○の科目から2科目を選択して履修

# 機械工学科

## 進級資格要件及び卒業資格要件

以下の進級資格要件及び卒業資格要件は、各年次に進級するために満たすべき最低限の条件です。その上の年次への進級及び卒業を保証するものではありません。

そのため、所定の年限（4年間）で卒業するためには、各年次の進級資格要件及び卒業資格要件をよく読み、各年次で計画的に単位を修得する必要があります。

### I. 第2年次進級資格要件

1年以上在学し、第1年次を終了して32単位以上を修得していること。

### II. 第3年次進級資格要件

2年以上在学し、第2年次を終了して64単位以上を修得していること。

### III. 第4年次進級資格要件

3年以上在学し、第3年次を終了して96単位以上を修得していること。

### IV. 卒業資格要件

4年以上在学し、第4年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：全ての必修科目を含め、124単位以上を修得していること。
2. 教養科目：次の条件を満たし、35単位以上を修得していること。
  - ・コミュニケーションスキル分類：選択科目の中から6単位以上（※）  
※必修科目の日本語表現法は含まないので、注意すること。
  - ・国際理解分類：「グローバル時代の法」及び「国際社会論」から、2単位以上
  - ・人間・社会・自然の理解分類：(1) 学部指定科目群1の中から、6単位以上  
(2) 学部指定科目群2の中から、4単位以上
  - ・総合分類：「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」から、2単位以上
  - ・教養特別科目分野：1単位以上
3. 専門科目：89単位以上を修得していること。

## 機械工学科 教育課程表

### 教養科目

科目群	分野	分類	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係		
				必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1		1	2									基礎レベル対象の科目	教 教		
		英語表現基礎 1		1	2												
		英語理解基礎 2		1		2											
		英語表現基礎 2		1		2											
		英語理解基礎 3		1			2										
		英語表現基礎 3		1			2										
		英語理解基礎 4		1				2									
		英語表現基礎 4		1				2									
		英語理解 1		1	2											中級レベル対象の科目	教 教
		英語表現 1		1	2												
		英語理解 2		1		2											
		英語表現 2		1		2											
		英語理解 3		1			2										
		英語表現 3		1			2										
		英語理解 4		1				2									
		英語表現 4		1				2									
		英語理解発展 1		1	2									上級レベル対象の科目	教 教		
		英語表現発展 1		1	2												
		英語理解発展 2		1		2											
		英語表現発展 2		1		2											
	英語理解発展 3		1			2											
	英語表現発展 3		1			2											
	英語理解発展 4		1				2										
	英語表現発展 4		1				2										
	資格試験英語 A		1				2										
	資格試験英語 B		1				2										
	日本語表現法		1		2												
	情報*	数理・データサイエンス・AI 入門		1		2									教		
		AI・プログラミング基礎演習		1			2								教		
	人間力養成	スポーツ科学		2		2									教		
		初年次教育		1		2								GPA 除外, CAP 除外	教		
		キャリアデザイン 1		1		2								GPA 除外, CAP 除外			
		キャリアデザイン 2		1			2							GPA 除外, CAP 除外			
		キャリアデザイン 3		1					2					GPA 除外, CAP 除外			
	教養共通科目	国際理解	異文化理解		2		2										
			言語と文化 1		2		2										
言語と文化 2				2		2											
グローバル時代の法				2						2							
国際社会論				2						2							
人間・社会・自然の理解		哲学		2		2											
		倫理学		2		2								学部指定科目群 1 に含まれる			
		文学と芸術		2		2								学部指定科目群 1 に含まれる			
		歴史と人間		2		2											
		心理学		2		2											
		身体と健康の科学		2		2								学部指定科目群 1 に含まれる			
		憲法と社会		2		2								学部指定科目群 1 に含まれる	教		
		政治と社会		2						2				学部指定科目群 2 に含まれる			
		経済学		2						2							
		現代社会論		2		2								学部指定科目群 1 に含まれる			
		科学技術史		2		2								学部指定科目群 1 に含まれる			
		環境科学概論		2		2											
		生命科学		2						2				学部指定科目群 2 に含まれる			
		地球科学		2						2				学部指定科目群 2 に含まれる			
		物理の世界と先端技術		2						2							
物質科学		2						2				学部指定科目群 2 に含まれる					
総合	課題探究セミナー		2				2										
	総合学際科目		2				2										
教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1		1						2				CAP 除外				
	イングリッシュアクティブラーニング 2		1							2			CAP 除外				
	イングリッシュアクティブラーニング 3		1							2			CAP 除外				
	日本語アクティブラーニング		1							2			CAP 除外				
	スポーツアクティブラーニング		2							2			CAP 除外				
	ソーシャルアクティブラーニング		1				2						GPA 除外, CAP 除外				
	国際インターン		1					2					GPA 除外, CAP 除外				
	国内インターン		1					2					GPA 除外, CAP 除外				
	ボランティア		1					2					GPA 除外, CAP 除外				
	キャリアアップラーニング		1					2					GPA 除外, CAP 除外				
	総合科学特論		2							2			CAP 除外				

\* 情報リテラシー

専門科目

科目群	分野	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
専門基礎科目		数学基礎	2		3											
		物理学基礎	2		3											
		化学基礎	2		3											
		線形代数	2		2											
		微分積分学	2			3										
		物理学応用		2		2										
		化学実験	2				4									
		物理学実験	2				4									
		確率統計		2				2								
	専門基幹科目		ものづくり基礎演習	2		4										
		ものづくり演習	2			4										
		機械工学概論	2			2										
		工業力学	2			2										Ⅰ
		機械材料		2		2										
		機構学		2		2										
		工業数学		2			2									Ⅰ
		基礎材料力学	2				2									Ⅰ
		基礎機械設計	2				2									Ⅰ
		基礎機械製図	2				4									Ⅰ
		基礎機械力学	2				2									Ⅰ
専門科目		生産加工学	2				2									Ⅰ
		材料力学	2				2									Ⅰ
		応用材料力学		2				2								
		構造力学		2					2							
		材料強度学		2					2							
		機械力学		2			2									Ⅰ
		振動工学		2					2							
		制御工学		2					2							
		自動制御		2						2						
		熱力学	2				2									Ⅰ
		応用熱力学		2					2							Ⅰ
		伝熱工学		2						2						
		エネルギー工学		2							2					
		流れ学	2				2									Ⅰ
		応用流れ学		2					2							Ⅰ
		流体力学		2						2						
		機械設計	2					2								Ⅰ
		機械製図	2					4								Ⅰ
		CAD 演習	2								4					Ⅰ
		応用機械設計製図	2							4						Ⅰ
		計測工学		2				2								
		技術英語		2					2							
		機械の技術史		2					2							
		工作機械		2					2							Ⅰ
		数値解析		2					2							
		環境工学		2							2					
		技術者倫理	2								2					
		先端機械工学	2								2					
		機械工学実験 1	2							4						Ⅰ
		機械工学実験 2	2								4					Ⅰ
		ゼミナール 1	2									4				
		ゼミナール 2	2										4			
		卒業研究	5										10	GPA 除外		

はじめに

学生生活について

修学について

機械工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

カリキュラムツリーと科目毎に付されている科目ナンバ（科目ナンバリングと称する）は、ディプロマ・ポリシーとの関連性や科目間の繋がりが、履修の順次性を示しています。科目ナンバリングは4桁の数字で構成されており、それぞれの数字の意味は右側に記載しているため、参照のうえ、履修計画を立ててください。

### 機械工学科DP/CPとカリキュラムツリー

※その他、関連するDPを番号で表示  
 (注) 卒業要件の内訳は「連結資格要件及び卒業資格要件」を参照

1科目：カリキュラムツリー上と関連するDP番号	2科目：教育課程上の区分	3・4科目：各授業科目固有番号
1. 基礎学力・人間力	教養基礎科目：1 教養共通科目：2 教養特別科目：3	01～

学科学科	学科学科	1年次				2年次				3年次				4年次		卒業要件 (注)	
		1S (前期)	2S (後期)	3S (前期)	4S (後期)	5S (前期)	6S (後期)	7S (前期)	8S (後期)	選修科目	必修科目						
学科学科	基礎基礎科目	1101 英語理解基礎1	1103 英語理解基礎2	1105 英語理解基礎3	1107 英語理解基礎4	1204-1205 グローバル時代の法・国際社会論										35 単 位 以 上	
		1102 英語表現基礎1	1104 英語表現基礎2	1106 英語表現基礎3	1108 英語表現基礎4	1133 キャリアデザイン3 ⑤											
		1109 英語理解1	1111 英語理解2	1113 英語理解3	1115 英語理解4	1204-1205 グローバル時代の法・国際社会論											
		1110 英語表現1	1112 英語表現2	1114 英語表現3	1116 英語表現4	1212-1213-1214-1215 物産科学・政治と社会・地球科学・生命科学											
		1117 英語理解発展1	1119 英語理解発展2	1121 英語理解発展3	1123 英語理解発展4	1216-1217 課題探究ゼミナー 総合学際科目 ⑤・⑥											
		1118 英語表現発展1	1120 英語表現発展2	1122 英語表現発展3	1124 英語表現発展4	1301-1302-1303-1304-1305 ソーシャルアクティビティ・ボランティア、国際インタラクティブ・キャリアアップラーニング											
		1127 日本語表現法		1125-1126 資格証履修英語A・B		1306-1307-1308-1309-1310-1311 インテグリティアクティビティ・ボランティア(5S)・2(6S)・3(6S&S)、日本種アクティビティ・ボランティア、総合学際科目 ⑤・⑥											
		1128 情報リテラシー	習得_デジタルコミュニケーション ③	1129 AI・デジタルコミュニケーション ③													
		1130 初年次教育 ⑥	1131 キャリアデザイン1 ⑤	1132 キャリアデザイン2 ⑤													
		1134 スポーツ科学															
学科学科	国際理解	1201-1202-1203 異文化理解・言語と文化1・言語と文化2														124 単 位 以 上	
		1205-1207-1208-1209-1210-1211 倫理学・文学と芸術・身体と健康の科学・憲法と社会・現代社会論・科学技術史															
		1208-1209-1210-1211 倫理学・文学と芸術・身体と健康の科学・憲法と社会・現代社会論・科学技術史															
学科学科	総合															124 単 位 以 上	
学科学科	教養特別科目															124 単 位 以 上	

1桁目：カリキュラムツリーと科目毎に付されている科目ナンバー（科目ナンバリングと称する）	2桁目：教育課程上の区分
2：基礎知識	3・4桁目：各授業科目固有番号
3：思考力、判断力	
8：課題発見力、課題解決力、表現力、協働力、倫理観	01～

\*DP番号 4：課題発見力、解決力 5：表現力 6：協働力 7：倫理観

カリキュラムツリーと科目毎に付されている科目ナンバー（科目ナンバリングと称する）は、ディプロマ・ポリシーとの関連性や科目間の繋がり、履修の順次性を示しています。科目ナンバリングは4桁の数字で構成されており、それぞれの数字の意味は右側に記載しているため、参照のうえ、履修計画を立ててください。

### 機械工学科DP/CPとカリキュラムツリー

\*その他、関連するDPを番号で表示  
 (注) 卒業要件の内訳は「進級資格要件及び卒業資格要件」を参照

学科DP	学科CP	履修年次	1年次				2年次				3年次				4年次		卒業要件(注)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			1S (前期)	2S (後期)	3S (前期)	4S (後期)	5S (前期)	6S (後期)	7S (前期)	8S (後期)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
② 機械工学分野を専門領域とし、高度技術の設計・開発に必要となる基礎的知識と技術を習得している。	② 機械工学分野の専門領域に關する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるために、自然科学に専門基礎知識を身に付け、専門教育体系に卒業するための導入、修練として、機械工学における学際体系と基本的な知識を理解する科目を構成する。1専門履修科目を構成する。	2101	2102	2103	2104	2105	2106	2107	2108	2109																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		2101	2102	2103	2104	2105	2106	2107	2108	2109																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
③ 5のつくりのための創造的知識や技術を習得している。また、機械工学分野の専門領域を学ぶために必要な技術、能力の向上、協働力を積極的に発揮する姿勢を習得している。	③ 機械工学分野の基礎的・基本的な知識と技術を習得させるために、自然科学に専門基礎知識を身に付け、専門教育体系に卒業するための導入、修練として、機械工学における学際体系と基本的な知識を理解する科目を構成する。1専門履修科目を構成する。	3201	3202	3203	3204	3205	3206	3207	3208	3209	3210	3211	3212																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		3201	3202	3203	3204	3205	3206	3207	3208	3209	3210	3211	3212																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
④ 思考や判断の根拠と過程を説明し、卒業するためのコミュニケーション能力がある。	④ 機械工学分野の基礎的・基本的な知識と技術を習得させるために、自然科学に専門基礎知識を身に付け、専門教育体系に卒業するための導入、修練として、機械工学における学際体系と基本的な知識を理解する科目を構成する。1専門履修科目を構成する。	8301	8302	8303	8304	8305	8306	8307	8308	8309	8310	8311	8312	8313	8314	8315	8316	8317	8318	8319	8320	8321	8322	8323	8324	8325	8326	8327	8328	8329	8330	8331	8332	8333	8334	8335	8336	8337	8338	8339	8340	8341	8342	8343	8344	8345	8346	8347	8348	8349	8350	8351	8352	8353	8354	8355	8356	8357	8358	8359	8360	8361	8362	8363	8364	8365	8366	8367	8368	8369	8370	8371	8372	8373	8374	8375	8376	8377	8378	8379	8380	8381	8382	8383	8384	8385	8386	8387	8388	8389	8390	8391	8392	8393	8394	8395	8396	8397	8398	8399	8400	8401	8402	8403	8404	8405	8406	8407	8408	8409	8410	8411	8412	8413	8414	8415	8416	8417	8418	8419	8420	8421	8422	8423	8424	8425	8426	8427	8428	8429	8430	8431	8432	8433	8434	8435	8436	8437	8438	8439	8440	8441	8442	8443	8444	8445	8446	8447	8448	8449	8450	8451	8452	8453	8454	8455	8456	8457	8458	8459	8460	8461	8462	8463	8464	8465	8466	8467	8468	8469	8470	8471	8472	8473	8474	8475	8476	8477	8478	8479	8480	8481	8482	8483	8484	8485	8486	8487	8488	8489	8490	8491	8492	8493	8494	8495	8496	8497	8498	8499	8500	8501	8502	8503	8504	8505	8506	8507	8508	8509	8510	8511	8512	8513	8514	8515	8516	8517	8518	8519	8520	8521	8522	8523	8524	8525	8526	8527	8528	8529	8530	8531	8532	8533	8534	8535	8536	8537	8538	8539	8540	8541	8542	8543	8544	8545	8546	8547	8548	8549	8550	8551	8552	8553	8554	8555	8556	8557	8558	8559	8560	8561	8562	8563	8564	8565	8566	8567	8568	8569	8570	8571	8572	8573	8574	8575	8576	8577	8578	8579	8580	8581	8582	8583	8584	8585	8586	8587	8588	8589	8590	8591	8592	8593	8594	8595	8596	8597	8598	8599	8600	8601	8602	8603	8604	8605	8606	8607	8608	8609	8610	8611	8612	8613	8614	8615	8616	8617	8618	8619	8620	8621	8622	8623	8624	8625	8626	8627	8628	8629	8630	8631	8632	8633	8634	8635	8636	8637	8638	8639	8640	8641	8642	8643	8644	8645	8646	8647	8648	8649	8650	8651	8652	8653	8654	8655	8656	8657	8658	8659	8660	8661	8662	8663	8664	8665	8666	8667	8668	8669	8670	8671	8672	8673	8674	8675	8676	8677	8678	8679	8680	8681	8682	8683	8684	8685	8686	8687	8688	8689	8690	8691	8692	8693	8694	8695	8696	8697	8698	8699	8700	8701	8702	8703	8704	8705	8706	8707	8708	8709	8710	8711	8712	8713	8714	8715	8716	8717	8718	8719	8720	8721	8722	8723	8724	8725	8726	8727	8728	8729	8730	8731	8732	8733	8734	8735	8736	8737	8738	8739	8740	8741	8742	8743	8744	8745	8746	8747	8748	8749	8750	8751	8752	8753	8754	8755	8756	8757	8758	8759	8760	8761	8762	8763	8764	8765	8766	8767	8768	8769	8770	8771	8772	8773	8774	8775	8776	8777	8778	8779	8780	8781	8782	8783	8784	8785	8786	8787	8788	8789	8790	8791	8792	8793	8794	8795	8796	8797	8798	8799	8800	8801	8802	8803	8804	8805	8806	8807	8808	8809	8810	8811	8812	8813	8814	8815	8816	8817	8818	8819	8820	8821	8822	8823	8824	8825	8826	8827	8828	8829	8830	8831	8832	8833	8834	8835	8836	8837	8838	8839	8840	8841	8842	8843	8844	8845	8846	8847	8848	8849	8850	8851	8852	8853	8854	8855	8856	8857	8858	8859	8860	8861	8862	8863	8864	8865	8866	8867	8868	8869	8870	8871	8872	8873	8874	8875	8876	8877	8878	8879	8880	8881	8882	8883	8884	8885	8886	8887	8888	8889	8890	8891	8892	8893	8894	8895	8896	8897	8898	8899	8900	8901	8902	8903	8904	8905	8906	8907	8908	8909	8910	8911	8912	8913	8914	8915	8916	8917	8918	8919	8920	8921	8922	8923	8924	8925	8926	8927	8928	8929	8930	8931	8932	8933	8934	8935	8936	8937	8938	8939	8940	8941	8942	8943	8944	8945	8946	8947	8948	8949	8950	8951	8952	8953	8954	8955	8956	8957	8958	8959	8960	8961	8962	8963	8964	8965	8966	8967	8968	8969	8970	8971	8972	8973	8974	8975	8976	8977	8978	8979	8980	8981	8982	8983	8984	8985	8986	8987	8988	8989	8990	8991	8992	8993	8994	8995	8996	8997	8998	8999	9000	9001	9002	9003	9004	9005	9006	9007	9008	9009	9010	9011	9012	9013	9014	9015	9016	9017	9018	9019	9020	9021	9022	9023	9024	9025	9026	9027	9028	9029	9030	9031	9032	9033	9034	9035	9036	9037	9038	9039	9040	9041	9042	9043	9044	9045	9046	9047	9048	9049	9050	9051	9052	9053	9054	9055	9056	9057	9058	9059	9060	9061	9062	9063	9064	9065	9066	9067	9068	9069	9070	9071	9072	9073	9074	9075	9076	9077	9078	9079	9080	9081	9082	9083	9084	9085	9086	9087	9088	9089	9090	9091	9092	9093	9094	9095	9096	9097	9098	9099	9100	9101	9102	9103	9104	9105	9106	9107	9108	9109	9110	9111	9112	9113	9114	9115	9116	9117	9118	9119	9120	9121	9122	9123	9124	9125	9126	9127	9128	9129	9130	9131	9132	9133	9134	9135	9136	9137	9138	9139	9140	9141	9142	9143	9144	9145	9146	9147	9148	9149	9150	9151	9152	9153	9154	9155	9156	9157	9158	9159	9160	9161	9162	9163	9164	9165	9166	9167	9168	9169	9170	9171	9172	9173	9174	9175	9176	9177	9178	9179	9180	9181	9182	9183	9184	9185	9186	9187	9188	9189	9190	9191	9192	9193	9194	9195	9196	9197	9198	9199	9200	9201	9202	9203	9204	9205	9206	9207	9208	9209	9210	9211	9212	9213	9214	9215	9216	9217	9218	9219	9220	9221	9222	9223	9224	9225	9226	9227	9228	9229	9230	9231	9232	9233	9234	9235	9236	9237	9238	9239	9240	9241	9242	9243	9244	9245	9246	9247	9248	9249	9250	9251	9252	9253	9254	9255	9256	9257	9258	9259	9260	9261	9262	9263	9264	9265	9266	9267	9268	9269	9270	9271	9272	9273	9274	9275	9276	9277	9278	9279	9280	9281	9282	9283	9284	9285	9286	9287	9288	9289	9290	9291	9292	9293	9294	9295	9296	9297	9298	9299	9300	9301	9302	9303	9304	9305	9306	9307	9308	9309	9310	9311	9312	9313	9314	9315	9316	9317	9318	9319	9320	9321	9322	9323	9324	9325	9326	9327	9328	9329	9330	9331	9332	9333	9334	9335	9336	9337	9338	9339	9340	9341	9342	9343	9344	9345	9346	9347	9348	9349	9350	9351	9352	9353	9354	9355	9356	9357	9358	9359	9360	9361	9362	9363	9364	9365	9366	9367	9368

## 宇宙・半導体工学科

Department of Space, Semiconductor and Mechatronics Engineering

### 沿革

宇宙・半導体工学科は、我が国の経済と技術革新を支える宇宙産業や半導体産業の発展を目的に、2025年4月に工学部に新設されました。本学科は、機械工学と電子工学を高度に融合させる教育・研究を基盤とし、次世代の技術革新を牽引する人材の育成を目指します。前身となる機械電子創成工学科は、旧工学部の機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科（いずれも2003年4月設立）を母体とし、機械設計、製作技術、電子技術、計測制御を含む幅広い基礎知識と実践技術を教育の柱としてきました。新設の宇宙・半導体工学科は、これらの教育・研究基盤をさらに発展させ、宇宙分野や半導体分野を代表とする先進的な機械工学・電子工学分野における技術的課題に挑む専門教育を展開し、社会のニーズに応える創造力豊かなエンジニアを育成します。

### ディプロマ・ポリシー

宇宙・半導体工学科では、「機械工学分野」及び「電気電子工学分野」を中心的な研究対象としており、所定の期間に所定の単位を取得した上、下記の要件を満たした人材に学士（工学）を授与する。

- (1) 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- (2) 機械工学・電気電子工学分野を専門領域とし、先進的な宇宙機、半導体デバイス、メカトロニクス機器などに関わる基礎的な知識と技術を習得している。
- (3) 機械工学・電気電子工学分野を主とする専門領域で不定解な社会的課題を自ら発見する能力を有し、解決に必要な専門知識・論理的思考や技術を習得している。
- (4) 先進的な宇宙機、半導体デバイス、メカトロニクス機器などに関する専門知識・技術を応用して、機械工学・電気電子工学的な観点のみならず、広い視野で問題解決する能力を習得している。
- (5) 自らの思考・判断のプロセスを説明し、具体的な事例や根拠を示しながら伝達するプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を習得している。
- (6) グループでの共同作業・研究活動を適確に実行し、チームビルディングの手法を用いて、協力関係をつくり上げてゆく能力を習得している。
- (7) 機械工学・電気電子工学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

## カリキュラム・ポリシー

宇宙・半導体工学科では、ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人材を育成するために以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配置する。
- (2) 機械工学・電気電子工学分野を主として、基礎となる知識や汎用的な能力を涵養するための科目群を配置する。
- (3) 機械工学、電気電子工学分野の基幹的な知識や技術、幅広い視野を涵養するための科目群を配置し、幅広い視野で物事を捉え、先進的な宇宙機、半導体デバイス、メカトロニクス機器などの専門領域で応用するための基盤となる科目を配置する。
- (4) 基幹となる知識・技術、汎用的な能力を応用するための、発展的な専門知識・技術を涵養する科目群を配置し、幅の広い視野で自ら課題を設定すると共に、行動計画の立案、実行、検証、改善を他者と協力しながら実践的に学び、解決を図るための実験・実習・演習科目及びゼミナール・卒業研究科目を配置する。
- (5) 生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者として守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配置する。

## 教育の特徴と学修・教育目標

宇宙・半導体工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「工学（宇宙工学・半導体工学・機械工学・電気電子工学等）」として、「先進的な宇宙機、半導体デバイス、メカトロニクス機器に関わる機械工学と電子工学の基礎的な知識と技術を基盤として、それらを適切かつ効果的に活用できる実践的な能力を身に付け、それら先進機器に関連する機械・電気電子工学技術を科学的・実証的に考究し、その成果を同技術分野の進展に活かすことのできる人材の養成」を目指しています。

具体的には、「先進的な宇宙機、半導体デバイス、メカトロニクス機器の開発製造に必要な機械・電子技術に関する基本原理、基本構造と基盤技術及び機械・電気電子関連の工業製品を実際に開発する能力とともに、機械・電気電子工学技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、同技術分野の進展を図る実践的な態度を習得させる」ことが教育目標となります。

## 研究の特徴

宇宙・半導体工学科の研究対象となる学問分野を「工学分野（宇宙工学・半導体工学・機械工学・電気電子工学等）」としています。機械工学と電気電子工学の融合領域を中心に、基礎研究分野から半導体デバイスをはじめとする応用技術の開発まで幅広い研究が行われています。幾何学構造を応用し、新しい技術を生み出す理論的研究、コンピュータ技術を応用した新しい設計技術や機械の創成、ナノ・マイクロメカニズムの追及や原子間力顕微鏡（AFM）を使った新しい計測技術、レーザーなどを用いた新しい加工技術やトライボロジー、自然エネルギー・省エネルギー技術、高齢者・障害者支援システムの開発、宇宙輸送や人工衛星に関する新しいシステムの提案などが主な研究課題です。

## 就職・進路

宇宙・半導体工学科で修得する知識と能力は、機械工業、電気工業、電子工業をはじめとする幅広い製造業、技術関連企業で活かすことができます。一般機械、半導体デバイスを組込む精密機械、電気・電子機器、通信、自動車、航空宇宙機器、医療・福祉機器、化学、エネルギー関連など、幅広い分野・業種の企業に就職し活躍することが期待されます。

また、本学科を卒業すると、厚生労働省が所管する「半導体製品製造技能士2級」の受験資格や国土交通省の所管する「建設機械施工技士」、「電気工事施工管理技士」、「電気通信工事施工管理技士」、「管工事施工管理技士」、「建築施工管理技士」の受験資格を取得できます。いずれも国家資格であり、これらの資格を活かせば、半導体製品製造や建築物・建設物の機械・電気関係設備の施工管理の仕事に就くことができます。これらの資格に関しては、第5章「各学科で取得可能な資格について」を参照してください。さらに、本学科卒業後、大学院に進学すれば、企業における高いレベルの技術職（研究・開発職）や、大学・公的機関における研究職への道が開けます。

### 教養科目における学部指定科目群の履修について

教養科目の「人間・社会・自然の理解」分類は、「国際理解」分類の学びを基礎として、世の中の様々な出来事や考え方、仕組みなどについて幅広く学習する科目が開講されています。その中から工学部（宇宙・半導体工学科，電気電子工学科，情報通信システム工学科）では，専門科目との繋がりを考慮して1・2年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群1」と3・4年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群2」がそれぞれ設定されていますので，これら科目群から興味・関心のある科目を選択して履修してください。（これ以外の科目も履修は可能ですが，卒業要件にある学部指定科目群1又は2の単位取得要件には含まれないので，注意してください。）

また，2年生後期では「国際理解」分類及び「学部指定科目群1」で学んだ内容を主体的にまとめ，より深い理解や応用の思考力を養うために「総合」分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」が開講されるので，必ずどちらか1科目を履修してください。

#### 〔国際理解及び学部指定科目群の履修体系〕

「国際理解」分類（1・2年生）		「学部指定科目群1」（1・2年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群1の対象科目（※）
異文化理解	必修	哲学	○
言語と文化1	必修	倫理学	○
言語と文化2	必修	文学と芸術	
		歴史と人間	○
		心理学	
		身体と健康の科学	
		憲法と社会	○
		現代社会論	○
		科学技術史	
		環境科学概論	○

※○の科目から3科目を選択して履修



#### 「総合」分類（2年生後期）

科目名
課題探究セミナー（※）
総合学際科目（※）

※1科目を選択して履修



「国際理解」分類（3・4年生）		「学部指定科目群2」（3・4年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群2の対象科目（※）
グローバル時代の法	（※）	経済学	
国際社会論	（※）	物理の世界と先端技術	○
		物質科学	○
		政治と社会	○
		地球科学	
		生命科学	○

※○の科目から2科目を選択して履修

目次へ戻る

# 宇宙・半導体工学科

## 進級資格要件及び卒業資格要件

以下の進級資格要件及び卒業資格要件は、各年次に進級するために満たすべき最低限の条件です。その上の年次への進級及び卒業を保障するものではありません。

そのため、所定の年限（4年間）で卒業するためには、各年次の進級資格要件及び卒業資格要件をよく読み、各年次で計画的に単位を修得する必要があります。

### I. 第2年次進級資格要件

1年以上在学し、第1年次を終了して32単位以上を修得していること。

### II. 第3年次進級資格要件

2年以上在学し、第2年次を終了して64単位以上を修得していること。

### III. 第4年次進級資格要件

3年以上在学し、第3年次を終了して96単位以上を修得していること。

### IV. 卒業資格要件

4年以上在学し、第4年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：全ての必修科目を含め、124単位以上を修得していること。
2. 教養科目：次の条件を満たし、35単位以上を修得していること。
  - ・コミュニケーションスキル分類：選択科目の中から6単位以上（※）  
※必修科目の日本語表現法は含まないので、注意すること。
  - ・国際理解分類：「グローバル時代の法」及び「国際社会論」から、2単位以上
  - ・人間・社会・自然の理解分類：(1) 学部指定科目群1の中から、6単位以上  
(2) 学部指定科目群2の中から、4単位以上
  - ・総合分類：「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」から、2単位以上
  - ・教養特別科目分野：1単位以上
3. 専門科目：89単位以上を修得していること。

## 宇宙・半導体工学科 教育課程表

### 教養科目

科目群	分野	分類	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係		
				必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
教養科目	コミュニケーションスキル	教養基礎科目	英語理解基礎 1	1	2										基礎レベル対象の科目	教	
			英語表現基礎 1	1	2												
			英語理解基礎 2	1		2											
			英語表現基礎 2	1		2											
			英語理解基礎 3	1			2										
			英語表現基礎 3	1			2										
			英語理解基礎 4	1				2									
			英語表現基礎 4	1				2									
			英語理解 1	1	2											中級レベル対象の科目	教
			英語表現 1	1	2												
			英語理解 2	1		2											
			英語表現 2	1		2											
			英語理解 3	1			2										
			英語表現 3	1			2										
			英語理解 4	1				2									
			英語表現 4	1				2									
			英語理解発展 1	1	2											上級レベル対象の科目	教
			英語表現発展 1	1	2												
			英語理解発展 2	1		2											
			英語表現発展 2	1		2											
	英語理解発展 3	1			2												
	英語表現発展 3	1			2												
	英語理解発展 4	1				2											
	英語表現発展 4	1				2											
	資格試験英語 A	1				2											
	資格試験英語 B	1				2											
	日本語表現法	1		2													
	情報*	数理・データサイエンス・AI 入門	1		2										教		
		AI・プログラミング基礎演習	1		2										教		
	人間力養成	スポーツ科学	2		2										教		
		初年次教育	1		2										教		
		キャリアデザイン 1	1			2											
		キャリアデザイン 2	1				2										
		キャリアデザイン 3	1					2									
	国際理解	異文化理解	2		2												
		言語と文化 1	2		2												
		言語と文化 2	2		2												
		グローバル時代の法	2						2								
		国際社会論	2						2								
		哲学	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる		
		倫理学	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる		
		文学と芸術	2		2												
		歴史と人間	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる		
		心理学	2		2												
	身体と健康の科学	2		2													
人間・社会・自然の理解	憲法と社会	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
	政治と社会	2						2						学部指定科目群 2 に含まれる			
	経済学	2						2									
	現代社会論	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
	科学技術史	2		2													
	環境科学概論	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
	生命科学	2						2						学部指定科目群 2 に含まれる			
	地球科学	2						2									
	物理の世界と先端技術	2						2						学部指定科目群 2 に含まれる			
	物質科学	2						2						学部指定科目群 2 に含まれる			
総合	課題探究セミナー	2			2												
	総合学際科目	2			2												
教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	1				2								CAP 除外			
	イングリッシュアクティブラーニング 2	1					2							CAP 除外			
	イングリッシュアクティブラーニング 3	1						2						CAP 除外			
	日本語アクティブラーニング	1						2						CAP 除外			
	スポーツアクティブラーニング	2							2					CAP 除外			
	ソーシャルアクティブラーニング	1				2								GPA 除外, CAP 除外			
	国際インターン	1				2								GPA 除外, CAP 除外			
	国内インターン	1				2								GPA 除外, CAP 除外			
	ボランティア	1				2								GPA 除外, CAP 除外			
	キャリアアップラーニング	1				2								GPA 除外, CAP 除外			
総合科学特論	2							2					CAP 除外				

\* 情報リテラシー

はじめに

学生生活について

修学について

宇宙・半導体工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

専門科目

科目群	分野	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	2		3											
		微分積分	2			2										
		微分方程式		2			2									
		応用数学		2				2								
		線形代数基礎	2		2											
		線形代数応用		2		2										
		基礎統計学		2				2								
		物理学基礎	2		3											
		物理学実験		2		4										
		化学基礎		2			3									
	専門基礎科目	機械電子工学概論	2		2											
		デジタルものづくり		2	2											教
		力学		2	2											教
		材料力学		2	2											教
		電気磁気学		2	2											
		電気回路		2			2									教
		半導体デバイス		2			2									
		工業熱力学		2			2									教
		機械設計製図学		2				2								教
		材料加工		2				2								教
		プログラミング言語		2				2								教
		アナログ回路		2				2								教
	専門展開科目	宇宙理工学概論		2		2										
		半導体工学概論		2		2										
		機械力学		2					2							教
		トライボロジー		2					2							
		流体工学		2					2							
		デジタル回路		2					2							教
		情報通信工学		2					2							教
		システム制御理論		2					2							教
		センサ工学		2					2							
		精密加工		2							2					
		電気機器学		2							2					教
組込みシステム			2							2					教	
システム制御工学			2							2					教	
計測工学			2							2					教	
宇宙理工学発展講義			2								2					
半導体工学発展講義			2								2					
技術者倫理			2									2				
宇宙・半導体・メカトロニクス総合講義演習 1		2				4										
宇宙・半導体・メカトロニクス総合講義演習 2		2					4									
アドバンスラーニング 1		2							2							
アドバンスラーニング 2	2								2							
設計製図講義演習	4						4									
ゼミナール 1	2									4						
ゼミナール 2	2										4					
卒業研究	5										10		GPA 除外			

はじめて

学生生活について

修学について

宇宙・半導体工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

カリキュラムツリーと科目毎に付されている科目ナンバ（科目ナンバリングと称する）は、ディプロマ・ポリシーとの関連性や科目間の繋がりが、履修の順次性を示しています。科目ナンバリングは4桁の数字で構成されており、それぞれの数字の意味は右側に記載しているため、参照のうえ、履修計画を立ててください。

1桁目：カリキュラムツリー上で関連するDP番号	2桁目：教育課程上の区分	3・4桁目：各授業科目固有番号
1. 基礎学力・人間力	教養基礎科目：1 教養共通科目：2 教養特別科目：3	01～

宇宙・半導体工学DP/CPとカリキュラムツリー

※その他、関連するDPを番号で表示  
 (注) 卒業要件の内訳は「連続資格要件及び卒業資格要件」を参照

学号DP	学号CP	履修年次		1年次			2年次			3年次			4年次		卒業要件 (注)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
		科目	単位数	1S (前期)	2S (後期)	3S (前期)	4S (後期)	5S (前期)	6S (後期)	7S (前期)	8S (後期)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
①職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての重要な知識を身に付ける。幅広い知識を習得している。	①職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会責任への理解及び人間の文化や社会に貢献する幅広い知識を習得している。	英語理解基礎1	1101	英語理解基礎1	1103	英語理解基礎2	1105	英語理解基礎3	1107	英語理解基礎4	1109	英語理解基礎5	1111	英語理解基礎6	1113	英語理解基礎7	1115	英語理解基礎8	1117	英語理解基礎9	1119	英語理解基礎10	1121	英語理解基礎11	1123	英語理解基礎12	1125	英語理解基礎13	1127	英語理解基礎14	1129	英語理解基礎15	1131	英語理解基礎16	1133	英語理解基礎17	1135	英語理解基礎18	1137	英語理解基礎19	1139	英語理解基礎20	1141	英語理解基礎21	1143	英語理解基礎22	1145	英語理解基礎23	1147	英語理解基礎24	1149	英語理解基礎25	1151	英語理解基礎26	1153	英語理解基礎27	1155	英語理解基礎28	1157	英語理解基礎29	1159	英語理解基礎30	1161	英語理解基礎31	1163	英語理解基礎32	1165	英語理解基礎33	1167	英語理解基礎34	1169	英語理解基礎35	1171	英語理解基礎36	1173	英語理解基礎37	1175	英語理解基礎38	1177	英語理解基礎39	1179	英語理解基礎40	1181	英語理解基礎41	1183	英語理解基礎42	1185	英語理解基礎43	1187	英語理解基礎44	1189	英語理解基礎45	1191	英語理解基礎46	1193	英語理解基礎47	1195	英語理解基礎48	1197	英語理解基礎49	1199	英語理解基礎50	1201	英語理解基礎51	1203	英語理解基礎52	1205	英語理解基礎53	1207	英語理解基礎54	1209	英語理解基礎55	1211	英語理解基礎56	1213	英語理解基礎57	1215	英語理解基礎58	1217	英語理解基礎59	1219	英語理解基礎60	1221	英語理解基礎61	1223	英語理解基礎62	1225	英語理解基礎63	1227	英語理解基礎64	1229	英語理解基礎65	1231	英語理解基礎66	1233	英語理解基礎67	1235	英語理解基礎68	1237	英語理解基礎69	1239	英語理解基礎70	1241	英語理解基礎71	1243	英語理解基礎72	1245	英語理解基礎73	1247	英語理解基礎74	1249	英語理解基礎75	1251	英語理解基礎76	1253	英語理解基礎77	1255	英語理解基礎78	1257	英語理解基礎79	1259	英語理解基礎80	1261	英語理解基礎81	1263	英語理解基礎82	1265	英語理解基礎83	1267	英語理解基礎84	1269	英語理解基礎85	1271	英語理解基礎86	1273	英語理解基礎87	1275	英語理解基礎88	1277	英語理解基礎89	1279	英語理解基礎90	1281	英語理解基礎91	1283	英語理解基礎92	1285	英語理解基礎93	1287	英語理解基礎94	1289	英語理解基礎95	1291	英語理解基礎96	1293	英語理解基礎97	1295	英語理解基礎98	1297	英語理解基礎99	1299	英語理解基礎100	1301	英語理解基礎101	1303	英語理解基礎102	1305	英語理解基礎103	1307	英語理解基礎104	1309	英語理解基礎105	1311	英語理解基礎106	1313	英語理解基礎107	1315	英語理解基礎108	1317	英語理解基礎109	1319	英語理解基礎110	1321	英語理解基礎111	1323	英語理解基礎112	1325	英語理解基礎113	1327	英語理解基礎114	1329	英語理解基礎115	1331	英語理解基礎116	1333	英語理解基礎117	1335	英語理解基礎118	1337	英語理解基礎119	1339	英語理解基礎120	1341	英語理解基礎121	1343	英語理解基礎122	1345	英語理解基礎123	1347	英語理解基礎124	1349	英語理解基礎125	1351	英語理解基礎126	1353	英語理解基礎127	1355	英語理解基礎128	1357	英語理解基礎129	1359	英語理解基礎130	1361	英語理解基礎131	1363	英語理解基礎132	1365	英語理解基礎133	1367	英語理解基礎134	1369	英語理解基礎135	1371	英語理解基礎136	1373	英語理解基礎137	1375	英語理解基礎138	1377	英語理解基礎139	1379	英語理解基礎140	1381	英語理解基礎141	1383	英語理解基礎142	1385	英語理解基礎143	1387	英語理解基礎144	1389	英語理解基礎145	1391	英語理解基礎146	1393	英語理解基礎147	1395	英語理解基礎148	1397	英語理解基礎149	1399	英語理解基礎150	1401	英語理解基礎151	1403	英語理解基礎152	1405	英語理解基礎153	1407	英語理解基礎154	1409	英語理解基礎155	1411	英語理解基礎156	1413	英語理解基礎157	1415	英語理解基礎158	1417	英語理解基礎159	1419	英語理解基礎160	1421	英語理解基礎161	1423	英語理解基礎162	1425	英語理解基礎163	1427	英語理解基礎164	1429	英語理解基礎165	1431	英語理解基礎166	1433	英語理解基礎167	1435	英語理解基礎168	1437	英語理解基礎169	1439	英語理解基礎170	1441	英語理解基礎171	1443	英語理解基礎172	1445	英語理解基礎173	1447	英語理解基礎174	1449	英語理解基礎175	1451	英語理解基礎176	1453	英語理解基礎177	1455	英語理解基礎178	1457	英語理解基礎179	1459	英語理解基礎180	1461	英語理解基礎181	1463	英語理解基礎182	1465	英語理解基礎183	1467	英語理解基礎184	1469	英語理解基礎185	1471	英語理解基礎186	1473	英語理解基礎187	1475	英語理解基礎188	1477	英語理解基礎189	1479	英語理解基礎190	1481	英語理解基礎191	1483	英語理解基礎192	1485	英語理解基礎193	1487	英語理解基礎194	1489	英語理解基礎195	1491	英語理解基礎196	1493	英語理解基礎197	1495	英語理解基礎198	1497	英語理解基礎199	1499	英語理解基礎200	1501	英語理解基礎201	1503	英語理解基礎202	1505	英語理解基礎203	1507	英語理解基礎204	1509	英語理解基礎205	1511	英語理解基礎206	1513	英語理解基礎207	1515	英語理解基礎208	1517	英語理解基礎209	1519	英語理解基礎210	1521	英語理解基礎211	1523	英語理解基礎212	1525	英語理解基礎213	1527	英語理解基礎214	1529	英語理解基礎215	1531	英語理解基礎216	1533	英語理解基礎217	1535	英語理解基礎218	1537	英語理解基礎219	1539	英語理解基礎220	1541	英語理解基礎221	1543	英語理解基礎222	1545	英語理解基礎223	1547	英語理解基礎224	1549	英語理解基礎225	1551	英語理解基礎226	1553	英語理解基礎227	1555	英語理解基礎228	1557	英語理解基礎229	1559	英語理解基礎230	1561	英語理解基礎231	1563	英語理解基礎232	1565	英語理解基礎233	1567	英語理解基礎234	1569	英語理解基礎235	1571	英語理解基礎236	1573	英語理解基礎237	1575	英語理解基礎238	1577	英語理解基礎239	1579	英語理解基礎240	1581	英語理解基礎241	1583	英語理解基礎242	1585	英語理解基礎243	1587	英語理解基礎244	1589	英語理解基礎245	1591	英語理解基礎246	1593	英語理解基礎247	1595	英語理解基礎248	1597	英語理解基礎249	1599	英語理解基礎250	1601	英語理解基礎251	1603	英語理解基礎252	1605	英語理解基礎253	1607	英語理解基礎254	1609	英語理解基礎255	1611	英語理解基礎256	1613	英語理解基礎257	1615	英語理解基礎258	1617	英語理解基礎259	1619	英語理解基礎260	1621	英語理解基礎261	1623	英語理解基礎262	1625	英語理解基礎263	1627	英語理解基礎264	1629	英語理解基礎265	1631	英語理解基礎266	1633	英語理解基礎267	1635	英語理解基礎268	1637	英語理解基礎269	1639	英語理解基礎270	1641	英語理解基礎271	1643	英語理解基礎272	1645	英語理解基礎273	1647	英語理解基礎274	1649	英語理解基礎275	1651	英語理解基礎276	1653	英語理解基礎277	1655	英語理解基礎278	1657	英語理解基礎279	1659	英語理解基礎280	1661	英語理解基礎281	1663	英語理解基礎282	1665	英語理解基礎283	1667	英語理解基礎284	1669	英語理解基礎285	1671	英語理解基礎286	1673	英語理解基礎287	1675	英語理解基礎288	1677	英語理解基礎289	1679	英語理解基礎290	1681	英語理解基礎291	1683	英語理解基礎292	1685	英語理解基礎293	1687	英語理解基礎294	1689	英語理解基礎295	1691	英語理解基礎296	1693	英語理解基礎297	1695	英語理解基礎298	1697	英語理解基礎299	1699	英語理解基礎300	1701	英語理解基礎301	1703	英語理解基礎302	1705	英語理解基礎303	1707	英語理解基礎304	1709	英語理解基礎305	1711	英語理解基礎306	1713	英語理解基礎307	1715	英語理解基礎308	1717	英語理解基礎309	1719	英語理解基礎310	1721	英語理解基礎311	1723	英語理解基礎312	1725	英語理解基礎313	1727	英語理解基礎314	1729	英語理解基礎315	1731	英語理解基礎316	1733	英語理解基礎317	1735	英語理解基礎318	1737	英語理解基礎319	1739	英語理解基礎320	1741	英語理解基礎321	1743	英語理解基礎322	1745	英語理解基礎323	1747	英語理解基礎324	1749	英語理解基礎325	1751	英語理解基礎326	1753	英語理解基礎327	1755	英語理解基礎328	1757	英語理解基礎329	1759	英語理解基礎330	1761	英語理解基礎331	1763	英語理解基礎332	1765	英語理解基礎333	1767	英語理解基礎334	1769	英語理解基礎335	1771	英語理解基礎336	1773	英語理解基礎337	1775	英語理解基礎338	1777	英語理解基礎339	1779	英語理解基礎340	1781	英語理解基礎341	1783	英語理解基礎342	1785	英語理解基礎343	1787	英語理解基礎344	1789	英語理解基礎345	1791	英語理解基礎346	1793	英語理解基礎347	1795	英語理解基礎348	1797	英語理解基礎349	1799	英語理解基礎350	1801	英語理解基礎351	1803	英語理解基礎352	1805	英語理解基礎353	1807	英語理解基礎354	1809	英語理解基礎355	1811	英語理解基礎356	1813	英語理解基礎357	1815	英語理解基礎358	1817	英語理解基礎359	1819	英語理解基礎360	1821	英語理解基礎361	1823	英語理解基礎362	1825	英語理解基礎363	1827	英語理解基礎364	1829	英語理解基礎365	1831	英語理解基礎366	1833	英語理解基礎367	1835	英語理解基礎368	1837	英語理解基礎369	1839	英語理解基礎370	1841	英語理解基礎371	1843	英語理解基礎372	1845	英語理解基礎373	1847	英語理解基礎374	1849	英語理解基礎375	1851	英語理解基礎376	1853	英語理解基礎377	1855	英語理解基礎378	1857	英語理解基礎379	1859	英語理解基礎380	1861	英語理解基礎381	1863	英語理解基礎382	1865	英語理解基礎383	1867	英語理解基礎384	1869	英語理解基礎385	1871	英語理解基礎386	1873	英語理解基礎387	1875	英語理解基礎388	1877	英語理解基礎389	1879	英語理解基礎390	1881	英語理解基礎391	1883	英語理解基礎392	1885	英語理解基礎393	1887	英語理解基礎394	1889	英語理解基礎395	1891	英語理解基礎396	1893	英語理解基礎397	1895	英語理解基礎398	1897	英語理解基礎399	1899	英語理解基礎400	1901	英語理解基礎401	1903	英語理解基礎402	1905	英語理解基礎403	1907	英語理解基礎404	1909	英語理解基礎405	1911	英語理解基礎406	1913	英語理解基礎407	1915	英語理解基礎408	1917	英語理解基礎409	1919	英語理解基礎410	1921	英語理解基礎411	1923	英語理解基礎412	1925	英語理解基礎413	1927	英語理解基礎414	1929	英語理解基礎415	1931	英語理解基礎416	1933	英語理解基礎417	1935	英語理解基礎418	1937	英語理解基礎419	1939	英語理解基礎420	1941	英語理解基礎421	1943	英語理解基礎422	1945	英語理解基礎423	1947	英語理解基礎424	1949	英語理解基礎425	1951	英語理解基礎426	1953	英語理解基礎427	1955	英語理解基礎428	1957	英語理解基礎429	1959	英語理解基礎430	1961	英語理解基礎431	1963	英語理解基礎432	1965	英語理解基礎433	1967	英語理解基礎434	1969	英語理解基礎435	1971	英語理解基礎436	1973	英語理解基礎437	1975	英語理解基礎438	1977	英語理解基礎439	1979	英語理解基礎440	1981	英語理解基礎441	1983	英語理解基礎442	1985	英語理解基礎443	1987	英語理解基礎444	1989	英語理解基礎445	1991	英語理解基礎446	1993	英語理解基礎447	1995	英語理解基礎448	1997	英語理解基礎449	1999	英語理解基礎450	2001	英語理解基礎451	2003	英語理解基礎452	2005	英語理解基礎453	2007	英語理解基礎454	2009	英語理解基礎455	2011	英語理解基礎456	2013	英語理解基礎457	2015	英語理解基礎458	2017	英語理解基礎459	2019	英語理解基礎460	2021	英語理解基礎461	2023	英語理解基礎462	2025	英語理解基礎463	2027	英語理解基礎464	2029	英語理解基礎465	2031	英語理解基礎466	2033	英語理解基礎467	2035	英語理解基礎468	2037	英語理解基礎469	2039	英語理解基礎470	2041	英語理解基礎471	2043	英語理解基礎472	2045	英語理解基礎473	2047	英語理解基礎474	2049	英語理解基礎475	2051	英語理解基礎476	2053	英語理解基礎477	2055	英語理解基礎478	2057	英語理解基礎479	2059	英語理解基礎480	2061	英語理解基礎481	2063	英語理解基礎482	2065	英語理解基礎483	2067	英語理解基礎484	2069	英語理解基礎485	2071	英語理解基礎486	2073	英語理解基礎487	2075	英語理解基礎488	2077	英語理解基礎489	2079	英語理解基礎490	2081	英語理解基礎491	2083	英語理解基礎492	2085	英語理解基礎493	2087	英語理解基礎494	2089	英語理解基礎495	2091	英語理解基礎496	2093	英語理解基礎497	2095	英語理解基礎498	2097	英語理解基礎499	2099	英語理解基礎500	2101	英語理解基礎501	2103	英語理解基礎502	2105	英語理解基礎503	2107	英語理解基礎504	2109	英語理解基礎505	2111	英語理解基礎506	2113	英語理解基礎507	2115	英語理解基礎508	2117	英語理解基礎509	2119	英語理解基礎510	2121	英語理解基礎511	2123	英語理解基礎512	2125	英語理解基礎513	2127	英語理解基礎514	2129	英語理解基礎515	2131	英語理解基礎516	2133	英語理解基礎517	2135	英語理解基礎518	2137	英語理解基礎519	2139	英語理解基礎520	2141	英語理解基礎521	2143	英語理解基礎522	2145	英語理解基礎523	2147	英語理解基礎524	2149	英語理解基礎525	2151	英語理解基礎526	2153	英語理解基礎527	2155	英語理解基礎528	2157	英語理解基礎529	2159	英語理解基礎530	2161	英語理解基礎531	2163



# 先端材料工学科

## Department of Advanced Materials Science and Engineering

### 沿革

西暦 1942 年の興亜工業大学の創立とともに冶金学科が設置されました。1950 年に千葉工業大学の発足に伴い、金属工学科となりました。2003 年に既設の機械工学科、金属工学科、精密機械工学科を母体として、機械サイエンス学科となりました。2016 年に既設の機械サイエンス学科が機械工学科、機械電子創成工学科、先端材料工学科の 3 学科に再編されました。先端材料工学科は、工学と工業の発展に対応しうる基礎知識及びモノづくりに関する知見を有した創造性豊かな人材の養成を目指した教育・研究を展開しています。

### ディプロマ・ポリシー

先端材料工学科では、大学の建学の精神「世界文化に技術で貢献する」の下で、材料開発と循環型ものづくりの技術で社会に貢献できる人材の育成を目的としている。そのため、材料工学を中心とした下記の能力の獲得と、カリキュラム上で定める所定の単位を取得した人材に学士（工学）の学位を授与する。

- (1) 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- (2) 材料工学分野を専門領域とし、材料の設計・開発、材料製造・リサイクルなどに関する基礎的な知識と技術を習得している。
- (3) 自然科学の基礎学力に裏付けされた材料工学分野での専門基礎知識と基礎技術を説明できる。
- (4) 専門的な観点から材料の設計・開発または材料製造・リサイクルに関して、継続的に問題解決と共同作業を実行できる。
- (5) 材料工学分野の基礎的・基幹的な知識・技術を活用して、自らの思考・判断のプロセスを説明して伝達するためのコミュニケーション及びプレゼンテーションをすることができる。
- (6) 専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解できる。

### カリキュラム・ポリシー

先端材料工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、下記の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- (2) 自然科学の基礎学力は、数学、物理学、化学及び物理学実験や化学実験等の専門基礎科目と専門基幹科目の修得により達成される。また、材料工学の基礎学力は、2 科目の演習科目を含む専門基幹科目の修得により達成される。この専門基幹科目は、14 科目中 12 科目が必修科目からなり、材料工学の基礎学力を確実に育成させる。
- (3) 専門展開科目では、材料設計・開発技術に関する選択科目群と、材料製造・リサイクル技術に関する選択科目群及び、材料工学実験、ゼミナール、卒業論文等の必修科目が配置されている。専門展開科目では、材料設計・開発技術分野科目群または材料製造技術分野科目群の

いずれかを選択し、より深い専門知識を高める。さらに、卒業論文等の必修科目を通して、共同作業の遂行と継続的な問題解決能力、プレゼンテーション能力を育成する。

(4) 技術者倫理及び社会的責任については、様々な科目でも話題にするが、主に専門展開科目の技術者倫理により修得する。

### 教育の特徴と学修・教育目標

先端材料工学科では、工業材料に関する基礎的知識を修得し、機械をはじめ、エレクトロニクス、エネルギー、建設等のあらゆる産業分野で必要とされる材料設計・製造・加工プロセスに対応でき、地球環境保全に配慮した社会に貢献できる技術者の養成を目標とします。

そのため、材料の構造・特性、材料設計・製造・加工プロセス、機能材料・環境適合材料の生産、材料リサイクルなどに関する専門科目を修得します。また、演習・実験を通じて社会的目的を意識した材料の設計・開発・生産および利用についての必要な学問・知識を学びます。

### 研究の特徴

先端材料工学科では、科学技術を実際の生活に役立てることを念頭にして、金属材料や機能材料をメインにした新材料開発を研究の特徴としています。また、省資源・省エネルギー社会を支えるための循環型ものづくりとリサイクル技術の開発も行っています。

具体的には、材料の生産、加工、リサイクルなどの様々な材料製造技術に関する研究、鉄鋼材料をはじめとする各種構造材料に関する研究、磁石、半導体、ダイヤモンド、電子・光学材料に代表される各種機能材料に関する研究、全く新しい材料開発に関する研究など、「材料工学分野」の全領域にわたる研究を実施しています。

### 就職・進路

自動車、航空機器、機械・重機製造、製鉄・鉄鋼製造業、非鉄金属製造業、機械・金属部品、プラント開発、電気電子機器・半導体製造、電池・エネルギー、リサイクル・環境事業などをはじめとする材料関連産業、公務員、大学院進学

本学科が取得することのできる資格として、高等学校教諭一種免許状（工業）の教育職員免許状が用意されています。教育職員免許に関しては、第6章「教育職員免許について」を参照してください。

### 教養科目における学部指定科目群の履修について

教養科目の「人間・社会・自然の理解」分類は、「国際理解」分類の学びを基礎として、世の中の様々な出来事や考え方、仕組みなどについて幅広く学習する科目が開講されています。その中から工学部（機械工学科、先端材料工学科、応用化学科）では、専門科目との繋がりを考慮して1・2年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群1」と3・4年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群2」がそれぞれ設定されていますので、これら科目群から興味・関心のある科目を選択して履修してください。（これ以外の科目も履修は可能ですが、卒業要件にある学部指定科目群1又は2の単位取得要件には含まれないので、注意してください。）

また、2年生後期では「国際理解」分類及び「学部指定科目群1」で学んだ内容を主体的にまとめ、より深い理解や応用の思考力を養うために「総合」分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」が開講されるので、必ずどちらか1科目を履修してください。

#### 〔国際理解及び学部指定科目群の履修体系〕

「国際理解」分類（1・2年生）		「学部指定科目群1」（1・2年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群1の対象科目（※）
異文化理解	必修	哲学	
言語と文化1	必修	倫理学	○
言語と文化2	必修	文学と芸術	○
		歴史と人間	
		心理学	
		身体と健康の科学	○
		憲法と社会	○
		現代社会論	○
		科学技術史	○
		環境科学概論	

※○の科目から3科目を選択して履修



#### 「総合」分類（2年生後期）

科目名
課題探究セミナー（※）
総合学際科目（※）

※1科目を選択して履修



「国際理解」分類（3・4年生）		「学部指定科目群2」（3・4年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群2の対象科目（※）
グローバル時代の法	（※）	経済学	
国際社会論	（※）	物理の世界と先端技術	
		物質科学	○
		政治と社会	○
		地球科学	○
		生命科学	○

※○の科目から2科目を選択して履修

目次へ戻る

# 先端材料工学科

## 進級資格要件及び卒業資格要件

以下の進級資格要件及び卒業資格要件は、各年次に進級するために満たすべき最低限の条件です。その上の年次への進級及び卒業を保証するものではありません。

そのため、所定の年限（4年間）で卒業するためには、各年次の進級資格要件及び卒業資格要件をよく読み、各年次で計画的に単位を修得する必要があります。

### I. 第2年次進級資格要件

1年以上在学し、第1年次を終了して32単位以上を修得していること。

### II. 第3年次進級資格要件

2年以上在学し、第2年次を終了して64単位以上を修得していること。

### III. 第4年次進級資格要件

3年以上在学し、第3年次を終了して96単位以上を修得していること。

### IV. 卒業資格要件

4年以上在学し、第4年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：全ての必修科目を含め、124単位以上を修得していること。
2. 教養科目：次の条件を満たし、35単位以上を修得していること。
  - ・コミュニケーションスキル分類：選択科目の中から6単位以上（※）  
※必修科目の日本語表現法は含まないので、注意すること。
  - ・国際理解分類：「グローバル時代の法」及び「国際社会論」から、2単位以上
  - ・人間・社会・自然の理解分類：(1) 学部指定科目群1の中から、6単位以上  
(2) 学部指定科目群2の中から、4単位以上
  - ・総合分類：「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」から、2単位以上
  - ・教養特別科目分野：1単位以上
3. 専門科目：89単位以上を修得していること。

## 先端材料工学科 教育課程表

### 教養科目

科目群	分野	分類	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係				
				必修	選択	1年		2年		3年		4年							
						1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S						
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1	1	2										基礎レベル対象の科目	教			
			英語表現基礎 1	1	2														
			英語理解基礎 2	1		2													
			英語表現基礎 2	1		2													
			英語理解基礎 3	1			2												
			英語表現基礎 3	1			2												
			英語理解基礎 4	1				2											
			英語表現基礎 4	1				2											
			英語理解 1	1	2													中級レベル対象の科目	教
			英語表現 1	1	2														
			英語理解 2	1		2													
			英語表現 2	1		2													
			英語理解 3	1			2												
			英語表現 3	1			2												
			英語理解 4	1				2											
			英語表現 4	1				2											
			英語理解発展 1	1	2											上級レベル対象の科目	教		
			英語表現発展 1	1	2														
			英語理解発展 2	1		2													
			英語表現発展 2	1		2													
	英語理解発展 3	1			2														
	英語表現発展 3	1			2														
	英語理解発展 4	1				2													
	英語表現発展 4	1				2													
	資格試験英語 A	1				2													
	資格試験英語 B	1				2													
	日本語表現法	1		2															
	情報*	数理・データサイエンス・AI 入門	1		2										教				
		AI・プログラミング基礎演習	1		2										教				
	人間力養成	スポーツ科学	2		2										教				
		初年次教育	1		2										教				
		キャリアデザイン 1	1		2										GPA 除外, CAP 除外				
		キャリアデザイン 2	1			2									GPA 除外, CAP 除外				
		キャリアデザイン 3	1					2							GPA 除外, CAP 除外				
	国際理解	異文化理解	2		2														
		言語と文化 1	2		2														
		言語と文化 2	2		2														
		グローバル時代の法	2						2										
		国際社会論	2						2										
		人間・社会・自然の理解	哲学	2		2													
			倫理学	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
			文学と芸術	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
			歴史と人間	2		2													
			心理学	2		2													
			身体と健康の科学	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
憲法と社会			2		2										学部指定科目群 1 に含まれる				
政治と社会			2						2						学部指定科目群 2 に含まれる				
経済学			2						2										
現代社会論			2		2										学部指定科目群 1 に含まれる				
科学技術史	2			2										学部指定科目群 1 に含まれる					
環境科学概論	2			2															
生命科学	2								2					学部指定科目群 2 に含まれる					
地球科学	2								2					学部指定科目群 2 に含まれる					
物理の世界と先端技術	2								2										
物質科学	2							2					学部指定科目群 2 に含まれる						
総合	課題探究セミナー	2			2														
	総合学際科目	2			2														
教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	1						2						CAP 除外					
	イングリッシュアクティブラーニング 2	1							2					CAP 除外					
	イングリッシュアクティブラーニング 3	1							2					CAP 除外					
	日本語アクティブラーニング	1							2					CAP 除外					
	スポーツアクティブラーニング	2								2				CAP 除外					
	ソーシャルアクティブラーニング	1				2								GPA 除外, CAP 除外					
	国際インターン	1					2							GPA 除外, CAP 除外					
	国内インターン	1					2							GPA 除外, CAP 除外					
	ボランティア	1					2							GPA 除外, CAP 除外					
	キャリアアップラーニング	1					2							GPA 除外, CAP 除外					
	総合科学特論	2								2				CAP 除外					

\* 情報リテラシー

目次へ戻る

はじめに

学生生活のしくみ

修学システム

先端材料工学科

各学科の取得可能な資格システム

教育職員免許システム

専門科目

科目群	分野	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係		
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
専門基礎科目		数学基礎	2		3											
		線形代数	2		2											
		微分積分		2		2										
		確率統計		2		2										
		微分方程式		2			2									
		工業数学		2				2								
		物理学基礎	2		3											
		物理学応用		2		2										
		化学基礎	2		3											
		物理化学	2			2										
	物理学実験	2				4										
	化学実験	2				4										
専門基礎科目		先端材料工学概論	2		2											
		エネルギー工学概論	2				2									工
		リサイクル概論	2				2									
		基礎材料工学	2			2										工
		工業英語	2						2							
		工学基礎		2			2									
		基礎製図		2						4						
		材料物理学	2			2										工
		材料熱化学	2					2								工
		固体物理学	2				2									工
		材料組織学	2				2									工
		材料電気化学	2					2								工
		材料力学及び演習	2					2								工
	創造工学及び演習	2					4									
専門科目		構造材料 1		2						2						工
		構造材料 2		2						2						工
		半導体材料		2							2					工
		磁性材料		2							2					工
		薄膜材料		2				2								
		電池材料		2						2						
		光機能材料		2						2						
		セラミックス・ポリマー材料		2							2					
		エネルギー材料		2								2				
		材料化学プロセス工学 1		2					2							工
		材料化学プロセス工学 2		2						2						
		化学反応工学		2						2						
		リサイクル工学		2								2				工
		材料強度学 1		2						2						工
		材料強度学 2		2							2					
		材料加工法及び演習		2					2							
		材料評価法及び演習		2							2					
		材料シミュレーション		2								2				
		塑性加工学		2				2								工
		融体成形工学		2					2							工
		接合工学		2							2					
		表面工学		2						2						工
		粉体材料工学		2						2						工
		技術者倫理	2									2				工
		先端材料工学実験 1	2						4							
		先端材料工学実験 2	2								4					
		先端材料ゼミナール	1								2					
	ゼミナール 1	2									4					
	ゼミナール 2	2										4				
	卒業研究	5										10	GPA 除外			

はじめて

学生生活について

修学について

先端材料工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

カリキュラムツリーと科目毎に付されている科目ナンバ（科目ナンバリングと称する）は、ディプロマ・ポリシーとの関連性や科目間の繋がりが、履修の順次性を示しています。科目ナンバリングは4桁の数字で構成されており、それぞれの数字の意味は右側に記載しているため、参照のうえ、履修計画を立ててください。

1科目：カリキュラムツリー上と関連するDP番号	2科目：教育課程上の区分	3・4科目：各授業科目固有番号
1. 基礎学力・人間力	教養基礎科目：1 教養共通科目：2 教養特別科目：3	01～

### 先端材料工学科DP/CPとカリキュラムツリー

※その他、関連するDPを番号で表示  
 (注) 卒業要件の内訳は「連結資格要件及び卒業資格要件」を参照

学科学科	学科学科CP	1年次				2年次				3年次				4年次		卒業要件(注)		
		1S (前期)	2S (後期)	3S (前期)	4S (後期)	5S (前期)	6S (後期)	7S (前期)	8S (後期)									
学科学科	基礎科目	1101 英語理解基礎1	1103 英語理解基礎2	1105 英語理解基礎3	1107 英語理解基礎4												35 単 位 以 上	
		1102 英語表現基礎1	1104 英語表現基礎2	1106 英語表現基礎3	1108 英語表現基礎4													
		1109 英語理解1	1111 英語理解2	1113 英語理解3	1115 英語理解4													
		1110 英語表現1	1112 英語表現2	1114 英語表現3	1116 英語表現4													
		1117 英語理解発展1	1119 英語理解発展2	1121 英語理解発展3	1123 英語理解発展4													
		1118 英語表現発展1	1120 英語表現発展2	1122 英語表現発展3	1124 英語表現発展4													
		1127 日本語表現法		1125-1126 資格証履修英語A・B														
		情報リテラシー	1128 情報リテラシー	1129 AI・デジタルコミュニケーション														
		人間力養成	1130 初年次教育	1131 キャリアデザイン1	1132 キャリアデザイン2	1133 キャリアデザイン3												
		スポート科学	1134 スポート科学															
国際理解	1201-1202-1203 異文化理解・言語と文化1・言語と文化2															124 単 位 以 上		
教養共通科目	1205-1207-1208-1209-1210-1211 倫理学、文学と芸術、身体と健康の科学、憲法と社会、現代社会論、科学技術史																	
総合	1216-1217 課題探究ゼミナー 総合学際科目																	
教養特別科目	1301-1302-1303-1304-1305 ソーシャルアクティビティニング、国際インターン、国内インターン、キャリアアップラーニング																	

目次へ戻る

教育職員免許制コース  
 各学科で取得可能な資格コース  
 先端材料工学科  
 修学コース  
 学生生活コース  
 学びこめこめ



# 電気電子工学科

## Department of Electrical and Electronic Engineering

### 沿革

電気電子工学科の起源は 1953 年に創設された電気工学科まで遡ります。電気工学科は大学制度が旧制から新制に移行して 3 年目に時代の要請を担って創立されました。ついで 1955 年に電気工学科第二部が増設され、1961 年に電子工学科が分離独立する形で設立されました。1989 年には電気工学科、電子工学科にそれぞれに大学院修士課程も設置され、1991 年には電気電子工学専攻博士課程も増設されました。また、1990 年には電子工学科第二部が増設されました。1999 年には電気工学科と電子工学科の第一部・第二部が廃止され、昼夜開講制へと移行しました。さらに、2003 年に電気工学科と電子工学科を統合して電気電子情報工学科へと改組転換しました。また、2008 年には夜間の開講が廃止されました。そして、2016 年に電気電子情報工学科を改組し、その中の電気電子工学分野を中心に電気電子工学科が開設されました。これは急激に変化する社会情勢に対応するためしっかりとした電気電子工学分野の基礎学力を身に付け、社会で活躍できる人材を養成するために改編したものです。

### ディプロマ・ポリシー

電気電子工学科では、以下の教育目標に到達した人材に学士（工学）の学位を授与する。

- (1) 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- (2) 自然科学の数学、物理学などの基礎知識と実験技術を修得し、問題に適用することができる。
- (3) 電気電子工学分野に関する一般的な基礎知識に加え、専門知識を身に付け、活用することができる。
- (4) 電気電子工学分野の国際的動向や社会的意義に関心をもち、関連する新たな創造や課題解決などに向けて主体的に取り組むことができる。
- (5) 電気電子工学に関する実験を遂行でき、得られた実験データを解析して考察したうえで、論理的に説明することができる。また、自分自身の考えや意見を明確に表現でき、他の人と相互に理解することができる。また、自分自身の考えや意見を明確に表現でき、他の人と相互に理解することができる。また、自分自身の考えや意見を明確に表現でき、他の人と相互に理解することができる。また、自分自身の考えや意見を明確に表現でき、他の人と相互に理解することができる。
- (6) 電気電子工学分野の技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

### カリキュラム・ポリシー

電気電子工学科では、ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人材を育成するために以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- (2) 専門基礎科目では主に数学、物理、化学などの科目によって構成されており、電気電子工学を学修するために必要とした自然科学の基礎知識と実験技術を身に付ける。なお、ほとんどの専門基礎科目は必修としている。
- (3) 専門基幹科目である電気磁気学や電気回路、電子回路、電子物性・デバイスなどのほぼ必修である科目群では電気電子工学分野共通の専門基礎知識を身に付ける。

- (4) 「電気電子工学実験 1,2,3」では、各実験項目に関連する専門知識の理解を深め、さらに実験計画・遂行・まとめ・考察に関する能力ならびにグループ作業に必要なコミュニケーション能力とチームワーク力を養う。
- (5) 専門展開科目では電気エネルギーの発送配変電、電気機器、計測・制御、音響・光学、信号処理など幅広い電気電子工学分野の専門課題を理解する。
- (6) 必修科目である「ゼミナール 1,2」や「卒業研究」では、これまで学んだ知識を総合的に活用し、国際的な視点から電気電子工学の専門課題の発掘、解決手法の提案・計画・遂行ならびに自らの思考プロセスを論理的に説明するなど電気電子工学に関する総合的なエンジニアリング・デザイン能力を身に付ける。
- (7) 法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者として守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配当する。

### 教育の特徴と学修・教育目標

今日、科学技術の発展は著しく、また私たちを取り巻く状況も年々厳しさを増していますが、これらの変化に対応し技術開発に立ち向かうことができる人材を育成し、世界文化に技術で貢献する技術者を社会に送り出すことを目指しています。

電気電子工学科では、その扱う中心的な技術・学問分野が「電気・電子工学分野」であり、関連する電気系産業に携わる技術者を育成することを目的としています。また、このような技術者には電気工学及び電子工学に関する基礎的・基本的知識と技術を修得し、環境及びエネルギーに配慮しつつ、電力技術や電子技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決することが必要です。さらに、人間生活の利便性及び生活の向上や効率化を図るための創造的な能力と実践的な態度を育てることにより地域社会や地域産業への貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような人材を育成するために電気電子工学科では以下の様な科目を履修します。

- 「教養科目」： 汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解を深めるための科目群
- 「専門基礎科目」： 専門の骨格を正確に把握させるため、電気電子工学を学修するうえで必要となる基礎としての自然科学に関する科目から構成される科目群
- 「専門基幹科目」： 専門教育を体系的に学修するうえでの導入・総論として、電気電子工学における学問体系と基本的な知識を理解するための科目から構成される科目群
- 「専門展開科目」： 「基幹」を受けて学修する分野の基本をより具体的に理解するための専門分野の体系全般にわたる科目等から構成される科目群

## 研究の特徴

電気電子工学は高度な技術系産業の中核的学問分野の1つであり、本学科の研究分野はその主だった領域をカバーしています。産業や地球環境の重要な部分を占める電気エネルギーの発生と輸送及び応用を中心とした研究分野として、エネルギー供給システム、電力輸送に関連した電気機器、絶縁破壊・絶縁物の耐久試験、デジタル制御やシミュレーション、パワーエレクトロニクス、パワーデバイス、光デバイスなどに関する研究に取り組んでいます。また、生活を便利・快適・豊かにするための関連技術として、新しい電子・磁性材料、各種センサを含めた電子・磁性デバイス、レーザー光や超音波などを用いた計測・制御技術、プラズマエレクトロニクス、テラヘルツ電磁波、非線形光学などに関する研究にも取り組んでいます。

## 就職・進路

より高度な知識や技術さらには研究・開発能力を身に付けようとする学生のために、電気電子工学専攻・修士課程、また工学専攻・博士課程は設置されています。近年企業では、技術者や研究者として即戦力となる学生を採用する傾向があるので、大学院で高度な知識や技術を身に付け、研究・開発に貢献できる技術者や研究者となることがますます重要になってきています。

本学科で修得する知識・経験・スキルを活かして、主に電力関連、電気産業、通信産業、精密機械産業、輸送・重機械産業といった幅広い分野・業種の企業からの求人が期待されます。

はじめに

学生生活について

修学について

電気電子工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

### 教養科目における学部指定科目群の履修について

教養科目の「人間・社会・自然の理解」分類は、「国際理解」分類の学びを基礎として、世の中の様々な出来事や考え方、仕組みなどについて幅広く学習する科目が開講されています。その中から工学部（宇宙・半導体工学科，電気電子工学科，情報通信システム工学科）では，専門科目との繋がりを考慮して1・2年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群1」と3・4年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群2」がそれぞれ設定されていますので，これら科目群から興味・関心のある科目を選択して履修してください。（これ以外の科目も履修は可能ですが，卒業要件にある学部指定科目群1又は2の単位取得要件には含まれないので，注意してください。）

また，2年生後期では「国際理解」分類及び「学部指定科目群1」で学んだ内容を主体的にまとめ，より深い理解や応用の思考力を養うために「総合」分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」が開講されるので，必ずどちらか1科目を履修してください。

[国際理解及び学部指定科目群の履修体系]

「国際理解」分類（1・2年生）		「学部指定科目群1」（1・2年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群1の対象科目（※）
異文化理解	必修	哲学	○
言語と文化1	必修	倫理学	○
言語と文化2	必修	文学と芸術	
		歴史と人間	○
		心理学	
		身体と健康の科学	
		憲法と社会	○
		現代社会論	○
		科学技術史	
		環境科学概論	○

※○の科目から3科目を選択して履修



「総合」分類（2年生後期）

科目名
課題探究セミナー（※）
総合学際科目（※）

※1科目を選択して履修



「国際理解」分類（3・4年生）		「学部指定科目群2」（3・4年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群2の対象科目（※）
グローバル時代の法	（※）	経済学	
国際社会論	（※）	物理の世界と先端技術	○
		物質科学	○
		政治と社会	○
		地球科学	
		生命科学	○

※○の科目から2科目を選択して履修

# 電気電子工学科

## 進級資格要件及び卒業資格要件

以下の進級資格要件及び卒業資格要件は、各年次に進級するために満たすべき最低限の条件です。その上の年次への進級及び卒業を保証するものではありません。

そのため、所定の年限（4年間）で卒業するためには、各年次の進級資格要件及び卒業資格要件をよく読み、各年次で計画的に単位を修得する必要があります。

### I. 第2年次進級資格要件

1年以上在学し、第1年次を終了して32単位以上を修得していること。

### II. 第3年次進級資格要件

2年以上在学し、第2年次を終了して64単位以上を修得していること。  
 （「電気電子工学実験1」を修得していること。）

### III. 第4年次進級資格要件

3年以上在学し、第3年次を終了して96単位以上を修得していること。  
 （「電気電子工学実験2」及び「電気電子工学実験3」を修得していること。）

### IV. 卒業資格要件

4年以上在学し、第4年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：全ての必修科目を含め、124単位以上を修得していること。
2. 教養科目：次の条件を満たし、35単位以上を修得していること。
  - ・ コミュニケーションスキル分類： 選択科目の中から6単位以上（※）  
 ※必修科目の日本語表現法は含まないので、注意すること。
  - ・ 国際理解分類： 「グローバル時代の法」及び「国際社会論」から、2単位以上
  - ・ 人間・社会・自然の理解分類： (1) 学部指定科目群1の中から、6単位以上  
 (2) 学部指定科目群2の中から、4単位以上
  - ・ 総合分類： 「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」から、2単位以上
  - ・ 教養特別科目分野： 1単位以上
3. 専門科目：89単位以上を修得していること。

## 電気電子工学科 教育課程表

### 教養科目

科目群	分野	分類	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係				
				必修	選択	1年		2年		3年		4年							
						1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S						
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1	1	2										基礎レベル対象の科目	教 教			
			英語表現基礎 1	1	2														
			英語理解基礎 2	1		2													
			英語表現基礎 2	1		2													
			英語理解基礎 3	1			2												
			英語表現基礎 3	1			2												
			英語理解基礎 4	1				2											
			英語表現基礎 4	1				2											
			英語理解 1	1	2													中級レベル対象の科目	教 教
			英語表現 1	1	2														
			英語理解 2	1		2													
			英語表現 2	1		2													
			英語理解 3	1			2												
			英語表現 3	1			2												
			英語理解 4	1				2											
			英語表現 4	1				2											
			英語理解発展 1	1	2											上級レベル対象の科目	教 教		
			英語表現発展 1	1	2														
			英語理解発展 2	1		2													
			英語表現発展 2	1		2													
			英語理解発展 3	1			2												
			英語表現発展 3	1			2												
			英語理解発展 4	1				2											
			英語表現発展 4	1				2											
			資格試験英語 A	1				2											
	資格試験英語 B	1				2													
	日本語表現法	1		2															
	情報*	数理・データサイエンス・AI 入門	1		2										教				
		AI・プログラミング基礎演習	1		2										教				
	人間力養成	スポーツ科学	2		2										教				
		初年次教育	1		2									GPA 除外, CAP 除外	教				
		キャリアデザイン 1	1		2									GPA 除外, CAP 除外					
		キャリアデザイン 2	1			2								GPA 除外, CAP 除外					
		キャリアデザイン 3	1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	教養科目	国際理解	国際理解	異文化理解	2		2												
				言語と文化 1	2		2												
				言語と文化 2	2		2												
				グローバル時代の法	2						2								
				国際社会論	2							2							
		人間・社会・自然の理解	人間・社会・自然の理解	哲学	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる			
				倫理学	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる		
				文学と芸術	2		2										学部指定科目群 1 に含まれる		
				歴史と人間	2		2												
				心理学	2		2												
				身体と健康の科学	2		2												
憲法と社会				2		2										学部指定科目群 1 に含まれる	教		
政治と社会				2							2					学部指定科目群 2 に含まれる			
経済学				2							2								
現代社会論				2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
科学技術史				2		2													
環境科学概論				2		2										学部指定科目群 1 に含まれる			
生命科学				2							2					学部指定科目群 2 に含まれる			
地球科学				2							2								
物理の世界と先端技術				2							2					学部指定科目群 2 に含まれる			
物質科学		2							2					学部指定科目群 2 に含まれる					
総合		課題探究セミナー	2			2													
		総合学際科目	2			2													
教養特別科目		教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	1						2					CAP 除外				
			イングリッシュアクティブラーニング 2	1							2				CAP 除外				
	イングリッシュアクティブラーニング 3		1								2			CAP 除外					
	日本語アクティブラーニング		1								2			CAP 除外					
	スポーツアクティブラーニング		2									2		CAP 除外					
	ソーシャルアクティブラーニング		1				2							GPA 除外, CAP 除外					
	国際インターン		1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	国内インターン		1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	ボランティア		1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	キャリアアップラーニング		1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	総合科学特論	2								2			CAP 除外						

\* 情報リテラシー

目次へ戻る

専門科目

科目群	分野	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係					
			必修	選択	1年		2年		3年		4年								
					1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S							
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	2		3														
		線形代数基礎	2		2														
		物理学基礎	2		3														
		複素数とベクトル	2		2														
		線形代数応用	2			2													
		微分積分	2			3													
		化学基礎	2			3													
		微分方程式	2				2												
		物理学応用	2				2												
		確率統計		2				2											
		量子力学基礎		2				2											
		物理学実験	2				4												
		化学実験		2			4												
		専門基幹科目	電気電子工学入門	2		2													
	電気電子基礎数学及び演習		2			3													
	電気磁気学及び演習 1		2			3												工	
	電気磁気学及び演習 2		2				3												工
	電気回路及び演習 1		2				3												工
	計測工学		2				2												工
	電子物性		2				2												工
	プログラミング言語及び演習		2				3												
	電気回路及び演習 2		2					3											工
	電子回路及び演習 1		2					3											工
	電子デバイス及び演習 1		2					3											工
	電気回路解析学		2					2							オンライン授業				工
	文献輪読		2								2								
	電気電子工学実験 1		2					4											工
	電気電子工学実験 2	2							4									工	
	電気電子工学実験 3	2								4								工	
	専門展開科目	デジタル回路		2			2												
		信号処理論		2					2										
		電子回路 2		2					2										
		電子デバイス 2		2					2										工
		電磁エネルギー変換工学		2					2					オンライン授業					工
		制御工学 1		2					2										
		変電工学		2					2										
		送配電工学		2					2										
		プラズマエレクトロニクス		2					2										工
		コンピュータ工学		2					2										
		電気音響工学		2					2										工
		発電工学		2					2										工
		パワーエレクトロニクス		2						2									工
		制御工学 2		2						2									
		計測システム工学		2						2									
		高電圧工学		2						2									工
電気電子材料			2						2									工	
光エレクトロニクス			2						2										
数値計算工学			2						2										
電子回路 3			2						2										
技術者倫理		2							2										
ゼミナール 1		2							2										
電気機器設計・製図			2								2								
電気法規		2								2									
ゼミナール 2	2									2									
卒業研究	5										10		GPA 除外						

はじめに

学生生活について

修学について

電気電子工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る





# 情報通信システム工学科

Department of Information and Communication Systems Engineering

## 沿革

情報通信システム工学科は、2016年4月に工学部に設置された学科であり、改編時に本学科の母体となった電気電子情報工学科の電子工学コース・情報工学コースの通信系の教員が中心となって構成されました。旧学科である電気電子情報工学科では、電子工学コース・情報工学コースのように学問分野別にコース分けされていましたが、工学部改編に伴い、社会へ提供するサービス、あるいは社会を支える基盤の一つとしての「通信」をキーワードに新たに学科を構想し、情報通信システム工学科が誕生しました。情報通信システム工学科には、情報工学分野を中心として活躍している教員や、回路工学、電波工学、光工学、情報ネットワークなどの分野を中心に研究を進めている教員が所属しており、各自の分野を「通信」というキーワードで結ぶことで、通信に関する物理現象の基礎から、インターネットの応用まで、実践的な教育を行うことを目標としています。

今後、「通信」は社会の隅々まで普及し、人と人だけでなく、あらゆるモノとモノをつなぐ大きな多様性を持つ社会基盤システムとなることが予想されます。本学科の名称を「情報通信システム」としている理由は、本学科が、情報通信技術とそれを支えるシステムに柔軟に対応し、創造性をもって発展させてゆくことができる人材育成を目指しているからです。

## ディプロマ・ポリシー

情報通信システム工学科では、所定の期間在学し、開講された科目を履修し、単位を取得することによって、以下の資質と能力を身に付けた人材に、学士(工学)の学位を授与する。

- (1) 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- (2) 理学と数学の基礎知識と応用する力を身に付け、それらを現実の問題へ応用できる。
- (3) 社会基盤である情報通信システムの原理を理解し、それらを管理することができる。
- (4) 情報通信工学に関する専門知識を身に付け、社会の通信技術への要求を理解し、通信技術による問題解決を提案できる。
- (5) 自分の考えを論理的に整理し、他人に正しく伝え、議論することができる。また、自ら問題を見つけ、それを解決する手段を、論理性をもって計画的に考えることができる。
- (6) 情報通信工学分野の技術者などとして守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解している。

## カリキュラム・ポリシー

情報通信システム工学科では、ディプロマ・ポリシーで定めた能力を持つ人材を育成するために、下記の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- (2) 専門基礎科目では数学と物理学を中心に据え、それらの基礎を固めた上で応用的な内容に踏み込み、その後、専門基幹科目の基礎数理系科目群において情報通信分野に必要な理学・数学を修得する。また、この専門基幹科目においてはコンピュータの基礎にも精通する。

- (3) 1, 2 年次では、専門基幹科目における情報通信基礎科目群において、情報通信工学の基礎知識を履修する。これにより 3 年次以降で、情報通信分野の技術者として必要不可欠な知識を履修するための専門展開科目を履修することができる。
- (4) 学んだ知識や理論を実際に自分の手で確認するため、2, 3 年次にはプログラミングに関するコンピュータ・ネットワーク系科目群、およびその実践である演習・実験系科目群を履修する。演習・実験系科目群により、種々のプログラミングスキルに加え、電子回路などの多様な技術に精通し、様々な場面での問題解決に役立てることができる。
- (5) 3 年次の後期から 4 年次には少人数で各教員の研究室に所属し、その研究分野に則したテーマで、ゼミナールの指導を受ける。英文を含む文献の講読、グループでのディスカッションや、研究成果のプレゼンテーション、報告書の執筆が求められるため、文書作成能力、論理性、協調性、計画性を養成することができる。さらにこれらのことを生かし、卒業研究では、自ら問題を提起し、それを解決する手法の提案と評価を行う能力を身に付けることができる。
- (6) 生命を尊重し、法令を遵守すると共に、データ改ざん、盗用、剽窃行為の禁止など、技術者として守るべき倫理や社会的責任を理解するための科目を配当する。

### 教育の特徴と学修・教育目標

近年の情報通信システムの発展は、産業、経済、生活を大きく変えてきました。また今後も、日々新しい通信技術と情報処理技術が開発され、情報通信システムは人間生活の利便性の向上に貢献してゆくものと考えられます。このような急速な進歩が続く情報通信分野で、進歩に追従し、さらに自らイノベーションの先頭に立つ人材を育成するためには、急速な変化の中でも普遍的な技術の根幹を十分に理解し、さらに、それを応用する能力を教育することが不可欠です。そのために本学科では、物理と数学の基盤をしっかりと身に付けた上で、通信の要素技術から、要素技術を組み合わせた体系としての通信システムの開発・運営の技術までを修得できるカリキュラムを編成しています。

専門基幹科目および専門基礎科目では、後に開講される専門科目群で必要となる、数学と物理を中心とした基礎学力を身に付けることを目標としています。中でも重要な内容を含む科目は、講義と演習を組み合わせた「演習つき科目」とし、講義で学修した内容を十分な演習を通じて深く理解できるようにしています。また、複数の基礎科目を連携させることで、学生の思考能力や論理性を高め、後の専門展開科目で、応用力を発揮できるようにカリキュラムを編成しています。

専門科目群では、ハードウェア、ソフトウェアを問わず情報通信システムを構築・運用するために必要な知見を得るために、また、学生が授業科目の中から各自の志望進路と適性を見出すことができるように、光・電波などの通信媒体の物理的な側面に関する科目から、ソフトウェアの設計・プログラミング、コンピュータネットワークなど情報処理やシステムの数理に関する幅広い分野まで、重要性に応じて絞り込んだ科目群を選んで開講しています。

本学科の科目は、通信系と情報系の二つに分類することができます。通信系の科目は、電子デバイスから光ファイバによる通信網構築まで、通信基盤のハードウェア、運営面を学修することを目的とした科目です。これらを修得した場合、電気通信主任技術者資格試験の一部科目免除、第一級陸上特殊無線技士、第二級・第三級海上特殊無線技士の資格を取得することができます。情報系科目では、デジタル回路などコンピュータ工学の基礎から、インターネットなど情報通信システムの数理的な側面を学修し、通信システムを指向した情報処理技術者を目指すことができます。

2年後期から3年後期までの3つのセメスターでは、3つの実験科目が開講されています。これらの実験科目では、座学で学修した通信システム技術を、再度自分の手で実験し、実践的に確認することができます。また、コンピュータのプログラミングに関する演習は、2年後期で基本的な技術を学び、3年前期で基本から応用へと展開するカリキュラム編成となっています。こちらも学生自らが実際に動作するプログラムを書くスキルを、無理なく身に付けることができます。

4年次の卒業研究では、全学生が各教員の研究室に分かれて配属され、それぞれが教員の指導のもと主体的に研究を進める中で、問題発見能力、問題解決能力と思考力を磨き、さらに研究発表を通じてプレゼンテーション能力を身に付けることができます。このような研究活動を通じて、情報通信システム分野に強い関心を持ち、より専門性の高い技術者・研究者を志望するに至った学生は、大学院へ進学し、さらに専門的な知識と能力を身に付け、より高度な研究を行うことができます。

### 研究の特徴

本学科を構成する教授陣の研究分野は、通信システムのハードウェアを構成するための要素技術から、インターネットなどのコンピュータネットワーク、さらに、そのネットワーク上で配信・利用されるコンテンツ、アプリケーションまで広がっており、情報通信基盤・情報通信ネットワーク・情報通信コンテンツの3つのグループを構成して相互に連携しながら研究を進めています。

#### [ 情報通信基盤グループ ]

光、テラヘルツ、電波など通信のための物理メディアの利用と応用に関する基礎研究、さらに通信のためのアンテナ、回路、通信環境に関する研究を行っています。安定した高度な通信網を構築する技術開発とともに、将来の通信システムのために未知の物理現象を探求する研究も進めています。

#### [ 情報通信ネットワークグループ ]

インターネットに代表されるコンピュータネットワーク、生活や環境を見守るセンサーネットワーク、さらに人と人を結ぶソーシャルネットワーク、また、ネットワークを基盤として構築されるクラウド環境など、通信基盤によって構築されたネットワークの数理的な研究および応用に関する研究を進めています。大規模化・複雑化するネットワークを効率的かつ安全に利用することを目指しています。

#### [ 情報通信コンテンツグループ ]

通信で伝送するための画像・音声処理技術、さらに通信を利用したコミュニケーションのための3次元画像技術、情報通信を利用した新しいネットワーク応用サービスの研究を進めています。高度な情報通信技術を利用した、新しい情報サービスの可能性を探求しています。

また、上記のグループに拘らず、対外的な活動として、すべての教員は、電子情報通信学会、応用物理学会、情報処理学会、IEEE(米国)、ACM(米国)等情報通信分野で有力な諸学会の機関紙・論文誌・国際会議において数多くの研究発表を行っており、さらに、これらの学会の専門性の高い研究グループでも指導的な役割を果たしています。

## 就職・進路

本学科における電子工学関連の教育は、電気回路、電子回路、電磁気学など、講義と実験のいずれにおいても、電子系学科で必要となる科目で構成されており、幅広く電子機器を扱う製造業で活躍することが期待できます。一方、コンピュータのプログラミング、データベースの構築やルータの設定など、充実した内容の情報関連の演習・実験がカリキュラムに組み込まれており、情報関連分野でも広く活躍することができます。

以上のことから、情報通信システム工学科の卒業後の進路としては、携帯電話などのサービス提供を含む情報通信産業・情報サービス業、インターネットを基盤とするサービスを展開するサービス業、Webアプリケーションやサーバ構築および提供を行う映像・音声・文字情報制作、スマートフォンや携帯情報およびその基地局や放送局の通信システムを開発・製造する情報通信機器製造業など幅広い分野に広がっています。さらに、情報通信技術（ICT）が進展した現在では、自動車・鉄道・航空も、ネットワーク環境下で制御されるために、これらの業種でも、情報通信関連の技術が必須であり、本学科の卒業生が活躍しています。また、地域行政の防災への取り組みから、行政の情報通信関連への期待も高まっており、公務員への道も開かれています。商業活動においても通信ネットワークの活用が不可欠な時代となっており、大手食品会社やコンサルティング会社など直接には情報通信と無関係と思われる企業も、情報通信サービスを行う部門を設け、情報通信関連の学科を卒業した学生を積極的に採用しています。

前述のように、本学科卒業生は所定の科目を修めることで、電気通信主任技術者資格試験の一部科目の受験が免除され、第一級陸上特殊無線技士、第二級・第三級海上特殊無線技士の資格を得ることができます。これらを活用して、通信システムの管理・運営に関する業種へ就職することもできます。

本学科では、学部の4年間を通じて学んだ後に、より専門性の高い技術者・研究者となるために大学院へ進学することを奨励しています。変化の速い情報通信分野では、与えられた知識の修得だけでなく、自分から主体的に既存の技術やシステムの問題や課題を発見し、調査、研究を重ねることでイノベーションをもたらすことができる人材が求められています。これらの能力を身に付ける上で、大学院進学は良い機会となるでしょう。

はじめに

学生生活のしくみ

修学のしくみ

情報通信システム工学科

各学科の取得可能な資格のしくみ

教育職員免許のしくみ

目次へ戻る

### 教養科目における学部指定科目群の履修について

教養科目の「人間・社会・自然の理解」分類は、「国際理解」分類の学びを基礎として、世の中の様々な出来事や考え方、仕組みなどについて幅広く学習する科目が開講されています。その中から工学部（機械電子創成工学科，電気電子工学科，情報通信システム工学科）では，専門科目との繋がりを考慮して1・2年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群1」と3・4年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群2」がそれぞれ設定されていますので，これら科目群から興味・関心のある科目を選択して履修してください。（これ以外の科目も履修は可能ですが，卒業要件にある学部指定科目群1又は2の単位取得要件には含まれないので，注意してください。）

また，2年生後期では「国際理解」分類及び「学部指定科目群1」で学んだ内容を主体的にまとめ，より深い理解や応用の思考力を養うために「総合」分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」が開講されるので，必ずどちらか1科目を履修してください。

[国際理解及び学部指定科目群の履修体系]

「国際理解」分類（1・2年生）		「学部指定科目群1」（1・2年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群1の対象科目（※）
異文化理解	必修	哲学	○
言語と文化1	必修	倫理学	○
言語と文化2	必修	文学と芸術	
		歴史と人間	○
		心理学	
		身体と健康の科学	
		憲法と社会	○
		現代社会論	○
		科学技術史	
		環境科学概論	○

※○の科目から3科目を選択して履修



「総合」分類（2年生後期）

科目名
課題探究セミナー（※）
総合学際科目（※）

※1科目を選択して履修



「国際理解」分類（3・4年生）		「学部指定科目群2」（3・4年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群2の対象科目（※）
グローバル時代の法	（※）	経済学	
国際社会論	（※）	物理の世界と先端技術	○
		物質科学	○
		政治と社会	○
		地球科学	
		生命科学	○

※○の科目から2科目を選択して履修

# 情報通信システム工学科

## 進級資格要件及び卒業資格要件

以下の進級資格要件及び卒業資格要件は、各年次に進級するために満たすべき最低限の条件です。その上の年次への進級及び卒業を保証するものではありません。

そのため、所定の年限（4年間）で卒業するためには、各年次の進級資格要件及び卒業資格要件をよく読み、各年次で計画的に単位を修得する必要があります。

### I. 第2年次進級資格要件

1年以上在学し、第1年次を終了して32単位以上を修得していること。

### II. 第3年次進級資格要件

2年以上在学し、第2年次を終了して64単位以上を修得していること。

（「情報通信工学基礎実験」を修得していること。）

### III. 第4年次進級資格要件

3年以上在学し、第3年次を終了して96単位以上を修得していること。

（「情報通信工学実験1」、「情報通信工学実験2」、「文献輪読」及び「ゼミナール1」を修得していること。）

### IV. 卒業資格要件

4年以上在学し、第4年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：全ての必修科目を含め、124単位以上を修得していること。

2. 教養科目：次の条件を満たし、35単位以上を修得していること。

・コミュニケーションスキル分類：選択科目の中から6単位以上（※）

※必修科目の日本語表現法は含まないので、注意すること。

・国際理解分類：「グローバル時代の法」及び「国際社会論」から、2単位以上

・人間・社会・自然の理解分類：(1) 学部指定科目群1の中から、6単位以上

(2) 学部指定科目群2の中から、4単位以上

・総合分類：「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」から、2単位以上

・教養特別科目分野：1単位以上

3. 専門科目：89単位以上を修得していること。

## 情報通信システム工学科 教育課程表

### 教養科目

科目群	分野	分類	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考			
				必修	選択	1年		2年		3年		4年					
						1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1	1	2										基礎レベル対象の科目			
		英語表現基礎 1	1	2													
		英語理解基礎 2	1		2										中級レベル対象の科目		
		英語表現基礎 2	1		2												
		英語理解基礎 3	1			2										上級レベル対象の科目	
		英語表現基礎 3	1			2											
		英語理解基礎 4	1				2										情報*
		英語表現基礎 4	1				2										
		英語理解 1	1	2										人間力養成			
		英語表現 1	1	2													
		英語理解 2	1		2												
		英語表現 2	1		2												
		英語理解 3	1			2											
		英語表現 3	1			2											
		英語理解 4	1				2										
		英語表現 4	1				2										
		英語理解発展 1	1	2										国際理解			
		英語表現発展 1	1	2													
		英語理解発展 2	1		2												
		英語表現発展 2	1		2												
		英語理解発展 3	1			2											
		英語表現発展 3	1			2											
		英語理解発展 4	1				2										
		英語表現発展 4	1				2										
		資格試験英語 A	1				2							人間・社会・自然の理解			
資格試験英語 B	1				2												
日本語表現法	1		2														
数理・データサイエンス・AI入門	1			2													
AI・プログラミング基礎演習	1			2													
スポーツ科学	2		2														
初年次教育	1		2														
キャリアデザイン 1	1			2													
キャリアデザイン 2	1				2												
キャリアデザイン 3	1						2										
異文化理解	2			2								総合					
言語と文化 1	2			2													
言語と文化 2	2			2													
グローバル時代の法	2							2									
国際社会論	2							2									
哲学	2		2														
倫理学	2		2														
文学と芸術	2		2														
歴史と人間	2		2														
心理学	2		2														
身体と健康の科学	2		2														
憲法と社会	2		2														
政治と社会	2							2									
経済学	2							2									
現代社会論	2		2														
科学技術史	2		2														
環境科学概論	2		2														
生命科学	2							2									
地球科学	2							2									
物理の世界と先端技術	2							2									
物質科学	2							2									
課題探究セミナー	2				2												
総合学際科目	2				2												
教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	1						2					CAP 除外				
	イングリッシュアクティブラーニング 2	1							2				CAP 除外				
	イングリッシュアクティブラーニング 3	1								2			CAP 除外				
	日本語アクティブラーニング	1								2			CAP 除外				
	スポーツアクティブラーニング	2								2			CAP 除外				
	ソーシャルアクティブラーニング	1					2						GPA 除外, CAP 除外				
	国際インターン	1						2					GPA 除外, CAP 除外				
	国内インターン	1						2					GPA 除外, CAP 除外				
	ボランティア	1						2					GPA 除外, CAP 除外				
	キャリアアップラーニング	1						2					GPA 除外, CAP 除外				
	総合科学特論	2								2			CAP 除外				

\* 情報リテラシー

目次へ戻る

はつめい

学生生活センター

修学センター

情報通信システム工学科

各学科で取得可能な資格センター

教育職員免許センター

専門科目

科目群	分野	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考			
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S				
専門科目	専門基礎科目	数学基礎	2		3											
		線形代数基礎	2		2											
		物理学基礎	2		3											
		物理学実験	2			4										
		微分積分	2			3										
		物理学応用	2			2										
		情報通信基礎数学及び演習	3			4										
		線形代数応用		2		2										
		確率統計		2		2										
		微分方程式	2				2									
	専門基幹科目	フレッシュマンセミナー	2		2											
		情報通信応用数学及び演習	3				4									
		電気回路及び演習 1	3			4										
		情報基礎論	2				2									
		電気磁気学及び演習 1	3				4									
		電気回路及び演習 2	3				4									
		プログラミング言語及び演習	3				4									
		計測工学		2			2									
		電気磁気学及び演習 2	3					4								
		情報通信工学基礎実験	2					4								
	専門展開科目	電子回路及び演習 1	3				4									
		電子デバイス		2						2						
		電子回路及び演習 2	3						4							
		文献輪読	2							2						
		プログラミング応用演習	1					2								
		情報理論		2				2								
		アルゴリズムとデータ構造		2				2								
		デジタル回路		2				2								
		情報通信工学実験 1	2							4						
		数値計算工学		2						2						
		通信理論		2						2						
		無線通信工学		2						2						
		電気回路解析学		2						2						
		ソフトウェア工学		2						2						
		コンピュータ工学		2						2						
		情報通信工学実験 2	2								4					
		ゼミナール 1	2								4					
		通信システム工学		2				2								
		光通信工学		2							2					
		データサイエンス		2							2					
電波工学		2							2							
コンピュータネットワーク		2							2							
データベース工学		2							2							
技術者倫理	2									2						
ゼミナール 2	2									4						
システム数理工学		2								2						
電波法		2								2						
卒業研究	5										10		GPA 除外			

はじめに

学生生活について

修学について

情報通信システム工学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について





# 応用化学科

## Department of Applied Chemistry

### 沿革

応用化学科は、既存の化学産業分野の枠組みにとらわれず、激しく変化し続ける高度技術社会のニーズに柔軟に答えられる新しい応用化学分野に対応した次世代型の化学技術者・研究者を養成するために2016年4月に設立されました。

本学科は旧工学部の工業化学科及び生命環境科学科の応用化学コースを母体とする50年以上の歴史のある化学系学科です。本学の長い歴史の中で、工業化学科が1961年4月に工学部第一部に開設され、2003年4月の工学部改組転換によって生命環境科学科の応用化学コースとして存続し、再び独立した応用化学科として新たにスタートしました。この間、技術立国として日本の化学技術を支える技術者の育成教育の一翼を担い、日本はもとより世界で活躍する技術者や研究者を輩出しています。

### ディプロマ・ポリシー

応用化学科では、所定の期間在学し、開講された科目を履修し、所定の単位を取得することによって以下のような資質と能力を身に付けた人材に学士(工学)の学位を授与する。

- (1) 職業生活や社会生活でも必要となる汎用的な技能及び職業人としての望ましい心構えや豊かな人間性と現代社会に関する幅広い知識を習得している。
- (2) 自然科学の基礎知識と実験技術を身に付け、それらを活用することができる。
- (3) 化学に関する基幹的な専門知識と実験技術を身に付け、それらを我々が直面する物質、生命、環境およびエネルギーなどに関する諸課題の解決に対する思考力・判断力・表現力を身に付けている。
- (4) 応用化学分野の課題に対して計画を立てて意欲的に取り組むことができ、得られた成果を論理的に文章にまとめて発表や討議をすることができる。
- (5) 化学技術者として社会に貢献する意識をもち、高い倫理観と安全意識をもって行動できる。また、主体性をもって多様な人々と協調して物事に取り組むことができる。

### カリキュラム・ポリシー

応用化学科では、ディプロマ・ポリシーに定めた能力を持つ人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- (1) 職業人に必要な職業意識や生涯学習力と異文化理解や社会貢献への態度及び人間の文化や社会と自然に関する知識を深める科目群を配当する。
- (2) 化学、物理、生物および数学に関する講義科目と、化学と物理に関する実験科目が「専門基礎科目」に設けられており、応用化学分野の基礎科学として重要となる基礎知識と実験技術を偏りなく身に付けることができる。
- (3) 「専門基幹科目」に有機化学、無機化学、物理化学、分析化学などの科目を配置し、主に1、2年次でそれらの専門的な基盤知識をしっかりと学ぶ。
- (4) 3年次から持続可能な発展を支える化学材料と技術に関する科目を「専門発展科目」に設けて、化学知識・技術の応用について学ぶ。また、2年次前期から3年次前期には、専門科目

と密接に連携した「応用化学実験 1・2・3」を行い、科学的な課題解決に関わる一連の思考力・判断力・表現力を修得する。

- (5) 3年次後期の「ゼミナール」と4年次の「卒業研究」において、研究計画や問題解決のための論理的・創造的思考力、積極的な行動力と判断力、報告書作成・プレゼンテーションでの表現力、など継続的・総合的な学修能力を身に付ける。
- (6) 2年次の「応用化学実験 1・2」において実験とともに安全についても学び3年次前期に「技術者倫理」を配置して研究者・技術者のための倫理観と社会的責任を意識した行動を身に付ける。また、実験・演習を通して主体性をもった多様な人々と協調して学ぶ態度を身に付ける。

## 教育の特徴と学修・教育目標

### (1) 応用化学科の教育の特徴

応用化学科では、高度技術社会のニーズが変化しても色あせることのない学問体系を目指し、専門基礎科目において幅広い自然科学の学問的基礎を偏りがないように確実に学修し、専門基幹科目において化学分野の基幹をなす専門科目を段階的により深く学修した後、それらの知識と技術を応用して応用化学の諸問題を解決するために必要となる専門展開科目を厳選することにより、専門基礎から基幹、さらに展開科目を体系的にかつ確実に学修できるような仕組み作りをしています。応用化学科では、さらに中学校教諭一種免許（理科）および高等学校教諭一種免許（理科）を取得するための教職課程も設けています。また、学科の科目群は技術士（化学）一次試験または各種国家資格などの受験にもスムーズに対応できるように配慮されています。

1年次には4年間の学修の基礎を固めるために、まず、数学、化学、物理学などの専門基礎科目を学び、化学と物理学については基礎的な実験技術も修得します。そして、専門基幹科目の最初のステップとなる「有機化学 1・2」を履修して専門科目を学ぶ下地づくりを行い、後期に「応用化学概論」を履修して応用化学に関する研究の国際的意義を理解し、今後の応用化学に関連した科目の学修意欲の向上をはかります。

2年次では専門基礎科目に「生物学基礎」が加わり、1・2年次で数学、化学、物理学、生物学の基礎を偏りなくしっかりと学ぶことができます。専門基幹科目では1年次からの有機化学と物理化学分野の後続科目である「有機化学 3」と「物理化学 1・2」を体系的に学んでいくとともに、「無機化学 1・2」、「分析化学」、「機器分析学 1」、「量子化学 1」、「化学数学」などの科目が始まり、2年次後期に「応用化学研究法」を配置し、各教員の研究成果を中心に紹介することにより、3年次後期の研究室配属、4年次に行う卒業研究の研究分野や将来の進路を考えるための参考となるようにします。専門展開科目では、講義科目として「有機化学 3」の後続科目である「高分子化学」が始まり、実験科目として「応用化学実験 1・2」がスタートし、講義で学んだ内容について、実験を通して体得することで、理解度をさらに深めることができます。「応用化学実験 1」においては、PCを用いた計算化学実験を行うことによりICTの活用についても学び、それらの実験と並行して、実験を安全に行うために知っておくべき知識や実験操作法についてもしっかりと学ぶことができます。

3年次では2年次の専門基幹科目の「有機化学 3」、「物理化学 3」と「量子化学 1」の後続科目として、それぞれ「生化学」、「化学反応工学」と「量子化学 2」を学び、「技術者倫理」を履修することにより、科学研究者・技術者としての高い倫理観を養成します。化学を応用してできる

材料や技術はプラスチックやセラミックスなど身の周りにある材料から電気・電子、機械、医療、建築などの様々な分野の最先端材料・技術に活かされていますが、専門展開科目では、その中で将来においても重要となるものを厳選して、特にそれらの化学材料や技術が今まで学んできた自然科学の知識や技術を活用していかに開発されるのかを学びます。実験科目としては「応用化学実験3」を履修し、世の中で実際に使用されている有機・無機材料の合成、分析、物性評価や量子化学計算を行い、応用化学に関する専門的な講義科目の理解を深めるとともに、卒業研究で行う実験法の基礎を修得します。3年次の後期には研究室配属を行い、実験・演習を含んだ「ゼミナール」を行うことにより、少人数でのグループワーク、文献調査・講読法、研究計画法、プレゼンテーション技法、卒業研究等で利用する機器分析手法などを学びます。

4年次では学部4年間の集大成として卒業研究に打ち込み、問題解決のための論理的思考能力、計画性、積極性、勤勉性、創造性およびプレゼンテーション能力を総合的に養い、講義科目としては、「エコマテリアル」と「サステナブル資源科学」を学ぶことにより環境と調和した化学材料・技術の重要性を学ぶことができます。また、特に企業における研究開発で重要となる「特許及び情報検索法」や、大学院への進学を望む学生に必要な「統計力学基礎」と「確率統計」を学びます。

## (2) 応用化学科の学修・教育目標

- ・ 高度技術社会およびグローバル社会に適応した応用化学の基盤となる有機化学、無機化学、物理化学等の専門基幹科目の徹底的な教育
- ・ 実験演習に実験操作法を導入し、実験・実習重視と実験・実習を通じた安全意識とリスク管理の養成と高揚
- ・ 高度技術社会およびグローバル社会に適応した研究者・技術者倫理の養成
- ・ 情報処理、量子化学の演習、実験演習においてPCを利用した授業を導入し、情報技術およびICTを積極的に活用した化学分野の教育研究の充実
- ・ きめ細かなゼミナール・卒業論文の指導とそれらによる問題解決能力の養成

## 研究の特徴

化学は、物質の構造と性質を原子や分子のレベルで解明し、物質相互の反応を研究する学問であり、有限な元素が複雑に組み合わせられた生命体も含む膨大な物質世界が対象となります。応用化学は、理学的な純粋化学の研究内容に加えて、化学により集積された知識と技術を活用して人々の生活に役立つ様々な物質を生産し利用する技術の研究開発に重点が置かれています。従って、応用化学は理学と工学から薬学・医学、農学など多岐にわたる学問領域と密接に関連しており、特に原子・分子レベルでの材料設計を必要とするナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エレクトロニクス、新素材、高機能性材料など最先端技術を開発するうえで欠かせないものとなっています。また、深刻化している資源・エネルギー問題および地球温暖化などの環境問題を根本から解決しうる技術を開発することも大きな使命です。このような幅広い分野の要望に応えるために応用化学科では、基礎理論から応用先進技術までをカバーした研究が行われています。具体的には、光電・熱電変換素子などに使用される電子機能性有機・無機材料の開発、リチウムイオン二次電池・燃料電池・太陽電池などの先端電池技術の開発、生体親和性セラミックス・ポリマーを用いたバイオマテリアルの開発、生分解性・バイオマス由来プラスチックの開発、分子をナノレベルで組織的に配列することによる新しい機能の発現、有用な化合物の省資源で効率的な合成プロセスの開発、環境化学分析、創薬の作用機序の解明や星間物質の探索のためのコンピュータを利用した計算化学などの研究を行っています。

## 就職・進路

応用化学科の卒業後の進路としては、修得した基礎から応用までの幅広い化学に関する知識と技術を活用して石油・ガス化学，ソーダ・アンモニア・硫酸工業，プラスチック・繊維・ゴム，パルプ・紙加工，セメント・セラミックス，ガラス・陶磁器，油脂，顔料・塗料，インク・染料，香料，化粧品，食品，建材，農薬・肥料，医薬品・医療機材，電気・電子部品，自動車・航空機などの機械部品，プラント設計，環境分析，環境アセスメントなど広範な分野の企業・研究機関において技術者・研究者として活躍することが期待されています。また，本学科が取得することのできる資格として，中学校教諭一種免許状（理科）・高等学校教諭一種免許状（理科）の教育職員免許状が用意されています。教育職員免許に関しては，第6章「教育職員免許について」を参照してください。

さらに近年では，大学院修了者に対する社会的評価と期待は，化学技術の高度化とともに一層に増大しており，特に研究・開発の仕事に従事したい者にとっては，大学院を修了することが必須の条件と考えて良いでしょう。

はじめに

学生生活について

修学について

応用化学科

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

### 教養科目における学部指定科目群の履修について

教養科目の「人間・社会・自然の理解」分類は、「国際理解」分類の学びを基礎として、世の中の様々な出来事や考え方、仕組みなどについて幅広く学習する科目が開講されています。その中から工学部（機械工学科、先端材料工学科、応用化学科）では、専門科目との繋がりを考慮して1・2年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群1」と3・4年生で選択履修すべき科目「学部指定科目群2」がそれぞれ設定されていますので、これら科目群から興味・関心のある科目を選択して履修してください。（これ以外の科目も履修は可能ですが、卒業要件にある学部指定科目群1又は2の単位取得要件には含まれないので、注意してください。）

また、2年生後期では「国際理解」分類及び「学部指定科目群1」で学んだ内容を主体的にまとめ、より深い理解や応用の思考力を養うために「総合」分類の「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」が開講されるので、必ずどちらか1科目を履修してください。

[国際理解及び学部指定科目群の履修体系]

「国際理解」分類（1・2年生）		「学部指定科目群1」（1・2年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群1の対象科目（※）
異文化理解	必修	哲学	
言語と文化1	必修	倫理学	○
言語と文化2	必修	文学と芸術	○
		歴史と人間	
		心理学	
		身体と健康の科学	○
		憲法と社会	○
		現代社会論	○
		科学技術史	○
		環境科学概論	

※○の科目から3科目を選択して履修



「総合」分類（2年生後期）

科目名
課題探究セミナー（※）
総合学際科目（※）

※1科目を選択して履修



「国際理解」分類（3・4年生）		「学部指定科目群2」（3・4年生）	
科目名	取得区分	科目名	学部指定科目群2の対象科目（※）
グローバル時代の法	（※）	経済学	
国際社会論	（※）	物理の世界と先端技術	
		物質科学	○
		政治と社会	○
		地球科学	○
		生命科学	○

※○の科目から2科目を選択して履修

# 応用化学科

## 進級資格要件及び卒業資格要件

以下の進級資格要件及び卒業資格要件は、各年次に進級するために満たすべき最低限の条件です。その上の年次への進級及び卒業を保証するものではありません。

そのため、所定の年限（4年間）で卒業するためには、各年次の進級資格要件及び卒業資格要件をよく読み、各年次で計画的に単位を修得する必要があります。

### I. 第2年次進級資格要件

1年以上在学し、第1年次を終了して32単位以上を修得していること。

### II. 第3年次進級資格要件

2年以上在学し、第2年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：64単位以上を修得していること。
2. 専門科目：1・2年次開講の必修科目を修得していること。

### III. 第4年次進級資格要件

3年以上在学し、第3年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：96単位以上を修得していること。
2. 専門科目：1・2・3年次開講の必修科目を修得していること。

### IV. 卒業資格要件

4年以上在学し、第4年次を終了して次の要件を満たしていること。

1. 総単位数：全ての必修科目を含め、124単位以上を修得していること。
2. 教養科目：次の条件を満たし、35単位以上を修得していること。
  - ・ コミュニケーションスキル分類：選択科目の中から6単位以上（※）  
※必修科目の日本語表現法は含まないので、注意すること。
  - ・ 国際理解分類：「グローバル時代の法」及び「国際社会論」から、2単位以上
  - ・ 人間・社会・自然の理解分類：(1) 学部指定科目群1の中から、6単位以上  
(2) 学部指定科目群2の中から、4単位以上
  - ・ 総合分類：「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」から、2単位以上
  - ・ 教養特別科目分野：1単位以上
3. 専門科目：89単位以上を修得していること。

## 応用化学科 教育課程表

### 教養科目

科目群	分野	分類	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係			
				必修	選択	1年		2年		3年		4年						
						1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S					
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	英語理解基礎 1	1	2									基礎レベル対象の科目	教 教			
			英語表現基礎 1	1	2													
			英語理解基礎 2	1		2												
			英語表現基礎 2	1		2												
			英語理解基礎 3	1			2											
			英語表現基礎 3	1			2											
			英語理解基礎 4	1				2										
			英語表現基礎 4	1				2										
			英語理解 1	1	2												中級レベル対象の科目	教 教
			英語表現 1	1	2													
			英語理解 2	1		2												
			英語表現 2	1		2												
			英語理解 3	1			2											
			英語表現 3	1			2											
			英語理解 4	1				2										
			英語表現 4	1				2										
			英語理解発展 1	1	2										上級レベル対象の科目	教 教		
			英語表現発展 1	1	2													
			英語理解発展 2	1		2												
			英語表現発展 2	1		2												
	英語理解発展 3	1			2													
	英語表現発展 3	1			2													
	英語理解発展 4	1				2												
	英語表現発展 4	1				2												
	資格試験英語 A	1				2												
	資格試験英語 B	1				2												
	日本語表現法	1		2														
	情報*	数理・データサイエンス・AI 入門	1		2									教				
		AI・プログラミング基礎演習	1			2								教				
	人間力養成	スポーツ科学	2		2									教				
		初年次教育	1		2								GPA 除外, CAP 除外					
		キャリアデザイン 1	1			2							GPA 除外, CAP 除外					
		キャリアデザイン 2	1				2						GPA 除外, CAP 除外					
		キャリアデザイン 3	1						2				GPA 除外, CAP 除外					
	教養科目	国際理解	異文化理解	2		2												
言語と文化 1			2		2													
言語と文化 2			2		2													
グローバル時代の法			2							2								
国際社会論			2							2								
人間・社会・自然の理解		哲学	2		2													
		倫理学	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる				
		文学と芸術	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる				
		歴史と人間	2		2													
		心理学	2		2													
		身体と健康の科学	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる				
		憲法と社会	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる				
		政治と社会	2							2				学部指定科目群 2 に含まれる				
		経済学	2							2								
		現代社会論	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる				
		科学技術史	2		2									学部指定科目群 1 に含まれる				
		環境科学概論	2		2													
		生命科学	2							2				学部指定科目群 2 に含まれる				
		地球科学	2							2				学部指定科目群 2 に含まれる				
		物理の世界と先端技術	2							2								
物質科学		2							2				学部指定科目群 2 に含まれる					
総合		課題探究セミナー	2			2												
		総合学際科目	2			2												
教養特別科目		イングリッシュアクティブラーニング 1	1						2					CAP 除外				
		イングリッシュアクティブラーニング 2	1							2				CAP 除外				
	イングリッシュアクティブラーニング 3	1								2			CAP 除外					
	日本語アクティブラーニング	1								2			CAP 除外					
	スポーツアクティブラーニング	2								2			CAP 除外					
	ソーシャルアクティブラーニング	1				2							GPA 除外, CAP 除外					
	国際インターン	1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	国内インターン	1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	ボランティア	1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	キャリアアップラーニング	1					2						GPA 除外, CAP 除外					
	総合科学特論	2							2				CAP 除外					

\* 情報リテラシー

目次へ戻る

はつめい

学生生活リソース

修学リソース

応用化学科

各学科で取得可能な資格リソース

教育職員免許リソース

専門科目

科目群	分野	授業科目の名称	単位数		週時間数								備考	教職関係				
			必修	選択	1年		2年		3年		4年							
					1S	2S	3S	4S	5S	6S	7S	8S						
専門科目	専門基礎科目	化学基礎		2	3												理	
		物理学基礎		2	3													理
		数学基礎		2	3													
		線形代数基礎		2	2													
		化学実験	2			4												理
		化学応用		2		2												理
		微分積分		2		2												
		線形代数応用		2		2												
		物理学実験	2			4												理
		生物学基礎		2			2											理
		物理学応用		2			2											理
		統計力学基礎		2								2						理
		確率統計		2									2					
	専門基幹科目	有機化学 1		2	2													理
		応用化学概論	2			2												
		有機化学 2		2		2												理
		有機化学 3		2			2											理
		無機化学 1		2			2											理
		物理化学 1		2			2											理
		分析化学		2			2											理
		化学数学		2				2										理
		応用化学研究法		2				2										
		無機化学 2		2				2										
		物理化学 2		2				2										理
		量子化学 1		2				2										理
		機器分析学 1		2				2										
		技術者倫理		2						2								
		環境マネジメント		2						2								
		生化学		2						2								理
		化学反応工学		2						2								
		量子化学 2		2						2								理
		地球環境科学		2							2							理
		機器分析学 2		2							2							
	特許及び情報検索法		2								2							
	専門展開科目	高分子化学		2				2										理
		高分子材料		2						2								
無機合成化学			2						2								理	
結晶科学			2						2									
界面化学			2						2								理	
電気化学			2						2								理	
有機合成化学			2							2								
バイオマテリアル			2							2								
機能性無機材料			2							2								
錯体化学			2							2							理	
エネルギー・環境化学工学			2							2								
分子設計			2							2								
触媒化学			2							2							理	
エコマテリアル			2								2							
サステナブル資源科学			2								2							
応用化学実験 1		2					4											
応用化学実験 2		2						4										
応用化学実験 3	2							4										
ゼミナール	2								4									
卒業研究	5										10		GPA 除外					

はじめて

学生生活10057

修学10057

応用化学科

各学科で取得可能な資格10057

教育職員免許10057

目次へ戻る

カリキュラムツリーと科目毎に付されている科目ナンバ（科目ナンバリングと称する）は、ディプロマ・ポリシーとの関連性や科目間の繋がりが、履修の順次性を示しています。科目ナンバリングは4桁の数字で構成されており、それぞれの数字の意味は右側に記載しているため、参照のうえ、履修計画を立ててください。

### 応用化学科DP/CPとカリキュラムツリー

※その他、関連するDPを番号で表示  
 (注) 卒業要件の内訳は「連結資格要件及び卒業資格要件」を参照

1桁目：カリキュラムツリー上と関連するDP番号	2桁目：教育課程上の区分	3・4桁目：各授業科目固有番号
1. 基礎学力・人間力	教養基礎科目：1 教養共通科目：2 教養特別科目：3	01～

学科学科	学科学科	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件 (注)			
		1S (前期)	2S (後期)	3S (前期)	4S (後期)	5S (前期)	6S (後期)	7S (前期)	8S (後期)												
学科学科	基礎基礎科目	1101 英語理解基礎1	1103 英語理解基礎2	1105 英語理解基礎3	1107 英語理解基礎4	1204-1205 グローバル時代の法・国際社会論															
		1102 英語表現基礎1	1104 英語表現基礎2	1106 英語表現基礎3	1108 英語表現基礎4	1132 キャリアデザイン2⑤	1212-1213-1214-1215 物質科学・政治と社会・地球科学・生命科学														
		1109 英語理解1	1111 英語理解2	1113 英語理解3	1115 英語理解4	1133 キャリアデザイン3⑤															
		1110 英語表現1	1112 英語表現2	1114 英語表現3	1116 英語表現4	1216-1217 課題探究ゼミナー 総合学際科目⑤・⑥															
		1117 英語理解発展1	1119 英語理解発展2	1121 英語理解発展3	1123 英語理解発展4																
		1118 英語表現発展1	1120 英語表現発展2	1122 英語表現発展3	1124 英語表現発展4																
		1127 日本語表現法		1125-1126 資格証履修英語A・B																	
		1128 情報リテラシー	1129 AI・プログラミング理解⑤																		
		1130 初年次教育⑤	1131 キャリアデザイン1⑤																		
		1134 スポーツ科学																			
学科学科	国際理解	1201-1202-1203 異文化理解・言語と文化1・言語と文化2																			
		1205-1207-1208-1209-1210-1211 倫理学・文学と芸術・身体と健康の科学・憲法と社会・現代社会論・科学技術史																			
学科学科	総合																				
学科学科	教養特別科目																				



# 教員研究室一覧

## 教育センター

氏名	職名	建物の名称・階	摘要
相原直美	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第7研究室
池田茉莉	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第5研究室
泉英明	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	数学第2研究室
伊藤剛司	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 6階	数学第9研究室
大貫俊彦	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	人文第3研究室
越智敏之	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第1研究室
笠嶋義夫	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	化学第9研究室
金田晃一	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	体育第3研究室
河田明久	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	人文第2研究室
川西範明	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	体育第4研究室
木島愛	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	フランス語第1研究室
草野滋之	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	社会第5研究室
軍司圭一	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 6階	数学第8研究室
古賀毅	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	社会第3研究室
小林憲司	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第7研究室
小林学	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	社会第2研究室
佐藤憲一	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	社会第1研究室
佐藤和	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	体育第5研究室
菅谷知明	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第2研究室
杉山和成	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 6階	数学第6研究室
鈴木進	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	物理第11研究室
須藤勲	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	ドイツ語第1研究室
筑紫格	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 4階	物理第8研究室
槌本昌信	教授	新習志野キャンパス3号館	化学第1実験研究室
東條晃次	教授	新習志野キャンパス12号館	数学第12研究室
轟木義一	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	物理第10研究室
橋口秀子	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 6階	数学第7研究室
橋本修一	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第6研究室
濱野志保	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第8研究室
半沢洋子	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第8研究室
東山幸司	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 4階	物理第7研究室
引原有輝	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	体育第2研究室
三村尚央	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第5研究室

氏名	職名	建物の名称・階	摘要
武藤 巧	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 4階	物理第2研究室
安武 伸俊	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 4階	物理第4研究室
山内 政樹	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第4研究室
山田 宏文	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	数学第3研究室
吉田 聡	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	人文第5研究室
渡邊 努	教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	物理第12研究室
伊藤 晋平	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第6研究室
蛭子 彰仁	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	数学第1研究室
遠藤 伸太郎	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	体育第1研究室
小野寺 一浩	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	数学第11研究室
尾身 洋典	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第3研究室
木山 隆	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	物理第9研究室
近衛 飛鳥	准教授	新習志野キャンパス12号館	中国語第4研究室
砂井 紫里	准教授	新習志野キャンパス2号館	中国語第1研究室
谷合 哲行	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第1研究室
富山 豊	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	人文第4研究室
福嶋 尚子	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	社会第4研究室
星野 慶介	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 5階	数学第4研究室
中村 達	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 9階	英語第2研究室
野村 由実	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 7階	体育第6研究室
南澤 磨優覽	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 3階	化学第4研究室
柳瀬 宏太	助教	新習志野キャンパス2号館	物理第6研究室
山下 温	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 6階	数学第5研究室
山下 基	准教授	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 4階	物理第1研究室
吉越 裕介	准教授	新習志野キャンパス12号館	化学第10研究室
若山 将征	准教授	新習志野キャンパス2号館	物理第3研究室
市川 洋子	助教	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	社会第6研究室
カーク・ジョンソン	助教	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 2階	外国語共同研究室
角張 健一	助教	新習志野キャンパス12号館	情報第2研究室
重 歩美	助教	新習志野キャンパス2号館	社会第7研究室
高松 佑介	助教	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 8階	ドイツ語第2研究室
時本 一樹	助教	新習志野キャンパス12号館	物理第13研究室
中川 彬雄	助教	新習志野キャンパス2号館(研究棟) 6階	数学第10研究室
仲町 知帆	助教	新習志野キャンパス12号館	スペイン語第1研究室
村上 陽香	助教	新習志野キャンパス2号館	英語第3研究室

お問合せ

学生生活センター

修学センター

教員研究室一覧

各学科の取得可能な資格センター

教育職員免許センター

目次へ戻る

## 機械工学科

氏名	職名	建物の名称・階	部屋番号
熱海 武憲	教授	津田沼キャンパス2号館 10階	0 1 1 0 0 7
鈴木 浩治	教授	津田沼キャンパス2号館 8階	0 1 0 8 0 8
高橋 芳弘	教授	津田沼キャンパス2号館 9階	0 1 0 9 0 6
瀧野 日出雄	教授	津田沼キャンパス2号館 7階	0 1 0 7 0 3
中代 重幸	教授	津田沼キャンパス2号館 5階	0 1 0 5 0 5
仁志 和彦	教授	津田沼キャンパス2号館 10階	0 1 1 0 0 2
原 祥太郎	教授	津田沼キャンパス2号館 4階	0 1 0 4 0 5
加藤 琢真	准教授	津田沼キャンパス2号館 9階	0 1 0 9 0 9
亀谷 雄樹	准教授	津田沼キャンパス2号館 9階	0 1 0 9 1 2
楠山 純平	准教授	津田沼キャンパス2号館 4階	0 1 0 4 0 6
鈴木 尊丸	准教授	津田沼キャンパス2号館 8階	0 1 0 8 1 2
植草 昌彦	助教	津田沼キャンパス2号館 4階	0 1 0 4 1 0
丸山 広樹	助教	津田沼キャンパス2号館 9階	0 1 0 9 0 4
三浦 正義	助教	津田沼キャンパス2号館 7階	0 1 0 7 0 6

## 宇宙・半導体工学科

氏名	職名	建物の名称・階	部屋番号
秋田 剛	教授	津田沼キャンパス2号館 8階	0 1 0 8 0 2
新井 浩志	教授	津田沼キャンパス2号館 10階	0 1 1 0 0 3
小林 正規	教授	津田沼キャンパス4号館 5階	0 4 0 5 0 8
佐藤 宣夫	教授	津田沼キャンパス2号館 14階	0 1 1 4 0 8
菅 洋志	教授	津田沼キャンパス2号館 5階	0 1 0 5 0 9
関 弘和	教授	津田沼キャンパス2号館 11階	0 1 1 1 0 7
趙 孟佑	教授	津田沼キャンパス4号館 5階	0 4 0 5 1 2
手嶋 吉法	教授	津田沼キャンパス2号館 7階	0 1 0 7 0 2
徳永 剛	教授	津田沼キャンパス2号館 8階	0 1 0 8 0 3
平塚 健一	教授	津田沼キャンパス2号館 7階	0 1 0 7 1 1
和田 豊	教授	津田沼キャンパス2号館 8階	0 1 0 8 0 5
中山 昇	准教授	津田沼キャンパス2号館 9階	0 1 0 9 1 1
山内 博	准教授	津田沼キャンパス2号館 6階	0 1 0 6 0 7

## 先端材料工学科

氏名	職名	建物の名称・階	部屋番号
井上 泰志	教授	津田沼キャンパス2号館 5階	0 1 0 5 0 8
内田 史朗	教授	津田沼キャンパス2号館 5階	0 1 0 5 1 1
小澤 俊平	教授	津田沼キャンパス2号館 6階	0 1 0 6 0 2
小山 和也	教授	津田沼キャンパス2号館 6階	0 1 0 6 1 0
齋藤 哲治	教授	津田沼キャンパス2号館 5階	0 1 0 5 0 2
坂本 幸弘	教授	津田沼キャンパス2号館 4階	0 1 0 4 0 3
高橋 伊久磨	教授	津田沼キャンパス2号館 6階	0 1 0 6 0 4
田村 洋介	教授	津田沼キャンパス2号館 8階	0 1 0 8 0 9
寺田 大将	准教授	津田沼キャンパス2号館 7階	0 1 0 7 0 8
永井 崇	准教授	津田沼キャンパス2号館 6階	0 1 0 6 0 9
高松 聖美	助教	津田沼キャンパス2号館 9階	0 1 0 9 0 1

## 電気電子工学科

氏名	職名	建物の名称・階	部屋番号
相知 政司	教授	津田沼キャンパス2号館 13階	0 1 1 3 0 3
小田 昭紀	教授	津田沼キャンパス2号館 12階	0 1 1 2 1 0
魏 秀欽	教授	津田沼キャンパス2号館 13階	0 1 1 3 0 2
熊谷 明哉	教授	津田沼キャンパス2号館 14階	0 1 1 4 1 1
小島 磨	教授	津田沼キャンパス2号館 10階	0 1 1 0 0 9
陶 良	教授	津田沼キャンパス2号館 14階	0 1 1 4 0 5
藤本 靖	教授	津田沼キャンパス2号館 13階	0 1 1 3 1 1
安川 雪子	教授	津田沼キャンパス2号館 14階	0 1 1 4 0 2
山崎 克巳	教授	津田沼キャンパス2号館 13階	0 1 1 3 0 8
脇本 隆之	教授	津田沼キャンパス2号館 12階	0 1 1 2 0 9
安藤 毅	准教授	津田沼キャンパス2号館 12階	0 1 1 2 0 4
小山 勇也	准教授	津田沼キャンパス2号館 14階	0 1 1 4 0 4
林 真一郎	准教授	津田沼キャンパス2号館 12階	0 1 1 2 1 3
松田 忠典	准教授	津田沼キャンパス2号館 12階	0 1 1 2 0 1

はじめに

学生生活のしくみ

修学について

教員研究室一覧

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

## 情報通信システム工学科

氏名	職名	建物の名称・階	部屋番号
長 敬三	教授	津田沼キャンパス2号館 10階	0 1 1 0 0 5
中 静真	教授	津田沼キャンパス2号館 15階	0 1 1 5 1 1
菅 原真司	教授	津田沼キャンパス2号館 15階	0 1 1 5 0 2
枚 田明彦	教授	津田沼キャンパス2号館 15階	0 1 1 5 1 0
藤 原明広	教授	津田沼キャンパス2号館 11階	0 1 1 1 0 9
水 津光司	教授	津田沼キャンパス2号館 13階	0 1 1 3 0 5
清 水邦康	教授	津田沼キャンパス2号館 10階	0 1 1 0 1 1
中 林寛暁	教授	津田沼キャンパス2号館 14階	0 1 1 4 0 9
三 浦元喜	教授	津田沼キャンパス4号館 4階	0 4 0 4 0 5
木 下雅之	准教授	津田沼キャンパス2号館 11階	0 1 1 1 0 2
糸 井清晃	助教	津田沼キャンパス4号館 4階	0 4 0 4 0 6

## 応用化学科

氏名	職名	建物の名称・階	部屋番号
五十嵐 香	教授	津田沼キャンパス1号館 6階	セラミックス科学研究室 0 2 0 6 0 2
柴 田裕史	教授	津田沼キャンパス1号館 3階	界面化学研究室 0 2 0 3 0 8
柴 田充弘	教授	津田沼キャンパス1号館 6階	高分子材料化学研究室 0 2 0 6 0 9
寺 本直純	教授	津田沼キャンパス1号館 5階	ソフトマテリアル化学研究室 0 2 0 5 0 5
橋 本和明	教授	津田沼キャンパス1号館 3階	無機材料化学研究室 0 2 0 3 0 7
松 澤秀則	教授	津田沼キャンパス1号館 5階	理論化学研究室 0 2 0 7 1 0
山 本典史	教授	津田沼キャンパス1号館 6階	計算化学研究室 0 2 0 6 1 1
工 藤翔慈	准教授	津田沼キャンパス1号館 6階	分離化学工学研究室 0 2 0 6 1 3
原 口亮介	准教授	津田沼キャンパス1号館 6階	有機合成化学研究室 0 2 0 6 0 5
松 田泰明	准教授	津田沼キャンパス1号館 7階	固体電気化学研究室 0 2 0 7 0 2
矢 沢勇樹	准教授	津田沼キャンパス1号館 7階	化学システム工学研究室 0 2 0 7 1 1
菅 根海人	助教	津田沼キャンパス1号館 5階	有機材料化学研究室 0 2 0 5 0 4

第5章

各学科で取得可能な資格について

全資格一覧	123
[電気電子工学科]	
電気主任技術者	128
電気工事士	130
[情報通信システム工学科]	
電気通信主任技術者	131
各種特殊無線技士	133

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格・卒業資格  
教育発表・カンファレンス・教育研究

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カリキュラム・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

# 全資格一覧

## 大学卒業後得られる資格

2026年4月現在

資格の種類	摘要	取得可能な学科
測量士補	卒業した者は申請によりその資格が得られる。また、測量士補の資格を有する者は、土地家屋調査士の筆記試験（午前の部）が免除される。	都市環境工学科
測量士	卒業後、1年以上測量に関する実務に従事した場合、申請により資格が得られる。また、測量士の資格を有する者は、土地家屋調査士の筆記試験（午前の部）が免除される。	都市環境工学科
二級建築士 木造建築士	建築士に関する必要な単位を修得して卒業した場合、以下のような制度の適用が受けられる。 ①大学卒業直後から、実務経験を経なくても二級・木造建築士試験が受験可能となる。 ②試験に合格した場合、二級・木造建築士として登録することが可能となる。 ※各学科の『建築士の免許登録要件について』参照	建築学科(卒業した者全員) 都市環境工学科 デザイン科学科
一級建築士	卒業資格の要件を満たせば、以下のような制度の適用が受けられる。 ①大学卒業直後から、実務経験を経なくても一級建築士試験が受験可能となる。 ②試験に合格したうえで、大学卒業後の建築実務の経験が2年以上あれば、一級建築士として登録することが可能となる。 ※建築学科の『建築士の免許登録要件について』参照	建築学科
電気主任技術者 一種・二種・三種	電気主任技術者取得に必要な単位を修得し、卒業後、電気工作物の工事・維持・運用の実務経験により資格が得られる。	電気電子工学科
電気通信主任技術者	電気通信主任技術者取得に必要な単位を修得することにより、国家試験の一部（電気通信システム）が免除される。	情報通信システム工学科
第一級陸上特殊無線技士 第二級・第三級海上特殊無線技士	第一級陸上及び第二級・第三級海上特殊無線技士に必要な単位を修得することにより、申請により資格が得られる。	情報通信システム工学科
毒物劇物取扱責任者	卒業後資格を得ることができる（申請手続きが必要）。	応用化学科

### 在学中又は卒業後申請（実務経験も含む）手続きを行うことで受験資格が得られる資格

※所属学科や履修科目によって異なります。詳しくは問い合わせ先のホームページを確認してください。

資格の種類	問い合わせ先	受験資格	推奨学科
消防設備士 (甲種)	一般財団法人 消防試験研究センター	卒業後受験資格が得られる。	機械工学科他※
危険物取扱者 (甲種)	一般財団法人 消防試験研究センター	卒業後受験資格が得られる。 化学に関する科目（15単位以上）を修得すれば受験資格が得られる。	応用化学科 先端材料工学科他 応用化学科(在学生)
建築設備士	建築技術教育普及センター	卒業後、所定の建築設備に関する実務経験を経たものは受験資格が得られる。	建築学科

目次へ戻る

資格の種類	問い合わせ先・受験資格	推奨学科
建設機械施工管理技士	<p>一般社団法人 日本建設機械施工協会 <a href="https://jcmanet.or.jp/">https://jcmanet.or.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類 [要件：1級1次検定合格後]                      ・ 特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年（注）                      ・ 監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年                      ・ その他の実務経験の場合は5年                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する者に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験2年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上                      ・ 建設機械操作施工の経験6年以上，但し，別途2級1次検定に合格することが必要</p>	<p>機械工学科                      宇宙・半導体工学科                      電気電子工学科                      建築学科                      都市環境工学科</p>
土木施工管理技士	<p>一般財団法人 全国建設研修センター <a href="https://www.jctc.jp/">https://www.jctc.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類                      ・ 1級1次検定合格後，特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年以上（注）                      ・ 1級1次検定合格後，監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年以上                      ・ 1級1次検定合格後，その他の実務経験の場合は5年以上                      ・ 技術士第二次試験（建設部門，上下水道部門等）合格後，実務経験5年（特定実務経験1年を含む場合は3年）以上（注）                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する者に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験3年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上                      ・ 技術士第二次試験（建設部門，上下水道部門等）合格後，実務経験1年以上</p>	<p>建築学科                      都市環境工学科</p>

資格の種類	問い合わせ先・受験資格	推奨学科
電気工事施工管理技士	<p>一般財団法人 建設業振興基金 <a href="https://www.kensetsu-kikin.or.jp/">https://www.kensetsu-kikin.or.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類                      ・ 1級1次検定合格後，特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年以上（注）                      ・ 1級1次検定合格後，監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年以上                      ・ 1級1次検定合格後，その他の実務経験の場合は5年以上                      ・ 第1種電気工事士試験合格後又は免状交付後，実務経験5年（特定実務経験1年を含む場合は3年）以上（注），但し，別途1級1次検定に合格することが必要                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する者に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験3年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上                      ・ 電気工事士試験又は電気主任技術者試験の合格後または免状交付後，実務経験1年以上，但し，別途1級又は2級1次検定に合格することが必要</p>	<p>機械工学科                      宇宙・半導体工学科                      電気電子工学科                      建築学科                      都市環境工学科</p>
電気通信工事施工管理技士	<p>一般財団法人 全国建設研修センター <a href="https://www.ictc.jp/">https://www.ictc.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類【要件：1級1次検定合格後】                      ・ 特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年（注）                      ・ 監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年                      ・ その他の実務経験の場合は5年                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する場合に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験3年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上                      ・ 電気通信主任技術者試験合格後または資格者証交付後，実務経験1年以上，但し，別途1級又は2級1次検定に合格することが必要</p>	<p>機械工学科                      宇宙・半導体工学科                      電気電子工学科                      情報通信システム工学科                      建築学科                      都市環境工学科</p>

はじめて

学生生活105W

修学105W

学部科紹介・進級指導及び卒業指導  
 教育課表・カリキュラムセンター 教育研究室

各学科で取得可能な資格105W

教育職員免許105W

目次へ戻る

資格の種類	問い合わせ先・受験資格	推奨学科
管工事施工管理技士	<p>一般財団法人 全国建設研修センター <a href="https://www.jctc.jp/">https://www.jctc.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類 [要件：1級1次検定合格後]                      ・ 特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年（注）                      ・ 監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年                      ・ その他の実務経験の場合は5年                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する場合に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験3年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上</p>	<p>機械工学科                      宇宙・半導体工学科                      電気電子工学科                      建築学科                      都市環境工学科</p>
建築施工管理技士	<p>一般財団法人 建設業振興基金 <a href="https://www.kensetsu-kikin.or.jp/">https://www.kensetsu-kikin.or.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類                      ・ 1級1次検定合格後，特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年以上（注）                      ・ 1級1次検定合格後，監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年以上                      ・ 1級1次検定合格後，その他の実務経験の場合は5年以上                      ・ 1級建築士試験合格後，実務経験5年（特定実務経験1年を含む場合は3年）以上（注）                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する者に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験3年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上                      ・ 1級建築士試験合格後，実務経験1年以上</p>	<p>機械工学科                      宇宙・半導体工学科                      電気電子工学科                      建築学科                      都市環境工学科</p>

資格の種類	問い合わせ先・受験資格	推奨学科
造園施工管理 技士	<p>一般財団法人 全国建設研修センター <a href="https://www.jctc.jp/">https://www.jctc.jp/</a></p> <p>1級の受験資格：                      ① 1次検定は19歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※1）                      （※1）：実務経験の種類 [要件：1級1次検定合格後]                      ・ 特定実務経験（1年）を含む実務経験の場合は3年（注）                      ・ 監理技術者補佐としての実務経験の場合は1年                      ・ その他の実務経験の場合は5年                      ⇒ 2級2次検定合格後から特定実務経験1年以上を含む3年，その他の実務経験5年の場合も受験資格が得られる。（別途，1級1次検定に合格しておくこと。）</p> <p>（注）特定実務経験とは，請負金額4,500万円（建築一式工事は7,000万円）以上の建設工事において，監理技術者・主任技術者（監理技術者資格者証を有する者に限る）の指導の下，または自ら監理技術者・主任技術者として行った経験</p> <p>2級の受験資格：                      ① 1次検定は17歳以上（当該年度末時点）                      ② 2次検定は1次検定合格後の実務経験による（※2）                      （※2）：実務経験の種類                      ・ 2級1次検定合格後，実務経験3年以上                      ・ 1級1次検定合格後，実務経験1年以上</p>	建築学科 都市環境工学科
半導体製品製 造技能士	<p>厚生労働省  <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/ability_skill/ginoukentei/index.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/ability_skill/ginoukentei/index.html</a></p> <p>1級の受験資格：4年の実務経験または 2級合格後に2年の実務経験による</p> <p>2級の受験資格：卒業後受験資格が得られる</p>	宇宙・半導体工学科

はじめに

学生生活について

修学について

学教科紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課程表・カリキュラムについて  
教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

# 電気電子工学科

## 電気主任技術者免許状申請条件

### ■業務内容

電気主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督にあたる者で、事業用電気事業者は電気主任技術者の選任を義務付けられています。

(電気事業法第 43 条)

### ■免状の種類

電気主任技術者免状には 3 種類があり、保安の監督ができる電気工作物の規模により範囲が定められています。

(電気事業法第 44 条・同法施行規則 56 条)

免状の種類	保安の監督をすることができる範囲
第 1 種電気主任技術者	事業用電気工作物の工事、維持及び運用
第 2 種電気主任技術者	電圧 17 万ボルト未満の事業用電気工作物の工事、維持及び運用
第 3 種電気主任技術者	電圧 5 万ボルト未満の事業用電気工作物（出力 5 キロワット以上の発電所を除く）の工事、維持及び運用

### ■学歴又は資格及び実務経験による免状取得

電気電子工学科在学中に、次の A 表の科目区分ごとに必要単位数以上の単位を修得し卒業後に、B 表の実務経験を有すれば、申請により電気主任技術者免許状が取得できます。

A 表 必要単位数及び授業科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数	備考
1. 理論 (電気・電子工学等の基礎)	17 単位以上	電気磁気学及び演習 1	2	全て修得すること
		電気磁気学及び演習 2	2	
		電気回路及び演習 1	2	
		電気回路及び演習 2	2	
		計測工学	2	
		計測システム工学	2	
		電子回路及び演習 1	2	
		電子回路 2	2	
		デジタル回路	2	
		小計	18	

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数	備考
2. 電力 (発電, 変電, 送電, 配電, 電気材料等)	7 単位以上	発電工学	2	必ず修得すること
		変電工学	2	
		送配電工学	2	
		電気電子材料	2	
		高電圧工学	2	選択科目
		小計	10	
3. 機械 (電気・電子機器, 自動制御, 電気エネルギー利用, 情報 伝達・処理等)	10 単位以上	電磁エネルギー変換工学	2	必ず修得すること
		パワーエレクトロニクス	2	
		制御工学 1	2	6 単位以上修得 すること
		制御工学 2	2	
		電子デバイス 2	2	
		信号処理論	2	
		小計	12	
4. 法規 (電気法規・電気施設管理)	1 単位以上	電気法規	2	必ず修得すること
5. 電気実験・電気実習	6 単位以上	電気電子工学実験 1	2	全て修得すること
		電気電子工学実験 2	2	
		電気電子工学実験 3	2	
		小計	6	
6. 電気・電子機器設計, 製図	2 単位以上	電気機器設計・製図	2	必ず修得すること
計	43 単位以上		50	

注意事項

- 原則として在学中に修得したものに限りませう。
- 単位不足科目の補完については以下のとおりです。
  - 卒業後 3 年以内であれば科目等履修生制度で補充することができるが、各区分ごとに 1 科目のみ。
  - 単位不足科目に相当する試験科目を国家試験の電気主任技術者試験（第一次試験）で補完することも可能。
    - 受験できる科目は以下の表に示す 2 科目までとされ、試験科目は A 表の科目区分の 2. 電力, 3. 機械, 4. 法規に限られている。
 

1 科目の場合	電力／機械／法規 のいずれかのみ
2 科目の場合	電力と法規／機械と法規 の組み合わせのみ
    2. 電力 又は 3. 機械の取得単位数が規定単位数の 2 分の 1 未満の場合は、単位不足者とは扱われず、本制度の対象にならない。
- 各区分ごとの「必要単位数」は省令上の「必要最低限の単位数」であるので、各区分ごとに相当数上まわる単位を修得してください。

B 表 実務経験

免状の種類	実務の経験	
	実務の内容	経験年数
第 1 種電気主任技術者	電圧 5 万ボルト以上の電気工作物の工事，維持又は運用	卒業前の経験年数の 2 分の 1 と卒業後の経験年数との和が 5 年以上
第 2 種電気主任技術者	電圧 1 万ボルト以上の電気工作物の工事，維持又は運用	卒業前の経験年数の 2 分の 1 と卒業後の経験年数との和が 3 年以上
第 3 種電気主任技術者	電圧 500 ボルト以上の電気工作物の工事，維持又は運用	卒業前の経験年数の 2 分の 1 と卒業後の経験年数との和が 1 年以上

**国家試験実施機関**

一般社団法人電気技術者試験センター

URL : <https://www.shiken.or.jp/>

(注) : 電気主任技術者申請用の単位取得証明書は津田沼教務担当で発行します。

通常の単位取得証明書と異なるので，経済産業省の定めた様式「電気主任技術者申請用単位取得証明書」を申し込んでください。

## 電気工事士免許申請条件

- ① 電気理論関係…………… 電気磁気学及び演習 1，電気磁気学及び演習 2  
電気回路及び演習 1，電気回路及び演習 2  
(3 単位以上修得すること。)
- ② 電気計測関係…………… 計測工学，計測システム工学 (2 単位以上修得すること。)
- ③ 電気機器関係…………… 電磁エネルギー変換工学，パワーエレクトロニクス  
(2 単位以上修得すること。)
- ④ 電気材料…………… 電気電子材料 (必ず修得すること。)
- ⑤ 送配電関係…………… 送配電工学 (必ず修得すること。)
- ⑥ 電気機器設計・製図…… 電気機器設計・製図 (必ず修得すること。)
- ⑦ 電気法規…………… 電気法規 (必ず修得すること。)

※ 上記の指定科目を修得すると，第 2 種電気工事士の資格取得の際，学科試験が免除されます。

# 情報通信システム工学科

## 電気通信主任技術者

### 1. 業務の内容

電気通信主任技術者は、電気通信事業者の事業用電気通信設備の工事、維持及び運用に関する事項を監督する業務を行います。電気通信事業者は総務省令で定めるところにより、電気通信主任技術者資格者証の交付を受けている者のうちから、電気通信主任技術者を選任しなければならないことになっています。(電気通信事業法第 45 条)

### 2. 資格の種類

電気通信主任技術者資格者証には、以下の 2 種類があります。  
(電気通信主任技術者規則第 6 条)

資格者証の種類	範囲
伝送交換主任技術者資格者証	電気通信事業の用に供する伝送交換設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用
線路主任技術者資格者証	電気通信事業の用に供する線路設備並びにこれらに附属する設備の工事、維持及び運用

### 3. 国家試験科目の一部免除

情報通信システム工学科在学中に、別表の科目区分ごとに必要以上の単位数を修得して卒業すれば、国家試験の際に試験科目のうち 1 科目（電気通信システム）が免除されます。

### 4. 国家試験実施機関

一般財団法人日本データ通信協会 電気通信国家試験センター  
URL : <https://www.dekyo.or.jp/shiken/>

電気通信システム免除のために必要な科目・単位数

情報通信システム工学科 (2016 年度入学者から適用)

認定基準に定められた 授業科目及び時間		履修する科目及び時間 (○印は必修科目)			単位修得の要件	
授業科目	授業時間数	授業科目	授業時間数	単位数		
基礎専門教育科目	数学	60	○数学基礎 ○微分積分	60 60	2 2	左記科目を履修すること
	物理学	60	○物理学基礎 ○物理学応用	60 30	2 2	
	電磁気学	60	○電気磁気学及び演習 1 ○電気磁気学及び演習 2	60 60	3 3	左記科目のうち 1 科目以上履修すること
	電気回路	60	○電気回路及び演習 1 ○電気回路及び演習 2	60 60	3 3	左記科目のうち 1 科目以上履修すること
	電子回路	60	○電子回路及び演習 1	60	3	左記科目を履修すること
	デジタル回路	30	デジタル回路	30	2	左記科目を履修すること
	情報工学	30	コンピュータ工学 ○プログラミング言語 及び演習	30 60	2 3	左記科目のうち 1 科目以上履修すること
	電気計測	60	計測工学 ○情報通信工学基礎実験	30 60	2 2	左記科目を履修すること
専門教育科目	伝送線路工学	30	電気回路解析学	30	2	左記科目を履修すること
	交換工学	30	コンピュータネットワーク	30	2	
	電気通信システム	30	無線通信工学 通信システム工学	30 30	2 2	左記科目のうち 1 科目以上履修すること

ただし、上記科目については、在学中にすべてを修得することとし、卒業後、聴講により修得した科目は認められません。

# 第一級陸上特殊無線技士，第二級・第三級海上特殊無線技士

## 1. 業務内容

### 第一級陸上特殊無線技士

電気通信事業者・電力会社・放送事業・公共機関などで利用されるマイクロ波の多重無線設備の操作や第二級・第三級陸上特殊無線技士の操作範囲であるタクシー，トラックなどの陸上移動関係の通信を行う無線局の操作に必要な免許

### 第二級海上特殊無線技士

主として，小型船舶（漁船）などに設けられた中短波（10W 以下），VHF（50W 以下）の小無線局の無線装置の操作に必要な免許

### 第三級海上特殊無線技士

沿岸漁業用の小型船舶，モーターボートなどのレジャー船舶に開設した船舶局の操作に必要な免許

## 2. 免許の種類

免許の種類	操作の範囲
第一級陸上特殊無線技士	<ol style="list-style-type: none"> <li>陸上の無線局の空中線電力 500 ワット以下の多重無線設備（多重通信を行うことができる無線設備でテレビジョンとして使用するものを含む。）で 30 メガヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの技術操作</li> <li>前号に掲げる操作以外の操作で第二級陸上特殊無線技士の操作の範囲に属するもの</li> </ol>
第二級海上特殊無線技士	<ol style="list-style-type: none"> <li>船舶に施設する無線設備（船舶地球局及び航空局の無線設備を除く。）並びに海岸局及び船舶のための無線航行局の無線設備で次に掲げるものの国内通信のための通信操作（モールス符号による通信操作を除く。）並びにこれらの無線設備（レーダー及び多重無線設備を除く。）の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作                     <ul style="list-style-type: none"> <li>イ 空中線電力 10 ワット以下の無線設備で 1,606.5 キロヘルツから 4,000 キロヘルツまでの周波数の電波を使用するもの</li> <li>ロ 空中線電力 50 ワット以下の無線設備で 25,010 キロヘルツ以上の周波数の電波を使用するもの</li> </ul> </li> <li>レーダー級海上特殊無線技士の操作の範囲に属する操作</li> </ol>
第三級海上特殊無線技士	<ol style="list-style-type: none"> <li>船舶に施設する空中線電力 5 ワット以下の無線電話（船舶地球局及び航空局の無線電話であるものを除く。）で 25,010 キロヘルツ以上の周波数の電波を使用するものの国内通信のための通信操作及びその無線電話（多重無線設備であるものを除く。）の外部転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作</li> <li>船舶局及び船舶のための無線運航局の空中線電力 5 キロワット以下のレーダーの外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作</li> </ol>

### 3. 免許取得のための要件

情報通信システム工学科在学中に、次表の科目区分ごとに必要な科目を修得したものは、所轄の電気通信管理局において所定の手続きをすることにより資格が得られます。

#### 第一級陸上及び第二級海上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

情報通信システム工学科（2016年入学者から適用）

区分	授業科目名
無線機器学その他無線機器に関する科目	通信システム工学, 無線通信工学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	無線通信工学
電子計測その他無線測定に関する科目	計測工学
電波法規その他電波法令に関する科目	電波法

#### 第三級海上特殊無線技士の資格を取得するために修得すべき科目

情報通信システム工学科（2016年入学者から適用）

区分	授業科目名
無線機器学その他無線機器に関する科目	通信システム工学
電磁波工学その他空中線系及び電波伝搬に関する科目	無線通信工学
電波法規その他電波法令に関する科目	電波法

第一級陸上特殊無線技士、第二級・第三級海上特殊無線技士免状を取得しようとする場合の詳しい手続き方法、必要書類等は「関東総合通信局」にお問い合わせください。

総務省 関東総合通信局 航空海上課

URL : <https://www.soumu.go.jp/soutsu/kanto/index.html>

第 6 章

教育職員免許について

(1) 本学部で取得できる教育職員免許状の種類 .....137

(2) 免許状取得資格及び必要単位 .....137

(3) 教職課程ガイダンス .....142

(4) 教育実習 A・B について .....142

(5) 免許状の交付について .....142

(6) 教職科目履修生制度について .....142

(7) 教職課程「教科及び教科の指導法に関する科目」一覧表 .....143

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格及び卒業資格  
教育課程表・カリキュラム・教育研究

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

目次へ戻る

はじめに

学生生活について

修学について

学部紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育課表・カキコ（L）・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

[目次へ戻る](#)

## 教育職員免許

本学部には、教育職員免許状を取得するための課程（以下「教職課程」という）が設けられています。教育職員免許状を取得するには、卒業所要単位のほかに、教育職員免許法に基づき本学部で定められた「教科及び教職に関する科目」の単位を修得する必要があります。

教職課程を履修しようとする者は、将来教職に就く意思があることを前提とします。

### (1) 本学部で取得できる教育職員免許状の種類

理科……高等学校教諭一種免許状，中学校教諭一種免許状

工業……高等学校教諭一種免許状

(表-1) 本学部で取得できる教育職員免許状の種類

免許状の種類	中学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状	
	理科	工業	理科	工業
機 械 工 学 科				○
宇 宙 ・ 半 導 体 工 学 科				○
先 端 材 料 工 学 科				○
電 気 電 子 工 学 科				○
応 用 化 学 科	○		○	

### (2) 免許状取得資格及び必要単位

免許状を取得しようとする者は、免許状の種類に応じ表-2に掲げる教育職員免許法に定められた基礎資格をそなえ、かつ「教科及び教職に関する科目」について同表に掲げる所定の単位を修得する必要があります。

(表-2) 教育職員免許法に定められた基礎資格と大学における最低修得単位数

免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数		
			教科及び教職に関する科目		
			教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目
中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を有すること		28	27	4
高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を有すること		24	23	12

(表-3) 教育職員免許法に定められた「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低修得単位数

教科	施行規則の科目	一種免許状 修得単位数	
	教科に関する専門的事項	中学校教諭	高等学校教諭
理科	物理学	1 単位以上	1 単位以上
	化学	1 単位以上	1 単位以上
	生物学	1 単位以上	1 単位以上
	地学	1 単位以上	1 単位以上
	物理学実験・化学実験・生物学実験・ 地学実験	} 4 科目すべて 4 単位以上	} 4 科目から 1 単位以上
「物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験」			
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	8 単位以上	4 単位以上
	計	28 単位以上	24 単位以上
工業	工業の関係科目 職業指導	/	1 単位以上 1 単位以上
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		4 単位以上
	計		24 単位以上

はじめに

学生生活について

修学について

学歴科紹介・進級資格要件及び卒業資格要件  
教育発表・カンファレンス・教育研究室

各学科で取得可能な資格について

教育職員免許について

(表－4)「教育の基礎的理解に関する科目等」一覧表

教育の基礎的理解に関する科目等	単位	備考	
教育原理	2	必修	
教職概論	2	必修	
教育行政学	2	必修	
学校経営・連携の理論と実践	2	選択	
教育心理学	2	必修	
特別支援教育論	1	必修	
教育課程論	2	必修	
道德教育の理論と実践	2	必修	中学校免許取得者は必修
総合的な学習(探究)の時間の理論と実践	2	必修	
特別活動論	2	必修	
教育の方法・技術とICT	2	必修	
生徒指導・進路指導論	2	必修	
教育相談	2	必修	
教育実習事前事後指導	1	必修	
教育実習 A	4	必修	中学校免許のみ又は中学と高校の免許取得希望者
教育実習 B	2	必修	高等学校免許のみ取得希望者
教職実践演習(中・高)	2	必修	

(表－5)「大学が独自に設定する科目」一覧表

大学が独自に設定する科目	単位	備考	
介護体験入門	1	必修	中学校免許取得希望者のみ
道德教育の理論と実践	2	選択	高等学校免許状取得希望者

(1) 基礎資格

本学部を卒業した者には学士(工学)の学位が与えられます。従って「学士の学位を有すること」という基礎資格は本学部を卒業することによって充足されます。

なお、免許状を取得するには日本国憲法2単位を修得する必要があります。本学部にあつては教養科目の「憲法と社会」を修得することになります。

また、体育2単位(スポーツ科学)、外国語コミュニケーション2単位(英語理解基礎1、英語表現基礎1、英語理解1、英語表現1、英語理解発展1、英語表現発展1の中から2科目選択)及び数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作2単位(初年次教育および数理・データサイエンス・AI入門)も必ず修得してください。

(2)「教科及び教科の指導法に関する科目」及び修得単位数

教育職員免許法に定められた「理科」・「工業」の「教科及び教科の指導法に関する科目」の最低修得単位数は、表－3のとおりですが、本学部では教員としての資質を高め、教員になった場合に当該教科を担当できる能力を十分に発揮できるように、最低基準よりも多くの修得科目を課してい



計 59 単位以上を修得することにより、高等学校教諭一種免許状「工業」の取得に最低限必要な単位を満たすこととなります。(表-4 および表-6-2 参照)

(4-4) 電気電子工学科

教育職員免許法で定められた表-2 および表-3 の最低修得単位数に基づいて電気電子工学科では、工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目 28 単位と「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目 26 単位を修得することに加えて、「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」の選択科目からさらに 5 単位以上を履修して、合計 59 単位以上を修得することにより、高等学校教諭一種免許状「工業」の取得に最低限必要な単位を満たすこととなります。(表-4 および表-6-2 参照)

(4-5) 応用化学科

教育職員免許法で定められた表-2 および表-3 の最低修得単位数に基づいて応用化学科では、理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の必修科目 42 単位と「教育の基礎的理解に関する科目等」の必修科目 26 単位を修得することにより、高等学校教諭一種免許状「理科」の取得に必要な合計 59 単位以上を満たすこととなります。ただし、高等学校教諭を目指すのであれば、「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」の選択科目も積極的に受講することが望まれます。(表-4 および表-6-1 参照)

(5) 中学校教諭一種免許状「理科」の取得について

「理科」の教員免許を取得するためには、表-6-1 に示した「教科及び教科の指導法に関する科目」の中から必修科目 42 単位修得するほか、表-4 の「教育の基礎的理解に関する科目等」及び表-5 の「大学が独自に設定する科目」の中から必修科目 31 単位以上修得することにより、中学校教諭一種免許状「理科」の取得に必要な 59 単位以上を満たすこととなります。中学校教諭を目指すのであれば、さらに「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」の選択科目も積極的に受講することが望まれます。

また、「介護等体験特例法」に基づき介護等体験が要件となります。ただし本学では、「介護体験入門」を受講し単位を修得した者でなければ、介護等体験（実習）に参加できません。(表-5 参照)

【介護等体験特例法】

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（1998 年 4 月 1 日から施行）により、中学校の免許状を取得しようとする場合、介護等体験 7 日間（社会福祉施設 5 日、特別支援学校 2 日）が必要です。介護等体験（実習）を実施し、その証明書（実習の施設が発行）がなければ、中学校の教員免許状授与申請ができません。

### 【3】教職課程ガイダンス

教職課程の受講については、年度初めの授業開始前に行われる「教職ガイダンス」において、受講要領、単位の修得方法、受講手続などについて説明があるので、教職課程の受講を希望する者はCITポータルに掲示に注意し、必ず出席しなければなりません。

#### (1) 受講手続

4月中旬までに、教学センターに教職課程受講手続の申請を行わなければなりません。

#### (2) 受講手続料

受講手続と同時に、教職課程の受講手続料：10,000円を教学センターに納めなければなりません。

### 【4】教育実習 A・B について

#### (1) 中学校教諭一種免許状のみ、または中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状の取得を希望する場合

教育実習 A を履修し、単位を修得します。教育実習 A では、4年次に中学校（又は高等学校）において行われている教育活動に3週間以上にわたって実習生として関わることとなります。

#### (2) 高等学校教諭一種免許状のみの取得を希望する場合

教育実習 B を履修し、単位を修得します。教育実習 B では、4年次に高等学校（又は中学校）において行われている教育活動に2週間以上にわたって実習生として関わることとなります。

なお、教育実習 A・B については、事前に説明会を行うので、CITポータルに掲示に注意してください。

### 【5】免許状の交付について

4年生で、卒業見込みがあり、かつ、免許状の取得見込みのある者に対して、9月下旬頃一括申請手続について通知します。一括申請は、千葉県教育委員会の業務の一部を本学が代行している制度ですから、希望者は所定の用紙に不備のないように記入し、指定期日までに提出しなければなりません。

なお、書類不備や期限外のものについては、本学では受け付けないので、卒業後各自で教育委員会に個人申請をしてください。

### 【6】教職科目履修生制度について

教職課程の教職科目履修は、本学に在籍する学生以外に次の者に対し認めます。①教育職員免許状の取得を目的とする本学の卒業生、②他大学において教職課程を履修し、あと僅かの単位で教育職員免許状の申請ができる者（ただし、実験・実習・教職実践演習の受講は認めません）。これらの教職科目を受講する履修生を「教職科目履修生」といいます。

「教職科目履修生」を希望する者は、事前に、教職課程担当教員による面接を受けて、履修指導を受けなければなりません。また、「教職科目履修生」として認められても、履修生としてふさわしくないふるまいがあった場合、履修期間中であっても履修を取り消す場合があります。

## 〔7〕 教職課程「教科及び教科の指導法に関する科目」一覧表

〔表-6-1〕「理科」の「教科及び教科の指導法に関する科目」一覧表

(学科の教育課程表に「理」の印がついている科目)

教科名	本学において開講している科目			
	応用化学科			
	教育職員免許法施行規則に定める科目	中学校	教育職員免許法施行規則に定める科目	高等学校
理	物理学	物理学基礎 ②	物理学	物理学基礎 ②
		物理学応用 ②		物理学応用 ②
		統計力学基礎 2		統計力学基礎 2
		電磁気学 ②		電磁気学 ②
	化学	化学基礎 ②	化学	化学基礎 ②
		有機化学 1 ②		有機化学 1 ②
		化学応用 ②		化学応用 ②
		有機化学 2 2		有機化学 2 2
		化学数学 ②		化学数学 ②
		有機化学 3 2		有機化学 3 2
無機化学 1 ②		無機化学 1 ②		
物理化学 1 2		物理化学 1 ②		
分析化学 ②		分析化学 ②		
物理化学 2 2		物理化学 2 2		
量子化学 1 2		量子化学 1 2		
高分子化学 2		高分子化学 ②		
量子化学 2 2		量子化学 2 2		
無機合成化学 2		無機合成化学 2		
界面化学 2		界面化学 2		
電気化学 ②		電気化学 ②		
触媒化学 2	触媒化学 2			
錯体化学 2	錯体化学 2			
生物学	生物学基礎 ②	生物学	生物学基礎 ②	
	生化学 2		生化学 2	
	生命科学 ②		生命科学 ②	
地学	地球科学 ②	地学	地球科学 ②	
	地球環境科学 ②		地球環境科学 ②	
	宇宙科学 2		宇宙科学 2	
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験 ②	「物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験」	物理学実験 ②	
	化学実験 ②		化学実験 ②	
	生物学実験 ①		生物学実験 ①	
	地学実験 ①		地学実験 ①	
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	理科教育法 1 ②	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	理科教育法 1 ②	
	理科教育法 2 ②		理科教育法 2 ②	
	理科教育法 3 ②		理科教育法 3 2	
	理科教育法 4 ②		理科教育法 4 2	
計	70	計	70	

(注意) 1. ○の中の数字は教員免許状取得のための必修科目の単位数です。  
2. 電磁気学, 生物学実験, 宇宙科学, 地学実験, 理科教育法 1～4 は, 卒業・進級の要件に算入されません。

(表-6-2) 「工業」の「教科及び教科の指導法に関する科目」一覧表  
(学科の教育課程表に「工」の印がついている科目)

教科名	教育職員免許法 施行規則に 定める科目	本学において開講している科目			
		機械工学科	宇宙・半導体工学科	先端材料工学科	電気電子工学科
工 業 の 関 係 科 目	工業数学	②	デジタルものづくり 2	基礎材料工学 ②	電気磁気学及び演習 1 ②
	工業力学	②	力学 ②	材料物理学 ②	電気磁気学及び演習 2 ②
	基礎材料力学	②	電磁気学 ②	エネルギー工学概論 ②	電気回路及び演習 1 ②
	基礎機械設計	②	材料力学 ②	材料組織学 ②	電気回路及び演習 2 ②
	基礎機械製図	②	電気回路 ②	固体物理学 ②	電子デバイス及び演習 1 ②
	基礎機械力学	②	機械設計製図学 ②	材料熱化学 ②	電子回路及び演習 1 ②
	生産加工学	②	材料加工 2	材料電気化学 ②	電子物性 ②
	材料力学	②	工業熱力学 2	材料力学及び演習 ②	電気電子工学実験 1 ②
	機械力学	2	アナログ回路 ②	構造材料 1 ②	電気電子工学実験 2 ②
	熱力学	②	デジタル回路 ②	技術者倫理 ②	電気電子工学実験 3 ②
	応用熱力学	2	プログラミング言語 ②	塑性加工学 2	計測工学 2
	流れ学	②	組込みシステム 2	表面工学 2	電気回路解析学 2
	応用流れ学	2	システム制御理論 ②	材料化学プロセス工学 1 2	電子デバイス 2
	機械設計	②	機械力学 2	融体成形工学 2	電気音響工学 2
	機械製図	②	情報通信工学 2	粉体材料工学 2	プラズマエレクトロニクス 2
	CAD 演習	②	システム制御工学 ②	材料強度学 1 2	電磁エネルギー変換工学 2
	応用機械設計製図	②	計測工学 ②	構造材料 2 2	パワーエレクトロニクス 2
	工作機械	2	工学概論 ②	半導体材料 2	発電工学 2
	機械工学実験 1	②		磁性材料 2	高電圧工学 2
	機械工学実験 2	②		リサイクル工学 2	電気電子材料 2
工学概論	②		工学概論 ②	工学概論 ②	
職業指導	職業指導 1 ②	職業指導 1 ②	職業指導 1 ②	職業指導 1 ②	
各教科の指導法 (情報機器及び 教材の活用を 含む。)	工業科教育法 1 ②	工業科教育法 1 ②	工業科教育法 1 ②	工業科教育法 1 ②	
	工業科教育法 2 ②	工業科教育法 2 ②	工業科教育法 2 ②	工業科教育法 2 ②	
計		48	42	48	48

(注意) 1. ○の中の数字は教員免許状取得のための必修科目の単位数です。  
2. 工学概論、職業指導 1、工業科教育法 1・2 は、卒業・進級の要件に算入されません。

第7章

## 施設の利用について

---

学生自由工作室利用の手引き	147
工作センター利用の手引き	149
図書館について	151

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

# 学生自由工作室利用の手引き

## 1. 利用目的と施設の概要

学生自由工作室は、工作を通じた個人の自由な創作活動の支援と、授業における実習の場を提供することを目的に設置された施設です。新習志野キャンパス 12 号館の 4 階にあり、課題の製作や製図、自由な工作などに利用できます。

## 2. 利用時間

### 開室時間

月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00

- ・作業は 16:40 までに終わらせてください。
- ・長期休業期間中の開室時間は、大学ホームページでお知らせします。
- ・講義や講習会、機器類の点検を行う場合は利用できません。
- ・土曜日・休日（祝日含む）は、閉館です。
- ・利用可能な日・時間については、本学のホームページ及び学生自由工作室掲示板に掲示します。

本学ホームページ 学生自由工作室について

URL : <https://chibatech.jp/about/craft/>

## 3. 利用登録

- ・利用者（入室者）は、学生自由工作室にて開催する「初級安全講習会」又は「中級安全講習会」を受講した学生のみとします。
- ・利用者は利用の際、講習会修了シールを貼った学生証を持参のうえ、学生自由工作室内のパソコンにて利用登録をしてください（授業の場合を除く）。
- ・《大型プリンター》  
大型プリンターは、誰でも利用できます（利用登録は不要です）。  
大型プリンター使用は有料です。利用者の記載項目等がありますので、利用の前に必ず受付を行ってください。  
利用には学生証が必要です。受付時間の最終は閉室時間の 1 時間前です。

## 4. 材料、部品類の使用について

- ・材料は、利用者が用意し持ち込んでください。学生自由工作室にある材料は使用禁止です。  
工具及び備品は、室外持出禁止です（ネジ・ナット除く）。

## 5. 講習会

- ・初級安全講習会（90 分～120 分）  
安全の基礎知識と基本的マナー及び工作するための心得を学習し、工作室内で使用する手動工具・電動工具の安全な取扱い方を学びます。初級安全講習会を修了すると、ボール盤、電動工具、熱線カッター、ドラフター等を使って作業することができます。
- ・中級安全講習会（150 分～180 分）  
初級安全講習会修了者が対象で、且つ、ノギスで計測できることを条件とします。

加工の必要性がある場合を優先とします。

講習会修了後、3ヶ月間加工実績がない場合は、安全のため、再講習が必要です。

工作機械（旋盤・フライス盤）の操作と安全を、実習を通して学習します。中級安全講習会を修了すると、旋盤・フライス盤を含む加工機、工具を使って作業することができます。

- ・講習は随時受け付けています。12号館4階「学生自由工作室」でご相談ください。

## 6. 注意事項

工作室利用者は、事故を未然に防ぎ、利用しやすい環境を維持するために学生資料室－各種申請書・マニュアル－授業・教職・学位申請に掲載されている「学生自由工作室利用の手引き」を熟読し、次に掲げる安全の基本的マナーを守って作業にあたってください。また、利用規則を守り、技術員の指示に従ってください。

### 《安全の基本的マナー》

#### ○室内のルール

- ・作業スペースに不要なものは置かない。
- ・室内は走らない。
- ・手はポケットから出して歩く。
- ・傘を室内に持ち込まない。
- ・室内でのイヤホンの使用は厳禁とする。

#### ○服装など

- ・作業しやすい服装を心がけること。（作業着を着用することが望ましい）
- ・靴をしっかり履くこと。（サンダル、スリッパなどは禁止）
- ・軍手、白衣は使用しないこと。
- ・保護メガネを着用すること。

#### ○作業中

- ・受付のパソコンで、使用登録をすること。
- ・機械の操作は必ず一人で行うこと。
- ・機械の操作中はその場を離れないこと。
- ・機械の故障やケガ等は、その程度に関わらず必ず職員に報告すること。
- ・そのほか機械の使い方等でわからないことは、必ず職員に聞くこと。

#### ○作業後

- ・使用した機械および周囲の清掃を必ず行うこと。
- ・受付のパソコンで、終了登録をすること。

以上、安全に留意し事故、ケガのないよう作業にあたってください。

問合せ先 新習志野教務担当 学生自由工作室 TEL 047 - 454 - 9750

# 工作センター利用の手引き

## (津田沼キャンパス)

### 1. 利用目的と施設の概要

工作センターは津田沼キャンパス 4 号館の地下 1 階にあり、本学の全ての学生、教職員が実験装置や試験片、造形作品などの製作に利用できます。施設には色々な特徴のある多数の工作機械を揃えています。

工作センターの主な業務は、以下の通りです。

- ・ 学生に対する加工技術の基礎教育
- ・ 学生、教職員に対する工作機械共同利用への提供
- ・ 教育・研究用装置・試験材料などの受託加工

工作機械を利用するときは安全講習を受講してください。安全講習修了者は、職員の指導のもと工作機械での作業が可能になります。

難しい加工や高精度のもの、数が多いものなどは受託加工により技術職員が製作をお手伝いします。加工の相談は随時受け付けています。

### 2. 開室時間

平日：9：00～12：00、13：00～17：00

土曜日：9：00～12：00

※日曜・祝日は休み（休日授業実施日は除く。）

実習中は機械の使用はできません。また夏期休業期間など開室時間が変更になる場合があります。工作センター前の掲示板か本学のホームページでスケジュールを確認してください。

### 3. 安全講習

安全講習は新習志野キャンパスの学生自由工作室と同じ内容で実施します。

どちらで受講しても、学生自由工作室・工作センター相互で講習内容に応じた作業をすることが可能となります。

安全講習会の申し込みは随時受け付けています。

状況に合わせて安全講習会の日時を設定いたしますので工作センターにご相談ください。

#### 4. 注意事項

##### ○服装など

- ・作業しやすい服装を心がけること。(作業着を着用することが望ましい)
- ・靴をしっかり履くこと。(サンダル, スリッパなどは禁止)
- ・軍手, 白衣は使用しないこと。
- ・保護メガネを着用すること。

##### ○作業中

- ・受付のパソコンで, 使用登録をすること。
- ・機械の操作は必ず一人で行うこと。
- ・機械の操作中はその場を離れないこと。
- ・機械の故障やケガ等は, その程度に関わらず必ず職員に報告すること。
- ・そのほか機械の使い方等でわからないことは, 必ず職員に聞くこと。

##### ○作業後

- ・使用した機械および周囲の清掃を必ず行うこと。
- ・受付のパソコンで, 終了登録をすること。

以上, 安全に留意し事故, ケガのないよう作業にあたってください。

## 図書館について

### 1. 図書館の概要

図書館は新習志野キャンパス（新習志野図書館）と津田沼キャンパス（津田沼図書館）にあります。新習志野図書館には、主に1, 2年生用の学習図書・資料を、津田沼図書館には、主に3, 4年生、大学院生用の学習図書・資料を所蔵しています。

また、通常の閲覧席に加えて新習志野図書館2階、津田沼図書館3・4階には、人数に合わせて机や椅子を自由に動かしてグループで学習できるラーニング・commons、仕切りを設けてさらに集中して学べるワークショップスペースを設けています。

### 2. 開館時間

月曜日～金曜日 9:00～19:00

土曜日 9:00～12:00

ただし、夏期及び春期休業中は開館時間が変更になります。

### 3. 休館日

日曜日、祝日、津田沼祭、夏期及び春期休業中の一定期間。

臨時に休館する日もあるので、図書館ホームページや館内掲示等により確認してください。

### 4. 館外貸出

学部1～3年生 30冊2週間

学部4年生 30冊1カ月

大学院生 30冊1カ月

図書館の資料を借りたい場合は、学生証を添えてカウンターで申し込んでください。夏期及び春期休業中は長期貸出を行います。貸出期間は図書館ホームページや館内掲示等によりお知らせします。

### 5. 利用者サービス

- ・ 図書館の資料・機能を十分に活用してもらえよう図書館スタッフがサポートします。利用したい資料が見つからないとき、探し方がわからないときなどは気軽にお尋ねください。
- ・ 定期的に図書館利用ガイダンスを実施しているのでぜひご利用ください。
- ・ 主要全国紙を配架しています。
- ・ 図書館内では、無線LANが使用可能です。
- ・ 図書館所蔵の視聴覚資料は、館内で利用することができます。
- ・ 図書館ホームページに、電子ジャーナルや電子ブック、データベースを用意しています。

図書館ホームページ

URL : <https://chibatech.jp/about/library/>

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

第 8 章

就職について

(1) 就職委員会	155
(2) 就職・進路支援部の取扱事項	155
(3) 就職に関する情報	155
(4) 就職の支援	155
(5) アルバイト	156

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

## 就職について

### 〔1〕 就職委員会

卒業後それぞれの希望する進路につけるかどうかは、一生を左右する非常に大切なことです。このため、本学では、就職委員会、各学科及び就職・進路支援部が緊密に連絡を取り合っており、企業の求人の動向の調査や、各種の資料収集などを行い、学生にとってよりよい就職ができるように指導と支援を行っています。

### 〔2〕 就職・進路支援部の取扱事項

就職・進路支援部では、次のような事項を取り扱っています。

- ① 就職に関する相談
- ② 就職に関する各学科との連絡調整
- ③ 就職先の開拓と情報公開
- ④ 就職に関する調査や統計資料の作成
- ⑤ インターンシップに関すること
- ⑥ アルバイトの情報提供
- ⑦ その他学生の進路に関すること

### 〔3〕 就職に関する情報

就職・進路支援部（津田沼キャンパス 1号館 2階）では、長年にわたって蓄積された就職関連のデータを公開しています。日本経済新聞や就職関連の資料などの情報誌、地域の各種団体から送付された地方企業情報冊子など、就職活動に役立つ資料を豊富に揃えています。また、就職システムでは、求人情報や就職のための支援講座やイベントの案内をしていますので、活用してください。

### 〔4〕 就職の支援

就職活動は、大学入学時から将来のキャリアをどのように描き、どう実現するかを考えることが重要です。本学では、1年次後期に「キャリアデザイン1」、2年次前期に「キャリアデザイン2」、3年次には「キャリアデザイン3」を設け、段階的にキャリア形成の考え方や具体的な行動計画を学べるようにしています。

希望する業種・職種に就くためには、企業や業界の研究、必要なスキルの把握、インターンシップの活用など、早期からの準備が不可欠です。求人数は理系分野で多い傾向にありますが、企業は「優秀な人材」を厳選して採用する方針を強めており、研究内容・プログラミングスキル・課題解決力・コミュニケーション能力など、具体的な能力や経験を重視する傾向が強まっています。理系だからといって安心できる状況ではありません。

また、就職活動は「自分自身のキャリアをどう築くか」を考える重要な機会です。自分の研究テーマや価値観、将来のビジョンに合った企業を選ぶ等の、自分自身の軸を明確にすることが求められます。

こうした背景を踏まえ、就職活動においては、自己分析・業界研究・企業研究を早期に行い、書類作成・面接対策・ポートフォリオ作成などを計画的に進めることが重要です。安易な考えを捨て、戦略的に行動することが必要です。

3年次前期・後期では進路ガイダンスが実施され、就職活動のスケジュールや、必要な準備について具体的な説明があります。ガイダンス後は、書類作成、Webテスト対策、模擬面接などの支援も行われるため、積極的に参加してください。

企業の紹介は就職・進路支援部でも行っていますが、各学科と関係の深い企業については、学科の就職担当教員や卒業研究の指導教員が情報を持っている場合も有ります。希望する業界や企業については、日頃からこれらの教員と相談し、連携を取ることが大切です。

なお、就職を取り巻く環境は年々変化しています。詳細については学部3年生および大学院1年生向けの進路ガイダンスで説明しますので、必ず出席してください。

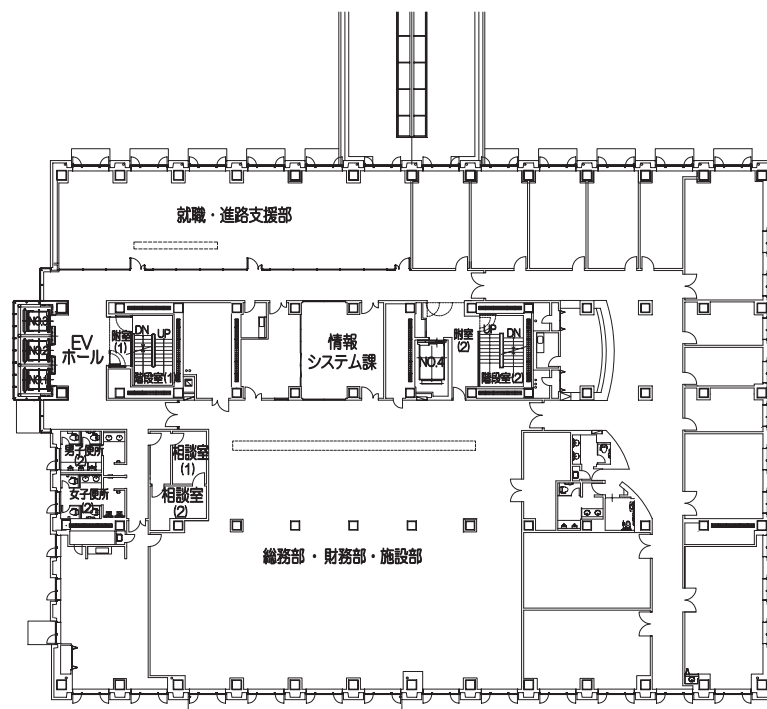
なお、進路（就職・進学・その他）が決定した場合は、選考内容や後輩へのアドバイスを就職システムの「進路報告登録」に登録をお願いします。後輩への有益な資料になるため、ご協力をお願い致します。

## (5) アルバイト

アルバイトを希望する学生は、就職・進路支援部ホームページの「アルバイト検索システム」を利用の上、応募したい企業へ、直接申し込んでください。

### 就職・進路支援部の場所（津田沼キャンパス）

1号館2階



第9章

諸規程について

(1) 学則	159
(2) 履修規程	170
(3) 学生納付金納入細則	175

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

# (1) 学則

## 第1章 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 本学は、その教育・研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

## 第2章 組織

(学部)

第2条 本学に工学部、創造工学部、先進工学部、情報変革科学部及び未来変革科学部を置く。

2 前項の学部に置く学科並びにその入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学科		入学定員	収容定員
工学部	機械工学科	140名	560名
	宇宙・半導体工学科	140名	560名
	先端材料工学科	100名	400名
	電気電子工学科	140名	560名
	情報通信システム工学科	110名	440名
	応用化学科	100名	400名
	小計	730名	2,920名
創造工学部	建築学科	140名	560名
	都市環境工学科	110名	440名
	デザイン科学科	120名	480名
	小計	370名	1,480名
先進工学部	未来ロボティクス学科	120名	480名
	生命科学科	100名	400名
	知能メディア工学科	110名	440名
	小計	330名	1,320名
情報変革科学部	情報工学科	120名	480名
	認知情報科学科	120名	480名
	高度応用情報科学科	120名	480名
	小計	360名	1,440名

学科		入学定員	収容定員
未来変革 科学部	デジタル変革科学科	100名	400名
	経営デザイン科学科	100名	400名
	小計	200名	800名
合計		1,990名	7,960名

(学部の教育・研究上の目的)

- 第2条の2 工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、専門知識を応用する工学分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
- 2 創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
- 3 先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
- 4 情報変革科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報社会の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。
- 5 未来変革科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、経営活動の変革に対応して世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

(大学院)

- 第3条 本学に大学院を置く。
- 2 大学院の学則は別に定める。

(附属図書館)

- 第4条 本学に附属図書館を置く。
- 2 附属図書館に関する事項は別に定める。

(研究所)

- 第4条の2 本学に次の研究機関を置く。
- (1) 附属研究所
  - (2) 未来ロボット技術研究センター
  - (3) 惑星探査研究センター
  - (4) 人工知能・ソフトウェア技術研究センター
  - (5) 次世代海洋資源研究センター
  - (6) 地球学研究センター
  - (7) 数理工学研究センター
  - (8) 変革センター
  - (9) 天文学研究センター

(10) AGI 研究センター

2 研究機関に関する事項は別に定める。

(施設)

第4条の3 本学に次の施設を置く。

(1) 学生寮

(2) 軽井沢研修センター

(3) 御宿研修センター

2 前項の各号に関する必要な事項は別に定める。

(事務局)

第5条 本学に事務局を置く。

2 事務局に関する必要な事項は別に定める。

### 第3章 職員組織

(学長)

第6条 本学に学長を置く。

2 学長は、校務をつかさどり、所属教育職員を統督する。

3 必要があるときは副学長を置くことができる。

4 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第6条の2 学部に学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する学務をつかさどる。

3 学部長に関する事項は別に定める。

(職員)

第7条 本学に教育職員及び一般職員を置く。

2 教育職員として、教授、准教授、助教及び助手を置く。

(1) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(2) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(3) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

(4) 助手は、その所属する組織における教育・研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

3 一般職員として、事務職員、技術職員、労務職員及びその他必要な職員を置く。

4 職員に関する規則は別に定める。

### 第4章 学部長会及び教授会

(学部長会)

第8条 本学に、大学の教育・運営に関する重要事項を協議及び審議するため学部長会を置く。

2 学部長会は、学長が招集し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 教育・研究に関する基本方針等，その運営における全学的な事項
- (2) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
- (3) その他，本学の教育・研究の運営に必要と認められる事項

3 学部長会に関する規則は，別に定める。

(教授会)

第8条の2 学部に教授会を置く。

- 2 教授会は，学部の専任教授をもって組織する。
- 3 教授会は，学部長が招集し議長となる。
- 4 学部長は，必要あると認めた場合に，教授会の承認を得て教授会に准教授，助教及びその他の職員を参加させることができる。
- 5 教授会は，学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
  - (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
  - (2) 学位の授与に関する事項
  - (3) 前二号に掲げるもののほか，教育・研究に関する重要な事項で，教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は，前項に規定するもののほか，学長及び学部長がつかさどる教育・研究に関する事項について審議し，及び学長又は学部長の求めに応じ，意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営に関する規則は別に定める。

第8条の3 学部に共通する事項について意見を聴くため，学長は，必要により合同教授会を招集することができる。

- 2 合同教授会は，次に掲げる事項について学長に意見を述べるものとする。
  - (1) 学則の改正に関する事項
  - (2) 前号に掲げるもののほか，教育・研究に関する重要な事項で，合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 合同教授会に関する規則は，別に定める。

## 第5章 学年，学期及び休業日

(学年)

第9条 学年は，4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2学期に分ける。

- (1) 前期 4月1日から9月17日まで
- (2) 後期 9月18日から翌年3月31日まで

2 必要がある場合は，学長は学部長会の意見を聴いて前項の期間を変更することができる。

(休業日)

第11条 休業日は，次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 開学記念日 5月15日

2 必要がある場合は，学長は学部長会の意見を聴いて前項の休業日を変更することができる。

- 3 第1項に定めるもののほか、学長は学部長会の意見を聴いて春期休業日、夏期休業日、冬期休業日及び臨時の休業日を定めることができる。
- 4 学長は、特別の必要がある場合は、学部長会の意見を聴いて休業日を授業を行う日に変更することができる。

## 第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第12条 修業年限は、4年とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、大学入学資格を有した後、大学の学生以外の者として、本学の一定の単位を修得し、本学に入学する場合において、本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該単位数その他の事項を勘案し、2年を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

(在学年限)

第13条 学生は、8年を超えて在学することができない。

- 2 第20条、第21条及び第22条の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。
- 3 第1項及び第2項の規定にかかわらず、同一学年に3年を超えて在学することができない。

## 第7章 入学

(入学時期)

第14条 入学の時期は、学期の始めとする。

(入学資格)

第15条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他大学に入学した者であって、当該者をその後に入学者させる本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

(入学者選考)

第16条 本学に入学を志願する者は、入学願書と別に定める入学検定料及び所定の書類を添えて、

期日までに提出するものとする。

2 前項の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第 17 条 前条の選考の結果に基づき合格した者は、所定の期日までに、別に定める学生納付金を納入し、保証人の連署する誓約書その他所定の書類を提出するものとする。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第 18 条 学生は、在学中、保証人を置くものとする。

2 保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で、学生の在学中の身上に関し責任を負いうる者とする。

(変更届)

第 19 条 学生は、氏名、現住所の変更及び保証人の変更若しくはその現住所に変更があったときは、速やかに届け出るものとする。

(転部、転科)

第 19 条の 2 本学に在籍する学生で、転学部、転学科を願い出た者については、欠員のある場合に限り、学長はこれを許可することができる。

2 転学部、転学科に関する規則は別に定める。

(編入学、転入学)

第 20 条 次の各号の一に該当する者で、本学への編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

(1) 他の大学の 2 年次を修了した者

(2) 短期大学を卒業した者又は高等専門学校を卒業した者

(3) 学校教育法施行規則附則第 7 条に規定する者

2 他の大学の学生で、本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

3 前 2 項の規定により編入学又は転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部又は一部を算入する。

4 編入学及び転入学に関する規則は別に定める。

(学士入学)

第 21 条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

(1) 本学を卒業した者

(2) 他の大学を卒業した者

2 学士入学に関する規則は別に定める。

(再入学)

第 22 条 本学を退学した者又は除籍された者で、再入学を志願する者があるときは、学長は事情を考慮した上、相当年次に入学を許可することができる。ただし、懲戒による退学者及び第 41 条第 1 項第 2 号及び第 4 号並びに第 5 号の規定により除籍された者の再入学は許可しない。

2 再入学に関する規則は別に定める。

## 第 8 章 教育課程及び履修方法等

(教育課程編成方針)

第 23 条 教育課程は、学則第 2 条の 2 に規定する学部の教育研究上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。

(授業科目区分)

第 23 条の 2 授業科目を分けて、教養科目及び専門科目及び教職課程に関する科目とする。

(教育課程編成方法)

第 24 条 教育課程は、各授業科目を必修科目、指定科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(授業科目及び履修方法)

第 25 条 授業科目及びその単位数は、別表第 1、別表第 2、別表第 3、別表第 4、別表第 5、別表第 6 及び別表第 7 のとおりとする。

2 授業科目の履修方法は別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第 25 条の 2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価並びに卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(授業の方法)

第 25 条の 3 授業は、講義、演習、実技、実験、実習若しくは製図のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる（以下「オンライン授業」という）。

3 前項に必要な事項は別に定める。

(特別専門学修プログラムの履修)

第 25 条の 4 第 25 条の規定にかかわらず、教育上有益であると認めるときは、学生が所属する学部若しくは学科に係る分野以外の特定分野又は特定課題若しくは融合分野に関する授業科目で構成する体系的な学修プログラム（以下「特別専門学修プログラム」という。）を開設することができる。

2 前項の規定により特別専門学修プログラムを履修し、所定の単位を修得した者については、その学修の成果を認定することができる。

3 特別専門学修プログラムに関する規則は、別に定める。

(単位計算方法)

第 26 条 授業科目の単位計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準による。

(1) 講義及び演習は、15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実技、実験、実習及び製図は、30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を考慮して単位数を定めるものとする。

(授業期間)

第 27 条 一年間の授業を行う期間は、35 週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、13 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

(単位授与)

第 28 条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第 29 条 授業科目の成績は、A、B、C、D の 4 段階により表示し、A、B、C を合格とし D は不合格とする。

(他大学等における授業科目履修等)

第 30 条 教育上有益と認めるときは、他大学等との協議に基づき、学生に当該他大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修し修得した授業科目の単位を、60 単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 30 条の 2 教育上有益と認めるときは、大学以外の教育施設等における学修のうち文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、前条第 2 項により本学において修得したもののみならず単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位取扱)

第 31 条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において修得した単位を、本学において修得したものとして認定することができる。

2 前項の単位の認定は、編入学の場合を除き、第 30 条及び第 30 条の 2 の規定により認める単位数と合せて 60 単位を超えない範囲で行うことができる。ただし、修業年限の短縮は行うことができない。

(進級)

第 32 条 上級年次に進級するための条件を定めることができる。

(卒業必要単位数)

第 33 条 卒業に必要な単位数は、別に定める所定の単位を含め、124 単位以上とする。

(教育職員免許状)

第 34 条 本学において、取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

工学部

機械工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
宇宙・半導体工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
先端材料工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
電気電子工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
応用化学科	理科	高等学校教諭一種免許状 中学校教諭一種免許状

創造工学部

都市環境工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
---------	----	-------------

情報変革科学部

情報工学科

数学 高等学校教諭一種免許状  
中学校教諭一種免許状

認知情報科学科

情報 高等学校教諭一種免許状  
数学 高等学校教諭一種免許状  
中学校教諭一種免許状

高度応用情報科学科

情報 高等学校教諭一種免許状  
数学 高等学校教諭一種免許状  
中学校教諭一種免許状  
情報 高等学校教諭一種免許状

未来変革科学部

経営デザイン科学科

情報 高等学校教諭一種免許状

- 2 前項の教育職員免許状を取得するために履修する授業科目の種類及びその単位数は別に定める。
- 3 第1項に規定する教育職員免許状を取得するための受講手続料は別に定める。

## 第9章 休学，復学，外国留学，退学，転学及び除籍

(休学)

第35条 疾病その他やむを得ない理由により、年度内に6か月以上修学することができない者は、所定の休学願を学長に提出するものとする。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第36条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- 3 休学期間は在学期間には算入しない。

(復学)

第37条 休学した者は、休学期間が満了し、又は休学の理由が解消したときは、遅滞なく所定の復学願を学長に提出するものとする。

(外国留学)

第38条 本学の学生が外国の大学等の授業科目を履修するため、留学を志願し学長に願い出た場合、学長は、教育上有益と認めるときはこれを許可することができる。

- 2 留学した期間は、第13条に定める在学期間に含める。
- 3 留学して履修した授業科目について修得した単位については、第30条第2項に準じて卒業の要件となる単位として含めることができる。
- 4 留学に関する規則は別に定める。

(退学)

第39条 退学しようとする者は、所定の退学願を学長に提出するものとする。

(転学)

第39条の2 他の大学に転学しようとする者は、所定の転学願を学長に提出するものとする。

(休学，復学，退学及び転学許可)

第 40 条 休学，復学，退学及び転学については，学長がこれを許可することができる。

(除籍)

第 41 条 次の各号の一に該当する者は，学長が除籍する。

- (1) 所定の学生納付金を滞納し，督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間の限度を超過した者
- (3) 休学期間の限度を超過した者
- (4) 長期間行方不明の者
- (5) 休学による場合を除き，同一学年に 3 年在学してなお進級できない者

## 第 10 章 卒業及び学位

(卒業)

第 42 条 本学に 4 年(第 20 条, 第 21 条及び第 22 条により入学した者は, 在学すべき年数)以上在学し, 第 33 条に定める単位数を取得したものは, 教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定し, 卒業証書・学位記を授与する。

2 前項の規定にかかわらず, 本学の学生として 3 年以上在学し, 学部の定める卒業要件を優秀な成績で修得したと認める場合, 3 年以上の在学で卒業を認めることができる。

(学位)

第 43 条 本学を卒業した者に授与する学位は次のとおりとする。

工学部	学士 (工学)
創造工学部	学士 (工学)
先進工学部	学士 (工学)
情報変革科学部	学士 (工学)
未来変革科学部	学士 (工学)

## 第 11 章 賞罰

(表彰)

第 44 条 学業優秀な者及び課外活動等において顕著な功績のあった者は, 選考の上, 表彰することができる。

2 前項の選考に関する取扱いは別に定める。

(懲戒)

第 45 条 本学則に違反し又は学生としての本分に反する行為のあった者は, 教授会の意見を聴いて, 学長が懲戒する。

2 懲戒は, 訓告, 譴責, 停学及び退学とする。

3 前項の退学は, 次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがない者
- (2) 本学の秩序を乱し, その他学生としての本分に著しく反した者

## 第 12 章 研究生，科目等履修生，特別聴講学生及び外国人留学生等

(研究生)

第 46 条 本学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者があるときは，学部の教育・研究に支障のない場合に限り，学長は研究生として許可することができる。

2 研究生に関する規則は別に定める。

(科目等履修生)

第 47 条 本学の授業科目の履修又は受講のみを志願する者があるときは，学部の教育に支障のない場合に限り，学長は科目等履修生として許可することができる。

2 科目等履修生に関する規則は別に定める。

(特別聴講学生)

第 48 条 他の大学又は短期大学との協定に基づき，本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは，学長は特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生に関する規則は別に定める。

(外国人留学生等)

第 49 条 日本国以外の国籍を有する者で，第 15 条に定める入学資格がある者は，選考のうえ，外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては，第 25 条に定めるもののほか，日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

日本語科目及び日本事情に関する科目については，別表第 7 のとおりとする。

3 日本国籍を有し，外国において相当の中等教育を受けた者で，第 15 条に定める入学資格がある者については前項を準用する。

4 外国人留学生等に関する規則は別に定める。

## 第 13 章 入学検定料及び学生納付金等

(入学検定料，学生納付金)

第 50 条 入学検定料は，別表第 8 の 1 のとおりとする。

2 学生納付金は，別表第 8 の 2 のとおりとする。

(学生納付金の納入)

第 51 条 学生納付金は，所定の期日までに納入するものとする。

2 学生納付金の納入に関する規則は，別に定める。

(研究生及び科目等履修生申込手数料等)

第 52 条 研究生の審査料及び科目等履修生の申込手数料等は別に定める。

(納付金不還付)

第 53 条 既納の入学検定料，学生納付金，審査料等は返還しない。

## 第 14 章 公開講座

(公開講座)

第 54 条 社会人の教養を高め，文化の向上に資するため，本学に公開講座を開設することができる。

## 第 15 章 学則の変更

(学則変更)

第 55 条 本学則の変更は、理事会の議決を経るものとする。

### (2) 履修規程

(目的)

第 1 条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第 25 条第 2 項の規定に基づき、千葉工業大学工学部（以下「工学部」という。）における授業科目の履修等の取り扱いについて定めることを目的とする。

(授業科目の区別)

第 2 条 授業科目は、その内容により教養科目、専門科目及び教職課程に関する科目に区分する。

2 教養科目は、教養基礎科目、教養共通科目及び教養特別科目の分野で構成し、分野毎に次のとおり詳細な分類を設定する。

分野名	分類名
教養基礎科目	コミュニケーションスキル
	情報リテラシー
	人間力養成
教養共通科目	国際理解
	人間・社会・自然の理解
	総合
教養特別科目	分類なし

3 専門科目は、専門基礎科目、専門基幹科目及び専門展開科目の分野で構成する。

4 教職課程に関する科目は別に定める。

(授業科目の種別)

第 3 条 教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に区分し、これを各年次に配当して編成する。

(1) 必修科目は、全科目を履修し、単位を修得するものとする。

(2) 選択科目は、該当年次において、所定の科目数又は単位数以上を任意に選択履修し、単位を修得するものとする。

(授業の方法)

第 3 条の 2 学則第 25 条の 3 第 2 項に基づく、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる科目は、対面による授業に相当する教育効果を有すると認められる授業を「オンライン授業」と称し、学科毎にそれぞれ原則 40 単位までを上限として、工学部で選定する。

2 前項で規定するオンライン授業の詳細事項は別に定める。

(単位計算方法)

第 4 条 授業科目の単位計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修

等を考慮して、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習は、15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。
  - (2) 実技、実験、実習及び製図は、30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって 1 単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を考慮して単位数を定めるものとする。

(授業科目の履修方法及び履修登録)

第 5 条 授業科目を履修しようとする者は、所定の手続きにより、当該学期の履修登録期間として事前に指定された期間内に登録するものとする。なお、不合格により、再度同一の授業科目を履修登録するときも同様とする。

- 2 前項の手続きを経ない授業科目は、試験等に合格した場合においても単位を修得することができない。
- 3 既に単位を修得した授業科目は、再度履修登録することができない。
- 4 専門科目群に編成される「卒業研究」は、4 年次において必ず 1 年以上履修し、修得するものとする。  
なお、学則第 42 条第 2 項の規定に基づき、3 年以上の在学中で卒業を認める場合には、この限りではない。

(特別専門学修プログラムの履修)

第 5 条の 2 学則第 25 条の 4 の規定に基づき、特別専門学修プログラムを履修しようとする者は、所定の期間に指定された方法により教務委員会に申請を行い、教務委員会は、教授会の意見を聴いたうえで、履修可否を決定する。なお、履修可能な特別専門学修プログラムのコースは、入学年度毎に○学部において定めるものとする。

- 2 前項の規定により、特別専門学修プログラムの履修を許可された者の特別専門学修プログラム修了の要件は、当該プログラムコース毎に定められる修了の要件に従うものとする。
- 3 第 1 項の規定により、修得した単位については、○学部の卒業要件に算入しない。
- 4 第 2 項の規定により、当該プログラムコースを修了した者には、その学修の成果を認定し、「特別専門学修プログラム修了認定書」に当該プログラムコース名を併記して発行する。

(履修登録単位数の上限)

第 6 条 1 年間に履修登録できる単位数については、その教育効果に配慮し、40 単位を上限とする。ただし、学則第 20 条の規定により本学に編入学した者又は工学部が教育上において特別な事情により必要であると認める場合は、この限りではない。

- 2 前項の規定に関わらず、次の授業科目は、年間の履修登録できる単位数上限に含めないものとする。
  - (1) 他大学の授業科目
  - (2) 外部資格による「認定」の科目
  - (3) 各学科が開講する専門特別講義
  - (4) 教職関連科目
  - (5) 初年次教育
  - (6) キャリアデザイン 1・2・3
  - (7) 教養特別科目分野に配当する科目
  - (8) 補習授業として開講されている科目（クラス）
  - (9) 特別専門学修プログラムとして開講されている科目

(教養共通科目の履修)

第7条 教養共通科目に編成される授業科目については、卒業時まで次のとおり定める要件を満たすように履修し、20単位以上を修得しなければならない。

分類	必要単位数	修得要件
国際理解	8	全ての必修科目を修得し、選択2科目の中から1科目以上を修得していること。
人間・社会・自然の理解	10	1・2年次開講科目から指定される科目(学部指定科目群1)で3科目以上、3・4年次開講科目から指定される科目(学部指定科目群2)で2科目以上を修得していること。
総合	2	「課題探究セミナー」及び「総合学際科目」の中から、1科目以上を修得していること。

2 前項に定める各学部指定科目群については、入学年度毎に工学部において定めるものとする。

(クラス指定のある授業科目の履修)

第8条 クラス指定のある授業科目は、指定クラス以外での履修を原則として認めないものとする。

(試験)

第9条 試験は、共通試験又は講義内試験のいずれかの形態により行うものとする。

2 前項の規定に基づき実施された試験を次の理由により欠席した場合には、追試験の申請を行うことができる。ただし、実施に関しては、当該科目責任者が決定するものとする。

- (1) 身体的な疾患並びに外傷によるもので、医師の診断書があるもの。
- (2) 2親等までの親族に係る忌引によるもので、会葬礼状等の証明できる書類があるもの。
- (3) 交通機関の遅延に伴うもので、遅延を証明できる書類があるもの。
- (4) その他、当該科目責任者が特別な理由により止むを得ないと認めるもの。

(単位授与及び成績の評価)

第10条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える。ただし、当該学期に授業科目を履修した者が、当該学期の学生納付金の滞納に伴って、学則第41条第1項第1号の規定により除籍となった場合には、当該学期の履修を全て取り消す。

2 授業科目の成績評価及びGPA(Grade Point Average)ポイントは、次の評点区分に基づき行う。ただし、S評価については、GPAポイントの運用上で必要な成績評価として、学内でのみ使用するものとする。

評点区分	表示記号	評価	GPA ポイント
100点～90点	S	合格	4
89点～80点 (但し、証明書においては100点～80点)	A		3
79点～70点	B		2
69点～60点	C		1
59点以下	D	不合格	0
大学が認定するもの	認定	合格	—
各学科が特定科目について合格と判定するもの	合格	合格	—
各学科が特定科目について不合格と判定するもの	不合格	不合格	—

3 前項に規定する GPA ポイントについては、学生の成績を総合的に評価するための値として、前項の評点区分に基づき、全学期の平均点となる累積 GPA 及び当該学期における平均点となるセメスター GPA を算出し、適切な修学指導及び進路指導を行うために使用する。

4 前項に規定する各種 GPA の算出方法は、入学年度毎に工学部において定めるものとする。

5 前項に規定する GPA ポイントについて、次の授業科目は、ポイント計算に含めないものとする。

- (1) 他学科、他学部、他大学及び特別専門学修プログラムの授業科目
- (2) 外部資格による「認定」の科目
- (3) 教職関連科目
- (4) 初年次教育
- (5) キャリアデザイン1・2・3
- (6) ソーシャルアクティブラーニング・国内インターン・国際インターン・ボランティア・キャリアアップラーニング
- (7) 卒業研究

(各学科の進級資格要件及び卒業資格要件)

第11条 各学科の卒業資格要件は、4年以上在学し、教養科目から35単位以上、専門科目から89単位以上の合計124単位以上修得することを基本要件とし、更に詳細な進級資格要件及び卒業資格要件は、入学年度毎に工学部において定めるものとする。

2 前項の規定に関わらず、本学に編入学した者又は学士入学したものは進級資格要件を適用しないものとする。

3 第1項の規定に関わらず、学則第42条第2項の規定に基づき、3年以上の在学で卒業を認める場合の基準要件及び運用方法については、入学年度毎に工学部において定めるものとする。

(編入学生の単位の認定)

第12条 学則第20条に基づく編入学生の単位の認定は、「千葉工業大学編入学生の既修得単位等の認定に関する規程」により行い、当該入学年度の前期に認定する。

(他の大学等における授業科目の履修等により修得した単位の認定)

第13条 学則第30条の規定に基づく他の大学等における授業科目の履修により修得した単位は、予め各学科で選定した授業科目に限り認定する。

2 前項に規定する各学科で選定した授業科目については、年度毎に都度公開する。

(入学前の既修得単位の認定)

第 14 条 学則第 31 条の規定に基づく入学前の既修得単位は、教授会の意見を聴いた上で、当該学期に認定する。

(留学により修得した単位の認定)

第 15 条 学則第 38 条第 3 項の規程に基づく留学により修得した単位は、教授会の意見を聴いた上で、当該学期に認定する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 16 条 大学設置基準第 29 条第 1 項の規定に基づき文部科学大臣が定める学修の単位の認定は、次のとおり行う。

- (1) 大学設置基準第 29 条第 1 項の規定に基づき本学が単位を認定する技能審査等及び認定単位数は学長が別に定めるものとする。
- (2) 前号の規定の他に、各学科において特定の技能審査等による認定単位数を定めることができるものとし、その場合、該当する特定の技能審査等及びその認定単位数は、入学年度毎に工学部において定めるものとする。
- (3) 第 1 号又は前号に規定する技能審査等に合格し、単位の認定を願い出る者は、所定の用紙に当該技能審査等を修めた証明書を添付し、学長に提出するものとする。
- (4) 前号の規定に基づき願い出た単位は、卒業の要件となる単位として学長が認定する。

(認定単位数の卒業要件への算入上限)

第 17 条 第 13 条から前条の規定に基づき認定する単位数は、合わせて 60 単位を限度に卒業要件の単位として算入する。

(認定単位の評価)

第 18 条 第 12 条から第 16 条の規定に基づき認定された授業科目の成績評価は行わないものとし、「認定」として表示するものとする。

(特別講義)

第 19 条 「千葉工業大学特別講義実施要項」に基づき開講される特別講義の修得単位については、次のとおり進級資格要件又は卒業資格要件の単位として算入する。

- (1) 教養特別講義については、当該学科における教養科目群の該当分野の単位として 2 単位を限度に資格の要件に算入できるものとする。
- (2) 専門特別講義及び共通特別講義については、当該学科における専門科目群の選択科目として 4 単位を限度に資格の要件に算入できるものとする。

(規程の改廃)

第 20 条 この規程の改廃は、理事会の議決を経るものとする。

### (3) 学生納付金納入細則

(目的)

第1条 この細則は、千葉工業大学学則第51条第2項及び大学院学則第49条第2項に基づく学生納付金（以下「学納金」という。）の納入について、必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 学納金とは、入学金、授業料及び休学在籍料をいう。

(金額)

第3条 学納金の額は、千葉工業大学学則第50条第2項及び大学院学則第48条第2項による。

(納入方法)

第4条 学納金の納入方法は、銀行振込又は口座振替とする。

(納入期限)

第5条 学納金は、所定の期日までにその年度の全額を納入しなければならない。ただし、授業料は、分納することができる。

2 入学金は、入学時のみ納入するものとする。

3 納入期限は、次の各号の通りとする。なお、大学院については、前期を春学期に、後期を秋学期に読み替えるものとする。(以下、同じ)

(1) 全納者及び分納者の前期分は4月末日

(2) 分納者の後期分は9月末日

4 前項にかかわらず新入学生については、入学手続要項による納入期限とする。

5 第1項の規定にかかわらず、転入学・卒業その他特別な理由がある場合は、在籍しない学期の授業料の納入を要しないものとする。

(納入期限の延長)

第6条 経済的事由、国の修学支援制度への申請、大学院段階における授業料後払い制度への申請、あるいは災害の発生、その他やむを得ない事情により授業料の納入期限の延長を希望する学生は、本人及び保証人連署のうえ「授業料延納願書」をすみやかに学長宛に提出しなければならない。ただし、国の修学支援制度の継続申請者は、「授業料減免の対象者の認定の継続に関する申請書」の提出をもって「授業料延納願書」の提出に替えることができる。

2 前項により提出された「授業料延納願書」に基づき、学長が必要であると判断した場合は、前期分は6月末日、後期分は12月20日を限度として納入期限の延長を許可することができる。

3 前項にかかわらず、国の修学支援制度及び大学院段階における授業料後払い制度の申請をしている学生は、学長の判断により、前期分は7月末日、後期分は1月20日を限度として納入期限の延長を許可することができる。

(未納者の取扱)

第7条 財務部は、学納金の納入期限を経過しても納入しない学生については、保証人にその旨を通知し督促する。

2 前項の督促にもかかわらず納入期限より起算して1か月以上学納金を納入しない学生については、財務部は除籍対象者として名簿を作成し、教学センターに提出する。

3 教学センターは前項の除籍対象者名簿により、当該学生の所属する学科長及びクラス担任と協議のうえ学長に上程し、学長は教授会の意見を聴いて当該学生を除籍する。

4 除籍対象者であっても退学届を提出した学生は退学とし、学納金を納入した学生は除籍対象者から除外する。

5 前条第2項の規定により延納を許可された学生が、延納期間を経過しても学納金を納入しない場合、学長は教授会の意見を聴いて当該学生を除籍する。

(留年者の学納金)

第8条 留年及び休学等で学年を降下した者の学納金は、当該学生の入学年度によって定められた学納金とする。

2 修業年限を超えて在籍する者の学納金は、修業年限最終時の学納金に据え置く。

(休学者の学納金)

第9条 休学を許可された者の学納金は、休学する学期ごとに休学在籍料 100,000 円とする。

(再入学者・編入学者及び転入学者の学納金)

第10条 再入学・編入学及び転入学を許可された者の学納金は、入学許可年次の在籍生に適用される学納金とする。ただし、編入学者及び転入学者の入学金については、入学許可年度の新入学生に適用される額とする。

(学士入学者の学納金)

第11条 学士入学した者の学納金は、入学許可年次の在籍生に適用される学納金とする。ただし、他大学を卒業した者の入学金については、入学許可年度の新入学生に適用される額とする。

(海外留学者の学納金)

第12条 海外の大学等へ留学を許可された者の学納金は、入学年度に定められた学納金とする。ただし、留学により休学を許可された者の学納金は、第9条の規定にかかわらず、休学する学期ごとに休学在籍料 50,000 円とする。

(返還)

第13条 既に納入された学納金は、原則として返還しない。ただし、次の場合に限り、本人又は保証人の請求により、それぞれ該当する授業料を返還する。

- (1) 当該年度の授業料を全納又は後期分を納入した学生が、当該年度内の前期期間中に退学、卒業又は死亡した場合の後期分の授業料
- (2) 次年度の授業料を納入した学生が、当該年度内に退学又は死亡した場合の次年度授業料の全額
- (3) 入学を許可された者が、所定の期日までに入学辞退を申し出た場合の納入された授業料の全額
- (4) 国の修学支援制度や各種奨学金による学納金への充当、休学または海外留学の許可などにより、当該年度・学期の学納金に過払いが生じた場合の正規金額との差額

2 前項の他、理事長が特に認めた場合には、返還することができるものとする。

(細則の改廃)

第14条 この細則の改廃は、学内理事会の了承を経るものとする。

## 第10章 キャンパスマップ

津田沼キャンパス	179
新習志野キャンパス	180
茜浜運動施設	181

### 津田沼キャンパス

〒 275-0016 千葉県習志野市津田沼 2 丁目 17 番 1 号

### 新習志野キャンパス

〒 275-0023 千葉県習志野市芝園 2 丁目 1 番 1 号

### 茜浜運動施設

〒 275-0024 千葉県習志野市茜浜 3 丁目 4 番 10 号

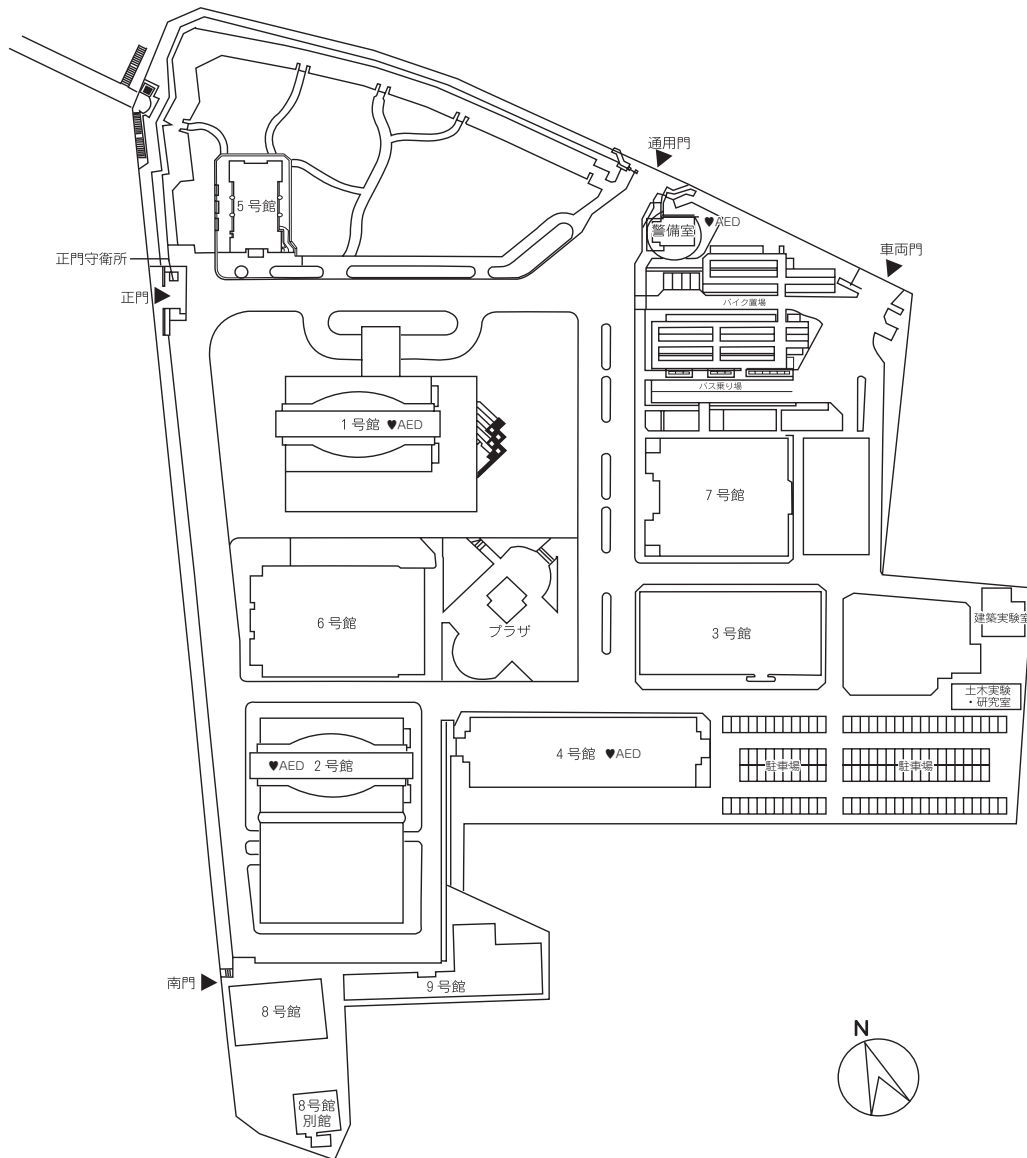
施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

# 津田沼キャンパス



1号館	1F	学生担当, 教務担当, 保健室	6号館	1F~5F	講義室
	2F	就職担当, 会計担当, 情報システム担当, PPA	7号館	1F	演習室, 会計担当 (検収室)
	3F	製図室, 演習室, 研究室		2F	演習室
	4F	実験室, 研究室		3F	講義室, 演習室
	5F~19F	研究室		4F	講義室
2号館	1F~19F	研究室, 実験室		5F~9F	研究室, 実験室, 演習室
3号館	1F	食堂	8号館	1F~8F	研究所, 実験室, 研究室
	2F	購買, ラウンジ	9号館	1F~3F	実験室
4号館	B2F	部室 (スタジオ)	8号館別館	1F	実験室
	B1F	工作センター, 解析センター			
	1F	ラウンジ, 談話室			
	2F~6F	研究室, 実験室, 講義室, 研究所			
	7F~9F	部室			
5号館	1F	図書館			
	2F	図書館			
	3F	図書館			
	4F	図書館			

※ 各教員の研究室は次のサイトから検索できます。

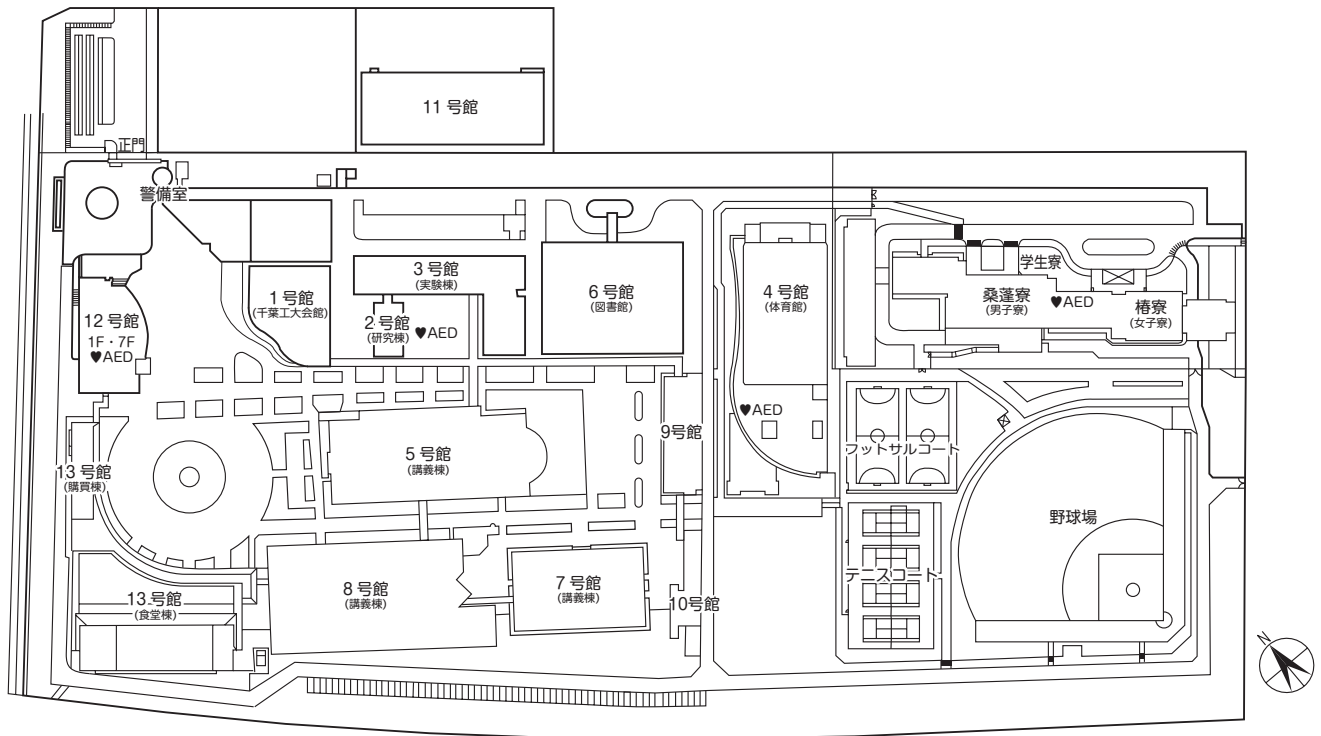
【千葉工業大学研究者情報】

<https://www.lib.it-chiba.ac.jp/cithp/KgApp>



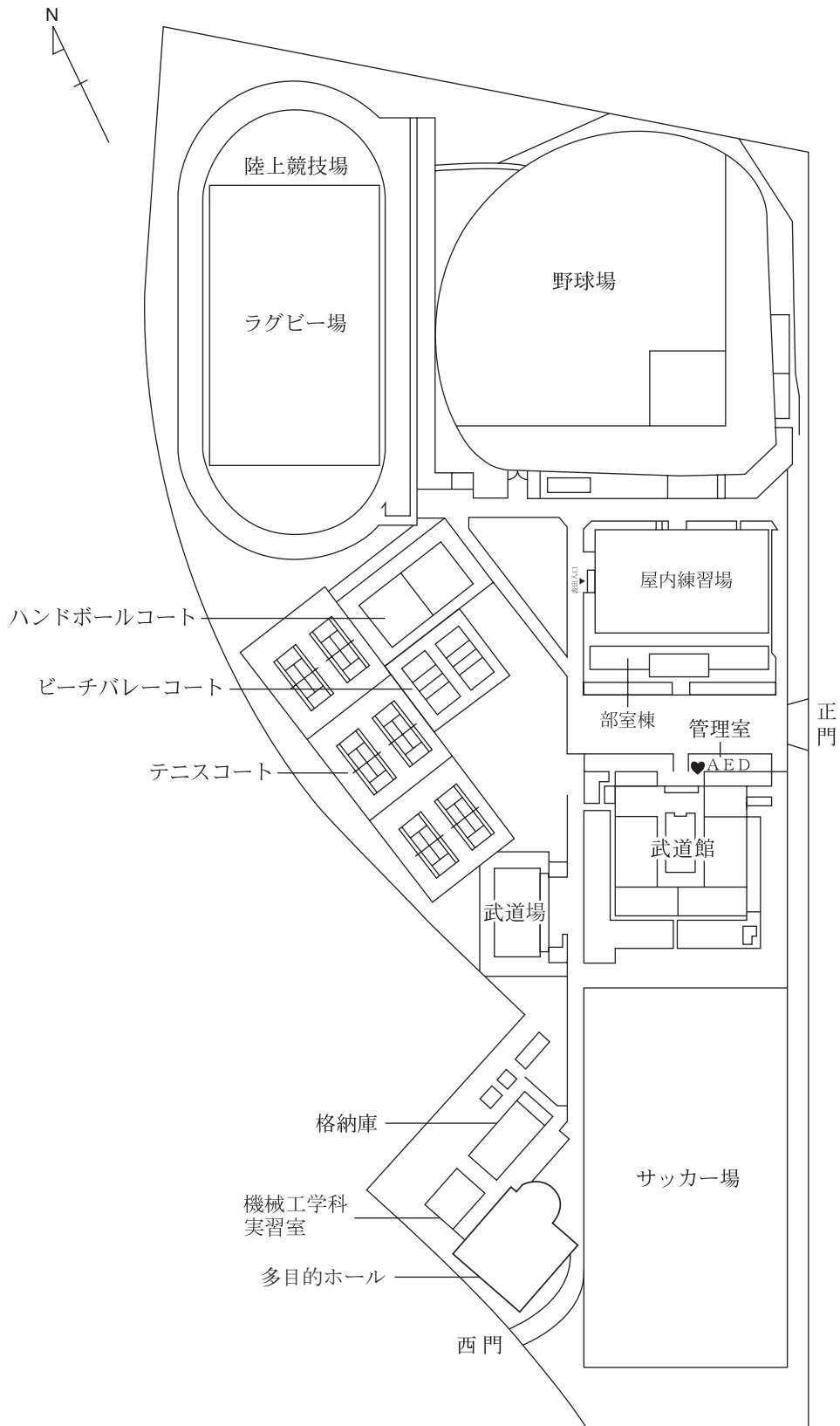
目次へ戻る

# 新習志野キャンパス



1号館	1 F	大講義室
2号館 (研究棟)	1 F	教育センター事務室
	2 F ~ 9 F	教員研究室
3号館 (実験棟)	1 F	化学実験室
	2 F	物理実験研究室, 化学実験研究室, 教員研究室, 演習室
	3 F	物理実験室, 製図室
4号館 (体育館)	1 F	アリーナ, トレーニングルーム
5号館 (講義棟)	1 F	講義室, 掲示板
	2 F ~ 3 F	講義室
6号館 (図書館)	1 F	図書館
	2 F	図書館
7号館 (講義棟)	1 F	講義室, 演習室
	2 F	講義室
8号館 (講義棟)	1 F	講義室, 演習室
	2 F	講義室, 講師控室
10号館	1 F · 2 F	学生サポートセンター
11号館	1 F	演習室 1
	2 F	演習室 2
	3 F	工作室
12号館	1 F	学生担当, 教務担当, 保健室
	2 F	学生相談室, 自習室, 講師控室, グローバルラウンジ
	3 F	工作実習室, 教室兼実習室
	4 F	学生自由工作室, 各科共用工作室
	5 F	各科共用製図室, 教員研究室
	6 F	各科共用製図室
	7 F	アスレチックジム, ミニバスケット, スカッシュコート, 卓球, フリークライミング
	8 F	ラウンジ
13号館 (食堂棟)	1 F	食堂
	2 F	食堂
	3 F	多目的ホール
(購買棟)	1 F	書籍 他
	2 F	文具 他

# 茜浜運動施設



施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

施設の利用について

就職について

諸規程について

キャンパスマップ

**学生便覧** (2026 年度)  
(工学部)

2026 年 4 月 1 日 発行 (非売品)

編集者 **千葉工業大学**

発行者 **千葉工業大学**

(〒 275-0016) 千葉県習志野市津田沼 2 丁目 17 番 1 号

TEL 047-478-0234

印刷所 株式会社 **リブラス**

(〒 170-0003) 東京都豊島区駒込 1-37-9 エルエスビル 4F

TEL 03-5978-6366



# 千葉工業大学校歌

撰歌 佐々木信綱

作曲 朝永研一郎



ならしのは わかくさもえて しお かげに におえるきぼー



う み よ この だいちこの あおーぞら を ま な び の



の はて なくひろ くーし ん りの ひ さん とかがやけ



り こう だい こう だい ち ば こう だい

(1) 習志野は 若草もえて  
潮風に 匂える希望  
見よ この大地 この青空を  
学びの野 はてなく広く  
真理の陽 <sup>さん</sup> 燦と輝けり  
工大 工大 千葉工大

(2) わが国の 文化も富も  
興すべき 任務は重し  
見よ この気魄 この手力を <sup>たちから</sup>  
高く立つ 誉の旗へ  
撥刺と <sup>はつらつ</sup> 吾ら進むべし  
工大 工大 千葉工大

(3) 精励に いそしみ集ふ  
新しき 科学の使徒と  
見よ この師友 この学園を  
栄光の 門出の朝の  
日は昇る 大き海洋を <sup>わだつみ</sup>  
工大 工大 千葉工大